

いわき市立 美術館年報

平成 28 年 度

目 次

沿 革	2
展覧会事業	3
常設展	3
企画展	8
女性を描く—クールベ、ルノワールからマティスまで—	8
田口安男—描線と色彩の間—	11
明治有田 超絶の美 万国博覧会の時代	17
招き猫亭コレクション 猫まみれ展	24
川島清—彫刻の黙示	30
小企画展	33
いわき市小・中学生版画展	33
NEW ART SCENE IN IWAKI 久保木桂子展	35
共催展	36
第46回いわき市民美術展覧会	36
普及事業	39
移動美術館	39
講演会	41
美術講座	41
ギャラリー トーク	42
ワークショップ	42
実技講座	43
公開制作	44
映像鑑賞会	45
コンサート&パフォーマンス	45
出版	45
実技講習室の公開	46
図書室の公開	46
実習生の受け入れ	47
共催事業	47
所蔵資料	48
美術品収蔵状況	48
美術品貸出状況	49
所蔵資料等に関する状況	50
新収蔵作品	51
管理・運営	68
美術館関係法規	68
いわき市立美術館条例	68
美術館関係法規	70
いわき市立美術館管理規則	70
利用者一覧	74
平成28年度当初予算	76
名簿	77
施設案内	78
利用案内	79

沿革

昭和53年 2月	いわき市民ギャラリー主催による「ヘンリームーア展」が開催され盛況をおさめたことが市民の反響をよび、市立美術館建設の機運が高まる
昭和53年 6月	市総合計画の中で、前期に美術館建設計画を盛り込む
昭和54年 5月	美術館建設基本構想委員会を設置、委員 6 人を委嘱
昭和54年 8月	同委員会より美術館の基本構想について答申
昭和54年11月	基本構想を具体的に検討するため、市民20名による美術館建設審議会を設置
昭和55年 3月	美術品選定評価委員会を設置、委員 5 名を委嘱
昭和55年 9月	美術館・博物館建設準備室を設置
昭和55年 9月	美術館建設審議会から美術館建設について答申
昭和55年10月	基本設計は、指名競争設計方式で行うことを決める
昭和56年 1月	美術館建設基本設計審議会を設置、委員14名を委嘱
昭和56年 1月	同委員会で佐藤武夫設計事務所の案を選定
昭和56年 9月	美術館実施計画書の提出
昭和56年12月	市議会で美術館工事請負契約を決議
昭和56年12月	建設工事着工
昭和58年11月	竣工
昭和58年12月	市議会において美術館条例を決議
昭和59年 4月	美術館組織発足
昭和59年 4月28日	開館
昭和59年 4月29日	一般公開
昭和59年10月10日	いわき市立美術館友の会発足
平成 3年 4月	常設展の観覧料を祝日無料とする
平成 4年 4月	企画展の観覧をもって常設展観覧無料とする 7 月、8 月の金曜日の夜間開館開始
平成 4年10月	美術館協議会より「いわき市立美術館振興策」が提出される
平成 5年 1月	毎月第 2 土曜日を小中学生の常設展の観覧無料とする
平成 7年 4月	毎月第 2、第 4 土曜日を小中学生の常設展の観覧無料とする
平成12年 3月	美術館協議会より「いわき市立美術館第 2 次振興策」が提出される
平成14年 4月	障害者、高齢者の観覧を無料とする。また、児童生徒などが土曜日、日曜日に観覧する場合、および学校の教育活動などで観覧する場合の観覧料を無料とする
平成15年 9月～12月	大規模改修工事（休館）
平成19年 3月～ 7月	アスベスト除去工事（休館）
平成23年 3月11日	東日本大震災
平成25年 9月～平成26年11月	空気調和設備改修工事（休館）
平成28年 4月	行政組織の改革等に伴い文化スポーツ業務が市長部局に移管。美術館事業は補助執行により市長部局文化振興課の所管となる



美術館外観

今日の美術 —ART TODAY（前期・後期）—

年間を前期と後期に分けて、1945年以降の内外の良質な美術といわきゆかりの美術を柱とした当館のコレクションを半年ごとに紹介すると同時に、それぞれの会期により多くの鑑賞者の共感を得られるようなテーマ設定による2つの小企画（3か月間）を併せて展開することにより、魅力のある常設展の運営に努めた。

前期の「絵画のすがた」では、ルーチョ・フォンタナ《空間概念一期待》、イヴ・クライン《火の絵画》など、絵画をかたちづくるカンヴァスや絵の具そのものが主役となり、直接見る者の「目」や「心」を刺激する新しい美術の在り方を示す作品を展示した。

後期の「アートの新境地」では、カオスの渦が発する熱気が画面に迸るアンフォルメル（非定型の芸術）、戦後の急速な工業化から新たな

リアリズムを模索したヌーボーレアリズム、大量消費社会、大衆文化から日常とアートを結びつけたポップ・アートなど、20世紀後半の美術が切り拓いたアートの新境地をダイジェストで紹介。そのダイナミックな展開を楽しんでいた。

前期には、作家の私的な心象世界が表われた作品を集めた小企画「わたしの風景」と大宮昇のスケッチブック《炭鉱》など常磐炭鉱関係の新収蔵作品を中心とした小企画「常磐炭鉱〜スケッチブックの記憶〜」を開催。また、後期では、同時開催の企画展「猫まみれ展」に併せた「不思議な動物たち」、文字が絵画の要素となった作品を集めた「文字と絵画の結婚」のそれぞれ2つ小企画を開催した。

会 期 前期Ⅰ 2016年 4月 1日（金）～2016年 6月26日（日）
 前期Ⅱ 2016年 6月28日（火）～2016年 9月25日（日）
 後期Ⅰ 2016年 9月27日（火）～2016年12月18日（日）
 後期Ⅱ 2016年12月20日（火）～2017年 3月31日（金）

会 場 いわき市立美術館 常設展示室

主 催 いわき市立美術館



後期Ⅰ会場風景

作品リスト

No.	作家名	生没年	作品名	制作年	たて×よこ×高さ(cm)	素材・技法
-----	-----	-----	-----	-----	--------------	-------

平成 28 年度 常設前期Ⅰ展出品リスト (平成 28 年 4 月 1 日～平成 28 年 6 月 26 日)

■美術館へようこそー絵画のすがたー

1	ルーチョ・フォンタナ	1899 - 68	空間概念ー期待	1959 - 60	80 × 100	水性塗料・カンヴァス
2	エンリコ・カステッラーニ	1930	無題	1960	130 × 307	カンヴァス、釘
3	イヴ・クライン	1928 - 62	火の絵画	1961	132 × 64	焦げた厚紙、板
4	ジョfrey・ヘンドリックス	1931	二つのキャンヴァス面合わせ # 24	1967	101.5 × 76.3	アクリル彩・カンヴァス
5	ヴィクトル・ヴァザルリ	1906 - 97	T A V A S	1967 - 68	101 × 101	テンペラ・カンヴァス
6	ヴィクトル・ヴァザルリ	1906 - 97	C.T.A.—103 — A	1965	160 × 160	油彩・カンヴァス
7	ヘスス・ラファエル・ソト	1923	トリプティコ 黄	1978	204 × 204	木・金属
8	ブリジット・ライリー	1931	ラー	1981	240 × 205.3	油彩・リンネル
9	ブリジット・ライリー	1931	オルフェウス悲歌 I	1978	145 × 130	アクリル彩・リンネル
10	高松次郎	1936 - 98	影 (A)	1964	211 × 168 × 12	油彩・合板
11	高松次郎	1936 - 98	点	1961	61.8 × 42	油彩・カンヴァス
12	高松次郎	1936 - 98	点	1962	27.5 × 22.5	紐、ラッカー・木
13	河口龍夫	1940	関係 質	1988	180 × 301	布、銅、液体
14	河口龍夫	1940	DARK BOX 1975	1998	35 × 60 × 37	鉄、闇
15	河口龍夫	1940	DARK BOX 2011	2011	35 × 60 × 37	鉄、闇、闇への鉛の封書
16	中村一美	1985	奥から前面への植樹	1985	250 × 270	油彩・カンヴァス
17	辰野登恵子	1936 - 14	UNTITLED 95-8	1995	218 × 80.3	油彩・カンヴァス
18	小林正人	1959	No Title	1995	202 × 294	油彩・カンヴァス
19	村上友晴	1938	untitled	1982 - 83	162 × 130.5	油彩・カンヴァス
20	狗巻賢二	1943	作品 92 - 2	1992	54 × 39	油彩・カンヴァス
21	狗巻賢二	1943	作品 92 - 11	1992	54 × 39	油彩・カンヴァス
22	佐藤忠良	1912 - 11	帽子・あぐら	1973	86.5 × 65.5 × 54.5	ブロンズ
23	木内 克	1892 - 97	座裸婦	1981	122 × 66.5 × 52.5	ブロンズ
24	ジャコモ・マンズー	1908 - 91	枢機卿座像	1959	105 × 76 × 68	ブロンズ

■小企画 わたしの風景

25	ホルスト・アンテス	1980	ホビの年	1980	70.5 × 194.4	アクリル彩・紙
26	レオナルド・クレモニーニ	1925 - 10	普通列車	1965	73.5 × 144.3	油彩、アルミニウム板・カンヴァス
27	アンディ・ウォーホル	1928 - 87	ジャッキー	1965	101.4 × 76.2	シルクスクリーン・紙
28	アンソニー・グリーン	1939	自転車競技選手	1976	138 × 305	油彩・板
29	F. フンデルトワッサー	1928 - 00	ポフツカワの木と移ろう恋ーパースでの一週間	1972	68.6 × 96.5	ミクストメディア・ファイバーボード
30	玉川信一	1905	二人の風景	1983	130 × 162	油彩・カンヴァス
31	鈴木芳子	1929 - 98	私の像	1955	155.5 × 115	紙本着彩
32	松田松雄	1937 - 01	風景 (民一 B)	1977	162 × 162	油彩・カンヴァス
33	松田松雄	1937 - 01	風景 (民一 C)	1977	162 × 162	油彩・カンヴァス
34	野田哲也	1940	日記 1968 年 6 月 24 日	1968	83.3 × 78.5	シルクスクリーン、木版・紙
35	野田哲也	1940	日記 1973 年 10 月 25 日	1973	50.6 × 71.3	シルクスクリーン、木版・紙
36	浜田知明	1917	初年兵哀歌 (歩哨)	1954	24 × 16.2	エッチング、アクアチント・紙
37	浜田知明	1917	刑場 (A)	1954	24.5 × 18.3	エッチング、アクアチント・紙
38	浜田知明	1917	刑場 (B)	1954	22 × 10.6	エッチング、アクアチント・紙
39	浜田知明	1917	いらいら (B)	1975	35.5 × 27.3	エッチング、アクアチント・紙
40	浜田知明	1917	風化する街 (A)	1977	31 × 23.2	アクアチント・紙
41	浜田知明	1917	やもり	1979	24.2 × 15.2	エッチング、アクアチント・紙
42	浜田知明	1917	行きどまり	1981	18.7 × 21	エッチング、アクアチント・紙
43	浜田知明	1917	みられている	1982	20 × 23	エッチング、アクアチント・紙
44	浜田知明	1917	カタコンベ	1982	48.7 × 35.5	エッチング、アクアチント・紙

平成 28 年度 常設前期Ⅱ展出品リスト (平成 28 年 6 月 28 日～平成 28 年 9 月 25 日)

■美術館へようこそー絵画のすがたー

1	ルーチョ・フォンタナ	1899 - 68	空間概念ー期待	1959 - 60	80 × 100	水性塗料・カンヴァス
2	エンリコ・カステッラーニ	1930	無題	1960	130 × 307	キャンバス、釘
3	イヴ・クライン	1928 - 62	火の絵画	1961	132 × 64	焦げた厚紙、板
4	ジョfrey・ヘンドリックス	1931	二つのキャンヴァス面合わせ # 24	1967	101.5 × 76.3	アクリル彩・カンヴァス
5	ヴィクトル・ヴァザルリ	1906 - 97	T A V A S	1967 - 68	101 × 101	テンペラ・カンヴァス
6	ヴィクトル・ヴァザルリ	1906 - 97	C.T.A.—103 — A	1965	160 × 160	油彩・カンヴァス

No.	作家名	生没年	作品名	制作年	たてXよこX高さ(cm)	素材・技法
7	ヘスス・ラファエル・ソト	1923	トリプティコ 黄	1978	204×204	木・金属
8	ブリジット・ライリー	1931	ラー	1981	240×205.3	油彩・リンネル
9	ブリジット・ライリー	1931	オルフェウス悲歌 I	1978	145×130	アクリル彩・リンネル
10	高松次郎	1936 - 98	影 (A)	1964	211×168×12	油彩・合板
11	高松次郎	1936 - 98	点	1961	61.8×42	油彩・カンヴァス
12	高松次郎	1936 - 98	点	1962	27.5×22.5	紐、ラッカー・木
13	河口龍夫	1940	関係 質	1988	180×301	布、銅、液体
14	河口龍夫	1940	DARK BOX 1975	1998	35×60×37	鉄、闇
15	河口龍夫	1940	DARK BOX 2011	2011	35×60×37	鉄、闇、闇への鉛の封書
16	中村一美	1985	奥から前面への植樹	1985	250×270	油彩・カンヴァス
17	辰野登恵子	1936 - 14	UNTITLED 95-8	1995	218×80.3	油彩・カンヴァス
18	小林正人	1959	No Title	1995	202×294	油彩・カンヴァス
19	村上友晴	1938	untitled	1982 - 83	162×130.5	油彩・カンヴァス
20	狗巻賢二	1943	作品 92 - 2	1992	54×39	油彩・カンヴァス
21	狗巻賢二	1943	作品 92 - 11	1992	54×39	油彩・カンヴァス
22	佐藤忠良	1912 - 11	帽子・あぐら	1973	86.5×65.5×54.5	ブロンズ
23	木内 克	1892 - 97	座裸婦	1981	122×66.5×52.5	ブロンズ
24	ジャコモ・マンズー	1908 - 91	枢機卿座像	1959	105×76×68	ブロンズ

■小企画 常磐炭鉱～スケッチブックの記憶～

25	伊沢賢一	1922 -	炭鉱の住宅	1957	53×73	鉛筆、水彩・紙
26	伊沢賢一	1922 -	炭鉱住宅	1958	53×73	鉛筆、水彩・紙
27	鈴木新夫	1915 - 80	炭鉱風景 (トロッコ)	1955 - 56	55×59	鉛筆、コンテ、水彩・紙
28	鈴木新夫	1915 - 80	古河好間炭鉱ズリ山	1956	26.3×37.9	バステル、鉛筆・紙
29	鈴木新夫	1915 - 80	炭鉱長屋 3	1955	26.5×35.5	コンテ・紙
30	鈴木新夫	1915 - 80	炭鉱長屋 4	1955	26.5×35.5	コンテ・紙
31	鈴木新夫	1915 - 80	選炭する女	1955 - 56	35.2×25.1	鉛筆、水彩、コンテ・紙
32	若松光一郎	1915 - 95	石炭を運ぶ人	1956	65×50.2	コンテ、木炭・紙
33	若松光一郎	1915 - 95	五月のヤマ (小田炭鉱)	1957	32×40.7	水彩、鉛筆・紙
34	若松光一郎	1915 - 95	磐城炭鉱内郷住吉ズリ山風景	1946	30.5×40.4	コンテ・紙
35	鈴木芳子	1929 - 98	炭鉱長屋	1957	29.5×23.5	鉛筆、クレヨン・紙
36	鈴木芳子	1929 - 98	炭鉱長屋 (こいのぼり)	1957	29.5×23.5	鉛筆、クレヨン・紙
37	吉井 忠	1902 - 99	イワキ炭坑 (切羽)	1956	30×25	鉛筆・紙
38	吉井 忠	1902 - 99	イワキ炭坑 (坑内 2)	1956	30×25	鉛筆・紙
39	吉井 忠	1902 - 99	イワキ炭坑 (昼)	1956	25×30	鉛筆・紙
40	竹谷富士雄	1907 - 84	路次・いわき	1956	52.8×38.5	コンテ、油彩・紙
41	鳥居敏文	1908 - 07	炭坑の町にて	1956	50×60.6	油彩・カンヴァス
42	鳥居敏文	1908 - 06	炭坑の町	1959	53×65.2	油彩・カンヴァス
43	若松光一郎	1915 - 95	坑夫たち	1957	145.5×118	油彩・カンヴァス
44	若松光一郎	1915 - 95	秋景	1948	96.4×130	油彩・カンヴァス
45	中谷 泰	1909 - 93	春雪	1960	91×100	油彩・カンヴァス
46	中谷 泰	1909 - 93	炭坑町	1958	100×91	油彩・カンヴァス
47	遠藤正三	1907 - 82	洗浄筒のある風景	1954	80.3×100	油彩・カンヴァス
48	遠藤正三	1907 - 82	バケット・エレベーター	1952	130.2×96.8	油彩・カンヴァス
49	中島保彦	1921 - 84	炭鉱地帯	1960	60.8×72.7	油彩・カンヴァス
50	大宮 昇	1901 - 73	ドリルを持つ男	1942 年頃	11×15.5	リトグラフ・紙
51	大宮 昇	1901 - 73	炭山図	1936 年頃	41.5×55.5	リトグラフ・紙
52	大宮 昇	1901 - 73	炭山図	1936 年頃	41×52.8	リトグラフ・紙
53	大宮 昇	1901 - 73	小さき苗	不詳	39×52.9	リトグラフ・紙
54	大宮 昇	1901 - 73	『炭山画譜 大宮昇創作石版画集』	1936 年頃	38.2×26.5	リトグラフ・紙
55	大宮 昇	1901 - 73	磐城炭鉱町田坑 専用鉄道と貨車	1935	28.6×22.3	コンテ、色鉛筆、水彩・紙
56	大宮 昇	1901 - 73	ポンプ座	1935	28.7×22	コンテ、墨、水彩・紙
57	大宮 昇	1901 - 73	チップラー	1935	28.7×22	コンテ、鉛筆、水彩・紙
58	大宮 昇	1901 - 73	町田坑と竹ノ内の専用鉄道をはさんだ町並み	1935	28.7×22	コンテ、鉛筆、水彩・紙
59	若松光一郎	1915 - 95	大工	1956	45.2×37.9	鉛筆・紙
60	若松光一郎	1915 - 95	坑夫	1956	45.2×37.9	コンテ・紙
61	佐藤忠良	1912 - 11	常磐の大工	1956	21.5×14.5	セメント

No.	作家名	生没年	作品名	制作年	たて×よこ×高さ(cm)	素材・技法
平成 28 年度 常設後期Ⅰ 展出品リスト (平成 28 年 9 月 27 日～平成 28 年 12 月 18 日)						
■美術館へようこそアートの新境地ー						
1	アンディ・ウォーホル	1928 - 87	16 のジャッキーの肖像	1964	204.8 × 164	アクリル彩、エナメル、シルクスクリーン・カンヴァス
2	リチャード・ハミルトン	1922 - 11	インテリア	1964 - 65	49 × 63.6	シルクスクリーン・紙紙
3	ジェームズ・ローゼンクイスト	1933	成長計画	1960	178 × 356	油彩・カンヴァス
4	イヴ・クライン	1928 - 62	人体測定 ANT 66	1960	157 × 311	水性メディウム・紙、カンヴァス
5	セザール	1921 - 98	コンプレッション 2	1976	100.2 × 90.2	カードボード
6	クリスト	1935	Large Valley Curtain	1971	91 × 243.2	ドローイング、コラージュ・紙
7	モーリス・ルイス	1912 - 62	Gamma Beta	1960	260.4 × 551.2	アクリル彩・カンヴァス
8	ヘレン・フランケンサラー	1928	青い闘技場	1966	161 × 150.3	アクリル彩・カンヴァス
9	アンゼラム・キーファー	1945	イシス	1991	74 × 54 × 7	鉛、写真、合成樹脂、土、布、紙、陶、同線
10	河原 温	1933 - 14	OCT.19,1989	1989	66 × 91.4	アクリル・カンヴァス、新聞、ボール紙ケース
11	白髪一雄	1924 - 08	天殺星黒旋風李崑達	1962	182.5 × 273	油彩・カンヴァス
12	難波田龍起	1905 - 97	狂詩曲	1962	130 × 162	油彩、エナメル・カンヴァス
13	斉藤義重	1905 - 01	絵画 7	1960	174 × 122	油彩・合板
14	元永定正	1922 - 11	作品	1961	183 × 137.5	エナメル・カンヴァス、合板
15	杉全 直	1914 - 94	きっこう 白	1962	131 × 161.5	油彩・カンヴァス
16	李 禹煥	1936	線より	1980	182 × 227.5	岩彩・カンヴァス
17	川島 清	1951	作品 101	1989	151 × 95 × 6	鉛、鉄、鉛筆
■小企画 不思議な動物たち						
18	マルク・シャガール	1887 - 85	版画集『サカス』より、6、8、14、19、37	1967	≒ 42.5 × ≒ 32.5	リトグラフ・紙
22	アンリ・マチス	1869 - 54	白い象の悪夢 (版画集『ジャズ』より)	1947	42 × 64	ステンシル・紙
23	アンリ・マチス	1869 - 54	狼 (版画集『ジャズ』より)	1947	42 × 64	ステンシル・紙
24	アンリ・マチス	1869 - 54	ピエロの埋葬 (版画集『ジャズ』より)	1947	42 × 64	ステンシル・紙
25	アンリ・マチス	1869 - 54	カウボーイ (版画集『ジャズ』より)	1947	42 × 64	ステンシル・紙
26	パブロ・ピカソ	1881 - 73	闘牛	1959	53.7 × 66.5	リノカット・紙
27	M.C. エッシャー	1898 - 72	昼と夜	1938	39.3 × 67.7	木版・紙
28	ホルスト・アンテス	1936	ホビの年	1980	70.5 × 194.4	アクリル彩・紙
29	ロベルト・マッタ	1911 - 02	ハート・プレイヤー	1945	194.5 × 252	油彩・カンヴァス
30	ジョン・ウェスレー	1928	サイの夢	1965	97.6 × 72.3	シルクスクリーン・紙
31	F. フンデルトワッサー	1928 - 00	黒い鯨の歌	1979	57 × 43	木版・紙
32	鈴木芳子	1929 - 98	私の像	1955	155.5 × 115	紙本着彩
33	村井正誠	1905 - 99	ねこ	1958	72.8 × 61	油彩・カンヴァス
34	秋山泰計	1927 - 86	鳥をねらう猫を抱く少女	1976	84 × 43	木版・紙
35	秋山泰計	1927 - 86	夢の旅Ⅱ (象・鬼牡丹)	1985	90 × 185	木調・紙 (1987 年秋山泰計遺作管理会刷)
36	野田哲也	1940	日記 1980 年 6 月 25 日	1890	83.5 × 42.7	シルクスクリーン、木版・紙
37	斎藤 清	1907 - 97	凝視 (B)	1957	75.5 × 44.5	木版・紙
38	坪井正光	1938	G.CONNECTION “DOOR”	1987	181.8 × 227.3	アクリルエアブラシ・カンヴァス
39	村山正吉	1914 - 50	風景 A	1930 頃	129 × 161	油彩・カンヴァス
40	藪内佐斗司	1953	犬毛歩ケバ・・・	1980	600 × 120 × 60	木、鉄
41	土谷 武	1926 - 04	蟬Ⅶー a	1982	12.5 × 41 × 20	コルテン銅
42	土谷 武	1926 - 04	虫	1975	30 × 48 × 38	コルテン銅

平成 28 年度 常設後期Ⅱ 展出品リスト (平成 28 年 12 月 20 日～平成 29 年 3 月 31 日)

■美術館へようこそアートの新境地ー

1	アンディ・ウォーホル	1928 - 87	16 のジャッキーの肖像	1964	204.8 × 164	アクリル彩、エナメル、シルクスクリーン・カンヴァス
2	カレル・アペル	1921 - 06	黄色い帽子	1964	81 × 65	油彩・カンヴァス
3	ジェームズ・ローゼンクイスト	1933	成長計画	1960	178 × 356	油彩・カンヴァス
4	イヴ・クライン	1928 - 62	人体測定 ANT 66	1960	157 × 311	水性メディウム・紙、カンヴァス
5	ルーチョ・フォンタナ	1988 - 68	空間概念・期待	1959 - 60	80 × 100	油彩・カンヴァス
6	エンリコ・カステッラーニ	1930	無題	1960	130 × 307	釘、カンヴァス
7	モーリス・ルイス	1912 - 62	Gamma Beta	1960	260.4 × 551.2	アクリル彩・カンヴァス

No.	作家名	生没年	作品名	制作年	たてXよこX高さ(cm)	素材・技法
8	ヘレン・フランケンサラー	1928	青い闘技場	1966	161×150.3	アクリル彩・カンヴァス
9	アンゼルム・キーファー	1945	イシス	1991	74×54×7	鉛、写真、合成樹脂、土、布、紙、陶、同線
10	河原 温	1933 - 14	OCT.19,1989	1989	66×91.4	アクリル・カンヴァス、新聞、ボール紙ケース
11	白髪一雄	1924 - 08	天殺星黒旋風李達	1962	182.5×273	油彩・カンヴァス
12	難波田龍起	1905 - 97	狂詩曲	1962	130×162	油彩、エナメル・カンヴァス
13	斉藤義重	1905 - 01	絵画 7	1960	174×122	油彩・合板
14	元永定正	1922 - 11	作品	1961	183×137.5	エナメル・カンヴァス、合板
15	杉全 直	1914 - 94	きっこう 白	1962	131×161.5	油彩・カンヴァス
16	李 禹煥	1936	線より	1980	182×227.5	岩彩・カンヴァス
17	ニキ・ド・サンファール	1930 - 02	鏡	1980	104×152×12.5	ポリエステル、鏡

■小企画 交差する意味—文字と絵画の結婚—

18	アンリ・マティス	1869 - 54	ロワイヤル氏 (版画集『JAZZ』より)	1947	36×55	ステンシル・紙
19	アンリ・マティス	1869 - 54	イカロス (版画集『JAZZ』より)	1947	36×55	ステンシル・紙
20	アンリ・マティス	1869 - 54	剣を呑む人 (版画集『JAZZ』より)	1947	36×55	ステンシル・紙
21	アンリ・マティス	1869 - 54	すべり台 (版画集『JAZZ』より)	1947	36×55	ステンシル・紙
22	アンリ・ミショー	1899 - 84	無題	1960	78×106	インク・紙
23	サイ・トッオンブリー	1929 - 11	What Wing Can Be Held?	1960	152.5×199	鉛筆、油彩、クレヨン、色鉛筆・カンヴァス
24	ジャスパー・ジョーンズ	1930	色数字 2	1965	97.6×72.3	シルクスクリーン・紙
25	ジャスパー・ジョーンズ	1930	色数字 3	1965	97.6×72.3	シルクスクリーン・紙
26	ジャスパー・ジョーンズ	1930	色数字 5	1965	97.6×72.3	シルクスクリーン・紙
27	ジャスパー・ジョーンズ	1930	色数字 7	1965	97.6×72.3	シルクスクリーン・紙
28	ロイ・リクテンスタイン	1923 - 97	SWEET DREAMS, BABY !	1965	95.6×70.2	シルクスクリーン・紙
29	ロバート・ラウシェンバーグ	1925 - 08	Sky Garden	1969	225×106	シルクスクリーン、リトグラフ・紙
30	荒川修作	1899 - 84	意味されるもの、あるいはもしも 1	1975 - 76	60.5×90	エッチング、彩色、アクアチント・紙
31	荒川修作	1899 - 84	意味されるもの、あるいはもしも 3	1975 - 76	60.5×90	エッチング、彩色、アクアチント・紙
32	荒川修作	1899 - 84	意味されるもの、あるいはもしも 5	1975 - 76	60.5×90	エッチング、彩色、アクアチント・紙
33	荒川修作	1899 - 84	意味されるもの、あるいはもしも 7	1975 - 76	60.5×90	エッチング、彩色、アクアチント・紙
34	田淵安一	1921 - 09	三元素—風、火、水	1961	195.7×450.1	油彩・カンヴァス
35	高松次郎	1936 - 98	英語の単語	1970	79×54.5	オフセット・紙
36	高松次郎	1936 - 98	日本語の文字	1970	72.8×51.5	オフセット・紙
37	若松光一郎	1914 - 95	譚	1969	72.5×261.8	カゼインカラー、墨。カラー ジュ、和紙・カンヴァス
38	大隅英雄	1955 -	LOCUS IN THE SKY	1982	188×89×89	真鍮、ベアリング、モーター、ギヤ、制御装置

市制施行 50 周年記念 女性を描く ——クールベ、ルノワールからマティスまで——

19 世紀後半から 20 世紀前半にかけて主にフランスで活躍した画家たちが描いた女性像を取り上げた展覧会。

この時代の女性像の特徴としては、産業革命による近代化が進み、第一次世界大戦後には女性の社会での活躍が増えていくこともあり、女性が社会の様々な場面で描かれるようになったことである。

また、印象主義や象徴主義など新しい絵画表現が 20 世紀前半に向けて次々に開花していく中、女性は内面的な世界を掘り下げたものなど、多様に表現されるようになった。そうした時代の女性像の多様さや豊かさを、フランスの美術館所蔵を中心とする 47 作家による 61 点の作品で概観した。

展示は、「女性の肖像」、「画家とモデル」、「家庭の女性」、「働く女性」、「余暇（レジャー）」、「夢の女性」の 6 つのパートに分けた構成とした。

会期中には、展覧会を企画・監修したフランス在住の美術史家フランソワーズ・パリガン氏による講演会を催し、好評を博した。

観覧者数は 7,348 人で、目標としていた 1 万人には達しなかったが、アンケートに寄せられた声では、「知らない画家が大半だったが、良い絵がとて多かった」などと好意的な評価が多かった。ただ、その「知らない画家が大半」という点が、観覧者数の伸び悩みにつながったと思われる。好意的な評価が多かっただけに、有名な画家が多くなっても観覧者数を伸ばすことが今後の課題である。

会 期 2016 年 4 月 16 日（土）～ 5 月 29 日（日）

会 場 いわき市立美術館 企画展示室

主 催 いわき市立美術館



作品リスト

No	作家名	作品名	制作年	技法・素材	サイズ (cm,縦×横)	所蔵先
■女性の肖像						
1	コンスタン・デュティユー	バクエル夫人の肖像	1858	油彩・カンヴァス	92 × 73	シャルトル会修道院美術館、ドゥエ
2	ポール・ナルシス・サリエール	エリザベット・アズマの肖像	(不詳)	油彩・カンヴァス	98 × 73	カルカソンス美術館
3	ギュスターヴ・クールベ	回想	1864	油彩・カンヴァス	54 × 45	シャルトル会修道院美術館、ドゥエ
4	ジュール・ブルトン	ドルシャン夫人の肖像	1897	油彩・カンヴァス	60 × 73	カンブレ美術館
5	クレマン・ランドラク	マリー＝クレール・カリエールの肖像	(不詳)	油彩・カンヴァス	116.5 × 89	カルカソンス美術館
6	ジャン＝ポール・ローレンス	東洋の女性	(不詳)	油彩・カンヴァス	41 × 33	カルカソンス美術館
7	ジュール・ルイ・マシヤール	ヴァランティン・カメスカス夫人の肖像	1899	油彩・カンヴァス	107 × 84	シャルトル会修道院美術館、ドゥエ
8	オーギュスト・ルノワール	麦わら帽子の少女	1885	油彩・カンヴァス	48 × 37	呉市立美術館
9	オーギュスト・ルノワール	マドモワゼル・フランソワ	1917	油彩・カンヴァス	52 × 43	茨城県近代美術館
10	オーギュスト・ルノワール	肖像画の習作	(不詳)	油彩・カンヴァス	30 × 25	シャルトル会修道院美術館、ドゥエ
11	ウジェーヌ・カリエール	若い女性の頭部	1890 頃	油彩・カンヴァス	33.4 × 24	シャルトル会修道院美術館、ドゥエ
12	ウジェーヌ・カリエール	ルシエンヌ・ブレヴァルの肖像の習作	1904 頃	油彩・カンヴァス	64 × 54	シャルトル会修道院美術館、ドゥエ
13	エドモン・アマン＝ジャン	懐疑	1900	油彩・カンヴァス	40.5 × 33	カルカソンス美術館
14	ジャック＝エミール・ブランシュ	ミミ・フリードランドルの肖像	1913	油彩・カンヴァス	147.5 × 117	カンブレ美術館
15	アシール・ロージェ	女性の肖像	1896	油彩・カンヴァス	40 × 50	カルカソンス美術館
16	アンリ・ル・シダネル	ピエトル夫人の肖像	1896	油彩・カンヴァス	197.5 × 89.5	シャルトル会修道院美術館、ドゥエ
17	アンリ・マルタン	マリー・デュエムの肖像	(不詳)	油彩・カンヴァス	73 × 80	シャルトル会修道院美術館、ドゥエ
18	ホアキン・ソローリャ・イ・バスティダ	デキ夫人の肖像	1913	油彩・カンヴァス	73 × 93	ボルドー美術館
19	セルヴェ・デティユ	赤い服の女性	1911	油彩・カンヴァス	140 × 105	カルカソンス美術館
20	アンドレ・ドラ	女性の頭部	1949 - 50	油彩・カンヴァス	30 × 29.5	個人蔵
21	マリー・ローランサン	マンドリンのレッスン	1923	油彩・カンヴァス	80.3 × 65.2	鹿児島市立美術館
22	マリー・ローランサン	ギターを持つ若い女性	1940	油彩・カンヴァス	56 × 46	ボルドー美術館
23	アンドレ・ロート	高級娼婦	1918	油彩・カンヴァス	137 × 97	ブティ・バレ美術館、ジュネーヴ
24	アンドレ・ロート	マルグリットの肖像	1923	油彩・カンヴァス	71 × 64	ボルドー美術館
25	アメデ・ド・ラ・パトリエール	バラ色のシャツ	1931	油彩・カンヴァス	146 × 97	ラ・ピシース、ルーベ工芸美術館
26	ヴァランティン・ブラックス	大きな女性像	1953 頃	油彩・カンヴァス	100 × 81	ラ・ピシース、ルーベ工芸美術館
27	シャルロット・アンシエル	女の肖像	(不詳)	油彩・板	72.9 × 54	ラ・ピシース、ルーベ工芸美術館
■画家とモデル						
28	ビエール・ボナール	黒い靴下	1899	油彩・カンヴァス	58.5 × 57	ボルドー美術館
29	ビエール・ボナール	服を脱ぐモデル	(不詳)	油彩・カンヴァス	54 × 45	シャルトル会修道院美術館、ドゥエ
30	アンリ・マティス	窓辺の婦人	1919	油彩・カンヴァス	66.5 × 46	鹿児島市立美術館
31	アンリ・マティス	黄色いブラウスのマルグリット	1921 頃	油彩・カンヴァス	55 × 46.5	ナンシー美術館
32	ジョルジュ・デスパリーニャ	少女たち	(不詳)	油彩・カンヴァス	130 × 97	シャルトル会修道院美術館、ドゥエ
33	アンリ・マンギャン	縞柄のドレスのジャンヌ	1900	油彩・カンヴァス	65 × 54	個人蔵
34	アンドレ・カルブレ	ベランダにて	1920	油彩・カンヴァス	98 × 130	カンブレ美術館
35	モイーズ・キスリング	赤い洋服のモンパルナスのキキ	1933	油彩・カンヴァス	92 × 65	ブティ・バレ美術館、ジュネーヴ
36	アンドレ・メール	アンドレ・メール夫人	1924-25 頃	油彩・カンヴァス	100 × 81	ラ・ピシース、ルーベ工芸美術館
■家庭の女性						
37	アルマン・ギョーマン	読書するギョーマン夫人の肖像	1898	油彩・カンヴァス	65 × 81	ブティ・バレ美術館、ジュネーヴ
38	イポリット・フルニエ	夢想	1893	油彩・カンヴァス	111 × 90	シャルトル会修道院美術館、ドゥエ
39	エドモン・アマン＝ジャン	デュエットの後の休息	1924	油彩・カンヴァス	99 × 131	シャルトル会修道院美術館、ドゥエ
40	ジュザンヌ・ヴァラドン	コントラバス奏者	1908	油彩・カンヴァス	100 × 73	ブティ・バレ美術館、ジュネーヴ
41	アントワヌ・ヴィラール	ブルー・ド・ネージュ	1910	油彩・カンヴァス	97 × 130	カンブレ美術館
42	ジョルジュ・デスパリーニャ	書き取り	1907 頃	油彩・カンヴァス	73 × 93	ラ・ピシース、ルーベ工芸美術館
43	アンリ・モリセ	姉	(不詳)	油彩・カンヴァス	51 × 73	シャルトル会修道院美術館、ドゥエ
44	アンリ・マンギャン	バルコニーのジャンヌ	1905	油彩・カンヴァス	81 × 65	個人蔵
■働く女性						
45	ヴァンサン・ヴィダル	ブルターニュの農婦	(不詳)	油彩・カンヴァス	160 × 110	カルカソンス美術館
46	ジュール・ボケ	青い茶碗	1913	油彩・カンヴァス	50 × 61.8	ラ・ピシース、ルーベ工芸美術館
47	ジュリアン・デュブレ	草原の鶺鴒飼いの少女	1881	油彩・カンヴァス	130 × 105	カルカソンス美術館
48	マリー・プシエ	読書中の居眠り	1882	油彩・カンヴァス	89.5 × 66	カルカソンス美術館

No	作家名	作品名	制作年	技法・素材	サイズ (cm,縦×横)	所蔵先
49	レミー・コッグ	洗濯女	1907 頃	油彩・カンヴァス	90 × 66	ラ・ピシース、ルーベ工芸美術館
50	エドモン・ピカール	甘い待ち時間	1894	油彩・カンヴァス	110 × 85	ラ・ピシース、ルーベ工芸美術館
51	ルイ・ヴァルタ	お針子	1923	油彩・カンヴァス	65 × 54	プティ・パレ美術館、ジュネーヴ
■余暇（レジャー）						
52	マリー・ブラックモン	セーヴルのテラスにて	1880	油彩・カンヴァス	88 × 115	プティ・パレ美術館、ジュネーヴ
53	ルネ＝グザヴィエ・ブリネ	マンシュ海岸	1924	油彩・カンヴァス	73 × 92	シャルトル会修道院美術館、ドゥエ
54	シャルル・オフボーエ	海岸にて	1907	油彩・カンヴァス	65 × 81	ラ・ピシース、ルーベ工芸美術館
55	ジェルメーヌ・ラントワーヌ＝ヌヴェー	自画像	1925 頃	油彩・カンヴァス	111.5 × 89	ラ・ピシース、ルーベ工芸美術館
■夢の女性						
56	アンリ・マルタン	調和	1894	油彩・カンヴァス	146 × 89	シャルトル会修道院美術館、ドゥエ
57	アンリ・マルタン	瞑想	1900 頃	油彩・カンヴァス	73 × 99	アンリ・マルタン美術館、カオール
58	アンリ・マルタン	《光の中で》のための習作	1914 以前	油彩・カンヴァス	100 × 57	アンリ・マルタン美術館、カオール
59	アンリ・マルタン	秋の夢想	(不詳)	油彩・カンヴァス	127 × 100	アンリ・マルタン美術館、カオール
60	アルパ・ミグル	春の目覚め	1903	油彩・カンヴァス	132 × 107	カンブレ美術館
61	アントワーン・カルベ	オンディース	1909	油彩・カンヴァス	86.5 × 115	カンブレ美術館

田口安男—描線と色彩の間—

いわき市平（旧平町）に生まれた田口安男は、終戦と同時に画家を志し、東京藝術大学油画科に入学。1956年、26歳、専攻科に進んだ頃、研究室の壁の絵具で汚れた手痕から、生涯を通して田口絵画の重要な要素となる「手」のモチーフを紡ぎだし、1964年には安井賞を受賞するなど、新進気鋭の若手作家として注目を集めた。

その後、田口固有のモチーフとなった「手」は大画面をおおい尽くし、絡み合い、「焰」や「波」や「眼」へと変容しつつ画家の精神世界を顕すように画面を縦横無尽に流れ出す。

1970～73年のイタリア留学で出会った古典技法、黄金背景テンペラ技法の研究、さらに、油彩とテンペラの混合技法など表現の巾を広げ、独自の絵画世界を切り拓いてきた。

平成24年、作品収蔵に際したアトリエ調査で、1940年代後半のいわき時代から現在に至る膨大

な数のローイング、スケッチブック、制作日記の存在が明らかになった。これらの小品は、制作の過程や田口芸術の変遷、精神世界を裏付ける貴重な作品群であり、当館で2度目の個展となる本展に繋がった。当館所蔵の大型の作品とその源流にあるドローイング群を同時に展示することで、田口芸術の一層の理解と魅力の紹介を開催の主旨とした。

画家を目指した頃に家族や友人を描いた初々しいデッサンから、現在、齢を重ねてもなお飽くなき探求心で新たな境地を模索する水彩ドローイング、今まであまり発表されることのなかった墨によるドローイングなど、日々積み重ねられた膨大な研鑽を前に70年に及ぶ画家・田口安男の思考の軌跡をたどる絶好の機会となった。

会 期 2016年6月10日(金)～7月10日(日)

会 場 いわき市立美術館 企画展示室

主 催 いわき市立美術館



作品リスト

catno	作品タイトル	制作年	サイズ	素材・技法	備考
出発の頃					
1	平瀬宜町煉瓦工場跡	1949	80.3 × 100	油彩・カンヴァス	
2	風景遠望	1947	27 × 39	鉛筆・紙	1947.1.12
3	平風景（谷川瀬山から公会堂を望む）	1949	26.8 × 39	鉛筆・紙	1949.8.21
4	谷川瀬山	1949	25.4 × 36.4	コンテ・紙	1949.9.26
5	谷川瀬山の集落	1949	25.6 × 36	コンテ・紙	1949.8.30
6	二階の窓から（平五町目）	1948	25.9 × 36.6	鉛筆・紙	1948.6.8 裏面 :yukio key
7	二階の窓から（火力発電所遠望）	1948	25 × 34.8	鉛筆・紙	1948.8.21
8	二階の窓から（平五町目）	1948 頃	29.2 × 38	水彩、鉛筆・紙	
9	平瀬宜町煉瓦工場跡	1949	24 × 33.3	コンテ・紙	1949.2.28
10	東部瓦斯会社	1949	24.5 × 34.2	インク、色鉛筆・紙	1949.10.18
11	片倉製糸工場・平火力発電所遠望	1949	27 × 30.5	コンテ・紙	1949.8.30
12	平火力発電所 1	1949	27 × 39	コンテ・紙	1949.8.30
13	平火力発電所 2	1949	25 × 35.9	コンテ・紙	1949.3.30
14	自画像 1	1948	33.3 × 24	コンテ・紙	1948.9.29
15	自画像 2	1948	33.3 × 24	コンテ・紙	1948.9.30
16	自画像 3	1949	33.3 × 24	コンテ・紙	1949.2.27
17	自画像 4	1949	33.3 × 24	コンテ・紙	1949.9.29
18	Tsugio (弟)	1948	24 × 33.3	コンテ・紙	1948.9.20
19	Takeo (弟) 1	1948	24.5 × 33.3	コンテ・紙	1948.9.20
20	Takeo (弟) 2	1948	33.3 × 24	コンテ・紙	1948.9.26
21	Takeo (弟) 3	1949	33.3 × 24.3	鉛筆・紙	1949.2.27
22	Tsuneko (妹) 2	1948	33.3 × 24	コンテ・紙	1948.9.30
23	Tsuneko (妹) 1	1948	33.5 × 24.4	コンテ・紙	1948.9.22
24	父	1948	33.6 × 24.5	コンテ・紙	1948.9.22
25	友人 教室にて	1949	35.4 × 25.1	コンテ・紙	1949.2.28
26	Hisada Kun 教室にて	1948	33.3 × 24.5	コンテ・紙	1948.9.22
27	Hoshino Kun 教室にて	1948	33.3 × 24	コンテ・紙	1948.9.22
28	Igari Kun 教室にて	1948	33.3 × 24	コンテ・紙	1948.9.22
29	Takeshi Kun 教室にて	1948	33.3 × 24	コンテ・紙	1948.9.28
30	Hoshino Kun 美術室にて	1948	33.3 × 24	コンテ・紙	1948.9.27
31	Inagawa Kun 美術室にて	1948	33.3 × 24	コンテ・紙	1948.9.25
32	美術室にて	1949	36.4 × 25.8	コンテ・紙	1948.3.14
33	Hoshino Kun	1949	35.4 × 26	コンテ・紙	1949.2.15
34	花瓶の花	1949	38.4 × 25.8	鉛筆・紙	1949.10.24
35	静物	1950	25.8 × 34.5	コンテ・紙	1950.2.2
“手” に憑かれて					
36	牛骨、枯木、パレット	1954	80.3 × 100	油彩・カンヴァス	
37	自画像	1950	42 × 30.5	コンテ、パステル・紙	
38	牛骨、男子裸体	1954	36.5 × 26.8	鉛筆、インク・紙	
39	牛骨、ポット	1952 頃	36.5 × 27.3	インク・紙	
40	牛骨、手	1952 頃	26.1 × 36.1	鉛筆、インク・紙	
41	裸婦	1953	72.5 × 53.2	油彩・カンヴァス	
42	リズムー対称性と周期性について—B	1956	97 × 130	油彩・カンヴァス	
43	上昇と屈折	1957	91 × 116.7	油彩・カンヴァス	
44	自画像	1956	37.5 × 26.2	鉛筆・コンテ・紙	
45	《リズムー対称性と周期性について—》のためのドローイング 1	1956 頃	27 × 35.5	鉛筆、インク・紙	ロッキングチェア、ポット
46	《リズムー対称性と周期性について—》のためのドローイング 2	1956 頃	27.1 × 35.6	鉛筆・紙	手のポーズ
47	《回転と移行》のためのドローイング	1957 頃	37.5 × 25.9	コンテ・紙	
48	男子裸体	1957 頃	35.5 × 25.1	鉛筆・紙	
49	白と黒の間	1959	145.5 × 112.1	油彩・カンヴァス	
50	からみあい	1958 - 65	116.7 × 90.9	油彩・カンヴァス	
51	カオスを捉える	1959	130 × 193.3	油彩・カンヴァス	
52	すれちがうもの	1959	116.7 × 90.9	油彩・カンヴァス	
53	私自身	1961	74 × 54	カゼインカラー・紙	

cat.no	作品タイトル	制作年	サイズ	素材・技法	備考
54	私自身 ドローイング 1	1965 頃	41 × 31.5	水彩・紙	
55	私自身 ドローイング 2	1965 頃	41 × 31.5	水彩・紙	
56	私自身 ドローイング 3	1960	37.2 × 25.5	鉛筆・紙	
57	私自身 ドローイング 4	1960	37.2 × 25.5	鉛筆・紙	1960.12.7
58	手のポーズ 眼	1960 頃	26.5 × 37.5	鉛筆、インク・紙	
59	からみあい 下図	1958	48.3 × 63.5	鉛筆・紙	
60	くりひろげられた緑 下図	1959	26.4 × 37.5	鉛筆・紙	
61	カオスを捉える 下図	1959	26.2 × 37.5	鉛筆・紙	
62	ネガティブな表現	1960	24.5 × 35.5	鉛筆、ガッシュ・紙	1960.4.60
63	流れを求める	1960	25.5 × 37.2	鉛筆・紙	
64	みだれみだれ 下図	1961	31.5 × 41	鉛筆・紙	
65	影を捉える	1960	37.5 × 26.2	鉛筆・紙	1960.8.20 ~ 30
66	手繰り出す眼 下図	1964 頃	31.5 × 41	鉛筆・紙	
67	とりのこされた影	1965	116.7 × 80.3	油彩・カンヴァス	
68	よぎるむれ	1965	193 × 220	油彩・カンヴァス	
69	みだれみだれ	1965	183 × 364	油彩・カンヴァス	
70	手繰り出す眼	1965	134.3 × 227.2	テンペラ・カンヴァス	
71	手のポーズ 私自身	1960	35.5 × 27.5	インク・紙	
72	手のポーズ (トレースの問題)	1961	20.5 × 28.5	インク・紙	
73	手のポーズ	1959	37.5 × 24.6	インク・紙	1959.2.28
74	手のポーズ	1959	26.2 × 37.5	鉛筆・紙	
75	手のポーズ	1960	24.5 × 35.5	インク・紙	
76	手のポーズ	1960	24.5 × 35.5	インク・紙	
77	手のポーズ	1961	26.2 × 37.5	鉛筆・紙	
78	手のポーズ	1961	26.2 × 37.5	鉛筆・紙	
79	手のポーズ	1961	20.5 × 29	インク・トレーシングペーパー	
80	手のポーズ	1960 頃	21 × 29.8	インク・トレーシングペーパー	
81	手のポーズ	1960	20.8 × 29.5	インク・トレーシングペーパー	
82	手のポーズ	1960 頃	20.5 × 29.7	インク・トレーシングペーパー	
83	手のポーズ	1960 頃	20.8 × 29.7	インク・トレーシングペーパー	
84	手のポーズ	1960 頃	20.8 × 29.7	インク・トレーシングペーパー	
85	手のポーズ shade and shadow	1962 頃	21 × 29.5	インク・紙	
86	手のポーズ 影	1962 頃	25.2 × 17.8	インク・紙	
87	手のポーズ 眼 1	1965	25 × 35.5	鉛筆・色鉛筆・紙	1965.5.15
88	手のポーズ 眼 2	1965	25 × 35.5	色鉛筆・紙	1965.5.15
89	手のポーズ 眼 3	1965	25 × 35.5	鉛筆・色鉛筆・紙	1965.5.15
90	手のポーズ 眼 4	1965	26.5 × 35.6	インク・紙	
91	手のポーズ 眼 5	1965	26.7 × 35.6	インク・紙	

病床の夢日記

	『病床の夢日記』	1962-63	17.6 × 11.5		
92	kofuku ga umidasu mono	1962	17.6 × 11.5	インク・紙	
93	Cert moi	1962	11.5 × 17.6	インク・紙	
94	海へ向かう	1962	11.5 × 17.6	インク・紙	
95	足首をひろうはなし	1962	11.5 × 17.6	インク・紙	
96	埋葬	1962	11.5 × 17.6	インク・紙	
97	watashi wa dare	1962	17.6 × 11.5	インク・紙	
98	うらがえし手	1962	17.6 × 11.5	インク・紙	
99	ワガ頭蓋ノナカノ蜚音 (『病床の夢日記』)	1962	17.6 × 11.5	インク、色鉛筆・紙	
100	芽生え・胚生	1963	15 × 10.5	インク・紙	
101	キューブ男 (脱皮)	1963	17.6 × 11.5	インク・紙	
102	soleil	1963	25 × 17.7	インク・紙	
103	網目／手首を切る夢	1963	25.3 × 17.7	インク・紙	
104	キューブ男 1	1963	12.6 × 17.7	インク・紙	
105	キューブ男 2	1963	12.8 × 17.7	インク・紙	
106	転生	1963	12.2 × 17.7	インク・紙	
107	2 次元のバランス	1963 頃	25 × 35.6	インク・紙	
108	kao	1963	17.7 × 14.5	インク・紙	
109	眼の樹	1963	35.8 × 25	インク・紙	

catno	作品タイトル	制作年	サイズ	素材・技法	備考
110	moi meme	1964	24.7 × 19	インク・紙	
111	眼、ピストル	1964	24.7 × 19	インク、色鉛筆・紙	
112	変身の寓話 転生	1967	25 × 32.6	鉛筆、色鉛筆、水彩・紙	
113	樹枝	1963	24.5 × 35.5	インク、色鉛筆・紙	
114	樹枝	1963	35.5 × 50	鉛筆、色鉛筆・紙	
115	樹枝（炎）	1963	24.5 × 35.3	インク、色鉛筆・紙	
116	墨のドローイング（樹枝）	不明	56.3 × 43	墨・和紙	
117	墨のドローイング（樹枝）	不明	43 × 56.3	墨・和紙	
118	墨のドローイング（樹枝）	1966	21.5 × 450.4	墨・和紙	
119	墨のドローイング（樹枝）	1966	21.5 × 450.4	墨・和紙	
120	墨のドローイング（樹枝）	1972	50 × 74	墨・和紙	
121	墨のドローイング（樹枝）	1972	37 × 100	墨・和紙	
122	墨のドローイング（樹枝）	1972	50 × 74	墨・和紙	
123	墨のドローイング（樹枝）	1972	50 × 111	墨・和紙	
黄金背景テンペラ					
124	ある主題への変奏	1971	50 × 60	テンペラ・パネル	
125	無題	1969 頃	37.2 × 50.2	鉛筆・紙	
126	時の次元、空間の次元の多様性	1969 頃	32.9 × 48	鉛筆・紙	
127	ある主題への変奏 下図	1970 頃	33.4 × 52	鉛筆、トレーシングペーパー	
128	ある主題への変奏 下図	1970	24 × 31.8	水彩・紙	
129	ある主題への変奏 下図	1970 頃	50 × 70.3	鉛筆・紙	
130	ある主題への変奏 下図	1970	55 × 62.2	インク、色鉛筆・トレーシングペーパー	
131	ある主題への変奏 部分下図 天使	1970 頃	21 × 30	鉛筆、色鉛筆、インク・トレーシングペーパー	
132	ある主題への変奏 部分下図 湖	1970 頃	12 × 22	鉛筆、色鉛筆、インク・トレーシングペーパー	
133	ある主題への変奏 部分下図 キリスト	1970 頃	24.7 × 52	鉛筆、色鉛筆、インク・トレーシングペーパー	
134	窓の中の窓の中のマド（ローマの下宿で）	1969 頃	29.6 × 37.7	鉛筆・インク・紙	
135	無題	不明	25.1 × 35.5	インク・紙	
136	意味と無意味	不明	25.1 × 35.5	インク・紙	
137	抜け变りの季節	1977	120 × 91	テンペラ・パネル	
138	白いトルソー揺一 下図	1992	130.4 × 89.4	水彩・紙	
139	白いトルソー揺一	1992	130.4 × 89.4	テンペラ・パネル	
夢から紡ぎ一空へ					
140	眼の島	1977	218 × 227	テンペラ・カンヴァス	
141	夢から紡ぎ	1976	52.3 × 73.4	鉛筆、色鉛筆・紙	
142	イカロスの影	1979	52.3 × 73	鉛筆、色鉛筆・紙	
143	無題	1983	21 × 19.2	水彩・紙	
144	無題		15.2 × 15.2	水彩・紙	
145	大渦時（おおまがとき）	1976	25.5 × 19.7	水彩・紙	
146	無題		25 × 18.3	水彩・紙	
147	手のひらひらき鳥	1986-87	34.7 × 49.3	鉛筆・紙	1986.1.26-1987.9
148	とび立つ	不明	54.3 × 78.5	パステル・紙	
149	とび立つ	1992	34.7 × 49.3	パステル・紙	
150	三美神	1992	218 × 333.3	油彩・カンヴァス	
波から焰へ					
151	手のうら焰	1977	218 × 333.3	テンペラ・カンヴァス	
152	手のうら焰	1980	193 × 161.5	油彩、テンペラ・カンヴァス	
153	波から焰へ	1983	200 × 400	油彩、テンペラ・カンヴァス	
154	マダランダラ手	1986	218.2 × 290.9	油彩、テンペラ・カンヴァス	
155	波から焰へ	1986	218.2 × 290.9	油彩、テンペラ・カンヴァス	
156	白道一気一	1992	291 × 436	油彩、テンペラ・カンヴァス	
157	緑の中へ一示一	1996	227.2 × 545.4	油彩、テンペラ・カンヴァス	
158	もちあい三つ手 B	1982	53 × 53	テンペラ・カンヴァス	

cat.no	作品タイトル	制作年	サイズ	素材・技法	備考
159	あやおり手 B	1982	45.5 × 53	油彩、テンペラ・カンヴァス	
160	もちあい三つの手うかび	1997	100 × 73	テンペラ・カンヴァス	
161	波から焔へ (1983) 下図	1982	34.7 × 49.3	鉛筆・紙	
162	波から焔へ B (1982) 下図	1982	34.7 × 49.3	鉛筆、色鉛筆・紙	
163	波から焔へ (1984) 下図 (構想)	1984	50 × 62.8	鉛筆、色鉛筆・紙	
164	波から焔へ (1984) 下図	1984	49.9 × 64.9	鉛筆・紙	
165	マダランダラ手 下図 (構想)	1986	65 × 88	鉛筆・紙	
166	マダランダラ手 下図	1984	50 × 62	鉛筆、色鉛筆・紙	
167	マダランダラ手 下図	1986	65 × 88	鉛筆、水彩・紙	
168	波から焔へ (1986) 下図 (構想)	1986	48.9 × 60.6	鉛筆・紙	
169	波から焔へ (1986) 下図	1986	39.3 × 54.2	鉛筆・紙	
170	波から焔へ A (1987) 下図	1987	43.6 × 57.3	鉛筆・紙	
171	波から焔へ B (1987) 下図	1987	43 × 55.5	鉛筆・紙	
172	白道一気一 下図	1992	56.3 × 76	鉛筆、水彩・紙	
173	緑の中へ一示一 下図	1995-96	48.2 × 76.5	鉛筆・紙	
174	抜けゆくもの一絡一 下図	1994	56 × 76.2	鉛筆、色鉛筆・紙	
175	波湧く手 (波の手あそび)	2003	65.5 × 99.5	鉛筆、コンテ・紙	
176	手というよりは眼	2001	41 × 55	鉛筆、水彩・紙	
177	カオスな焔の気配	不明	50 × 65.2	鉛筆、水彩・紙	

波を描くこと

178	風景	2010 頃	46 × 61	水彩・紙	
179	風景	不明	40 × 55.2	水彩、コンテ・紙	
180	八丈島の波 1 (『八丈島スケッチブック』より)	1971	18 × 47.8	色鉛筆・紙	
181	八丈島の波 2 (『八丈島スケッチブック』より)	1971	18 × 47.8	色鉛筆・紙	
182	八丈島の波 3 (『八丈島スケッチブック』より)	1971	18 × 47.8	色鉛筆・紙	
183	波	2006	46 × 61.8	水彩、鉛筆・紙	
184	波	不明	33 × 42	墨、鉛筆・紙	
185	波	不明	42.5 × 29.8	墨・紙	
186	網の目を目指す波	不明	46 × 61	鉛筆・紙	
187	波の手踊り	不明	46 × 61	鉛筆・紙	
188	波は重く 岩は軽く	不明	79 × 108.8	鉛筆、水彩・紙	
189	波	不明	46 × 61	鉛筆、水彩・紙	

水と油の間—水彩—

190	無題	2012	47 × 63	鉛筆、水彩・和紙	
191	円環を目指す	不明	60 × 36.5	鉛筆、水彩・和紙	
192	無題	不明	60 × 36.5	鉛筆、水彩・和紙	
193	無題	2014	34 × 44.8	鉛筆、水彩・和紙	
194	無題	2013	62 × 46.2	鉛筆、水彩・和紙	
195	無題	2014	45.5 × 32	鉛筆、水彩・和紙	
196	ヴァリエーション 1	1992	34.8 × 27.5	鉛筆、水彩・和紙	
197	ヴァリエーション 2	不明	34.5 × 26	鉛筆、水彩・和紙	
198	ヴァリエーション 3	1992	36 × 26	鉛筆、水彩・和紙	
199	ヴァリエーション 4	不明	34.5 × 23.3	鉛筆、水彩・和紙	
200	ヴァリエーション		17.7 × 12.5	鉛筆、水彩・和紙	
201	ヴァリエーション	2000	18 × 12.7	鉛筆、水彩・紙	
202	ヴァリエーション		18.6 × 12.7	鉛筆、水彩・紙	
203	ヴァリエーション	1999	17.6 × 12.5	鉛筆、水彩・紙	
204	ヴァリエーション	2000	19 × 13	鉛筆、水彩・紙	
205	ヴァリエーション		17.6 × 12.5	鉛筆、水彩・紙	
206	ヴァリエーション		17.6 × 12.5	鉛筆、水彩・紙	
207	ヴァリエーション		18.2 × 12.5	鉛筆、水彩・紙	
208	ヴァリエーション		17.5 × 13	鉛筆、水彩・紙	
209	ヴァリエーション	2001	14.8 × 10.5	水彩、鉛筆・紙	
210	ヴァリエーション	1990	14.8 × 10.5	水彩、鉛筆・ポストカード	
211	ヴァリエーション	1997	14.8 × 10.5	水彩、鉛筆・ポストカード	
212	ヴァリエーション	1992	14.8 × 10.5	水彩、鉛筆・ポストカード	
213	ヴァリエーション	1990	14.8 × 10.5	水彩、鉛筆・ポストカード	

catno	作品タイトル	制作年	サイズ	素材・技法	備考
214	ヴァリエーション	不明	14.8 × 10.5	水彩、鉛筆・紙	
215	ヴァリエーション	1992	14.8 × 10.5	水彩、鉛筆・ポストカード	
216	ヴァリエーション	1992	14.8 × 10.5	水彩、鉛筆・ポストカード	
217	ヴァリエーション	1990	14.8 × 10.5	水彩、鉛筆・ポストカード	
218	ヴァリエーション	1992	14.8 × 10.5	水彩、鉛筆・ポストカード	
219	ヴァリエーション	2000	14.8 × 10.5	水彩、鉛筆・紙	
220	ヴァリエーション	1992	15 × 10.5	水彩、鉛筆・ポストカード	
221	ヴァリエーション	1992	15 × 10.5	水彩、鉛筆・ポストカード	
222	ヴァリエーション	1990	15 × 10.5	水彩、鉛筆・ポストカード	
223	ヴァリエーション	不明	15 × 10.5	水彩、鉛筆・ポストカード	
224	ヴァリエーション	不明	14.8 × 10	水彩、鉛筆・ポストカード	
作家の日々 描線と色彩の間で					
225	のおと 1973 (明治団地)	1973	19.6 × 13.7 × 13.7	鉛筆、色鉛筆、インク・紙	
226	Diary 1972-73 (平、伊豆)	1972-73	20.8 × 15.4 × 15.4	鉛筆、色鉛筆、インク・紙	
227	Diary 1973 (古美研)	1973	20.8 × 15.3 × 15.3	鉛筆、色鉛筆、インク・紙	
228	Diary 1973-1974	1973-74	21.5 × 15.5 × 15.5	鉛筆、色鉛筆、インク・紙	
229	Diary 1974	1974	21.5 × 15.2 × 15.2	鉛筆、色鉛筆、インク・紙	
230	White Diary 1974	1974	21.5 × 15.2	鉛筆、色鉛筆、インク・紙	
231	White Diary 1975	1975	21.6 × 15.2	鉛筆、色鉛筆、インク・紙	
232	White Diary 1976	1976	21.6 × 15.5	鉛筆、色鉛筆、インク・紙	
233	White Diary 1977	1977	21.5 × 15.5	鉛筆、色鉛筆、インク・紙	
234	White Diary 1978	1978	21.6 × 15.3	鉛筆、色鉛筆、インク・紙	
235	Diary 1977-1978	1977-78	21.4 × 15.3	鉛筆、色鉛筆、インク・紙	
236	White Diary 1979	1979	21.6 × 15.5	鉛筆、色鉛筆、インク・紙	
237	White Diary 1980	1980	21.5 × 15.5	鉛筆、色鉛筆、インク・紙	
238	White Diary 1981	1981	21.6 × 15.5	鉛筆、色鉛筆、インク・紙	
239	White Diary 1982	1982	21.5 × 15.5	鉛筆、色鉛筆、インク・紙	
240	Diary 1983 手	1983	21.5 × 15.3	鉛筆、色鉛筆、インク・紙	
241	Diary 1984	1984	18.7 × 13	鉛筆、色鉛筆、インク・紙	
242	Diary 1984-1987	1984-87	21.0 × 15.4	鉛筆、色鉛筆、インク・紙	
243	顔のドローイング	2000-	25 × 17	インク・紙	
244	顔のドローイング (平・湯本)	2000	25 × 17	インク・紙	
245	顔のドローイング (東京駅ホーム)	2002	25 × 17.3	インク・紙	
246	顔のドローイング (いわき駅 小関さん)	2002	25 × 17.3	インク・紙	
247	顔のドローイング	2002	25 × 17.3	インク・紙	
248	顔のドローイング (→大原)	2002	25 × 17	インク・紙	
249	顔のドローイング (上野ーいわき)	2003	25 × 17	インク・紙	
250	顔のドローイング (大原 東京)	2004	25 × 17	インク・紙	
251	顔のドローイング (勿来駅ホーム)	2005	25 × 17	インク・紙	
252	顔のドローイング (いわき・上野)	2005	25 × 17	インク・紙	
253	顔のドローイング (東京ー大原)	2005	25 × 17	インク・紙	
254	顔のドローイング (大原・東京 山手線)	2005	25 × 17	インク・紙	
255	顔のドローイング	2006	25 × 17.3	インク・紙	
256	顔のドローイング (上野・湯本)	2006	25 × 17.3	インク・紙	
257	顔のドローイング (空天神)	2006	25 × 17.3	インク・紙	
258	顔のドローイング (上野・有楽町)	2006	25 × 17	インク・紙	
259	顔のドローイング (東京・大原)	2006	25 × 17	インク・紙	
260	顔のドローイング	2008	25 × 17	インク・紙	
261	顔のドローイング (上野)	2008	25 × 17	インク・紙	

明治有田 超絶の美 万国博覧会の時代

日本磁器の発祥である「有田焼」は、1610年代に朝鮮人陶工が佐賀県有田町で製作したのが始まりとされる。当初「伊万里焼」とも呼ばれていた有田焼は、白地に藍色の文様の「染付」に始まり、1640年代には「色絵」を導入、やがて金彩を加えた「金襴手」が登場するなど作風を変えつつ、日本を代表する工芸品へと発展していく。江戸前期には海外にも輸出されるようになり、さらに明治期に入ると、政府により殖産興業製品と位置づけられ、国家の財政を支える産業としての役割を果たした。技巧の限りを尽くした精緻で優雅な有田焼が、各国で開催された万国博覧会に出品され、絶大な人気を博して、ジャポニスムブームの一翼を担ったことはよく知られている。

有田焼創業400年を記念して開かれた本展覧会は、明治以降にスポットをあてたもので、万

博出品作をはじめ日本最高峰の技術が施された約100件の磁器に加え、制作過程や当時の嗜好がうかがえる貴重なデザイン画などを展示した。大型作品や高級洋食器セットなど、いわきでは見る機会が少ない作品がほとんどで、西洋の影響を受けて変化しつつ伝統的な日本の美の特質を昇華させた明治以降の有田焼の魅力を存分に楽しめる内容であった。

夏休み中の企画展であったため市内の小・中・高校生に特別招待券を配布、学生を招いてのテープカットセレモニーを開催するなどの働きかけを行ったにもかかわらず、若年層の入場者は少なく、総入場者は5000人に達しなかった。しかしながら、佐賀県立九州陶磁文化館館長の鈴田由紀夫氏を迎えての講演会や、有坂多絵子氏による有田焼絵付け講座は好評で、参加者の満足度も高かった。

会 期 2016年7月23日(土)～9月4日(日)
会 場 いわき市立美術館 企画展示室
主 催 いわき市立美術館
後 援 佐賀県、有田町 / 特別協力 世界文化社
協 力 有田ポーセリンパーク、香蘭社、佐賀県立九州陶磁文化館
展示協力 江上料理学院 / 企画協力 西日本新聞社



作品リスト

	制作者（産地名）	作品名	制作年	所蔵者	口径	高さ	底径（cm）
1	辻勝蔵	色絵透彫水禽文耳付三足花瓶	1870年～1879年頃	個人	9.5	30.1	6.2（足間 9 × 9）
2	肥磔山秋月	色絵人物花鳥文コーヒーセット ①ポット（大）	1868年～1880年代	個人	9.8	27.5	11.0
3	肥磔山秋月	色絵人物花鳥文コーヒーセット ②ポット（小）	1868年～1880年代	個人	8.4	24.0	足間 11.0
4	肥磔山秋月	色絵人物花鳥文コーヒーセット ③ミルク入れ	1868年～1880年代	個人	5.5 × 8.5	16.8	足間 5.1
5	肥磔山秋月	色絵人物花鳥文コーヒーセット ④砂糖壺	1868年～1880年代	個人	11.6	16.2	足間 8.5
6	肥磔山秋月	色絵人物花鳥文コーヒーセット ⑤碗・皿（4客）	1868年～1880年代	個人	碗 8.5、 皿 13.0	碗 6.2、 皿 2.0	碗 3.6、 皿 6.6
7	田代紋左衛門 （肥磔山信甫）	色絵草花鳳凰文台付菱形鉢（対）	1856年～1880年代	佐賀県立九州陶磁文化館 田代家贈	28.8 × 20.5	22.5	14.6 × 11.0
8	田代紋左衛門 （肥磔山信甫）	色絵人物花鳥文大皿	1856年～1880年代	個人	62.0	9.5	34.0
9	有田	色絵人物文耳付大花瓶（対）	1868年～1880年代	個人	右 34.3 左 34.5	右 99.8 左 99.4	右 20.4 左 21.3
10	花岳軒如山	色絵人物文耳付大花瓶（対）	1868年～1880年代	個人	右 34.8 左 35.3	右 94.0 左 93.0	右 19.5 左 19.0
11	田代紋左衛門 （肥磔山信甫）	色絵樹下唐人文大花瓶（対）	1856年～1880年代	佐賀県立九州陶磁文化館 田代家贈	17.9	55.8	14.9
12	深川栄左衛門	色絵玉取獅子文花瓶	1870年～1880年代	個人	9.6	31.2	7.3
13	深海（年木庵喜三）	色絵草花文耳付花瓶	1870年～1879年頃	個人	13.3	35.0	9.0
14	深川栄左衛門	色絵鹿紅葉花籠文耳付花瓶	1870年～1880年代	株式会社香蘭社	16.0	38.5	12.5
15	深海（年木庵喜三）	青地白堆波涛に獅子図龍耳瓶	1873年頃	東京国立博物館	5.6	23.3	10.8
16	有田	染付蒔絵富士山御所車文大花瓶	1873年	有田ポーセリンパーク	62.0	185.0	-
17	香蘭社（八代深川栄左衛門）	瑠璃釉金彩竹文変形皿	1876年頃	株式会社香蘭社	24.1 × 27.2	3.9	17.0
18	香蘭社（辻勝蔵）	色絵菊花流水文透台付大花瓶（対）	1876年頃	個人	右 25.5 左 25.2	右 74.0 左 73.5	右 21.5 左 21.2
19	香蘭社（八代深川栄左衛門）	染付蒔絵芙蓉芦雁文大花瓶（対）	1875年～1879年頃	有田ポーセリンパーク	右 33.6 左 34.0	右 90.6 左 90.0	右 30.4 左 30.2
20	深海（年木庵喜三）	色絵雲龍文三足花瓶	1868年～1879年頃	個人	12.0	28.9	足間 9.0 × 8.7
21	香蘭社（辻勝蔵）	色絵金彩荒磯貝尽紅葉桜図大皿	1877年頃	東京国立博物館	66.7	10.0	36.7
22	香蘭社（年木庵喜三）	青地白堆宝珠貼付龍文壺	1878年頃	株式会社香蘭社	13.9	27.3（台有 32.5）	胴径 23.2
23	香蘭社（辻勝蔵）	金彩雲透彫天女陽刻文三足壺	1878年頃	個人	14.6	25.2	13.5
24	香蘭社（辻勝蔵）	色絵鳳凰秋草文耳付花瓶	1875年～1879年	個人	7.0	20.8	5.5
25	香蘭社（辻勝蔵）	色絵双魚花文耳付花瓶	1875年～1879年	個人	7.5	29.8	9.3
26	香蘭社（年木庵喜三）	色絵流水梅花文耳付花瓶（対）	1875年～1879年	有田ポーセリンパーク	左右とも 14.0	右 38.2 左 37.8	右 12.0 左 11.8

	制作者（産地名）	作品名	制作年	所蔵者	口径	高さ	底径（cm）
27	香蘭社（年木庵喜三）	色絵鳳凰応龍文耳付花瓶	1875年～1879年	株式会社香蘭社	9.5	24.2	8.9
28	香蘭社（年木庵喜三）	色絵菊花流水文耳付花瓶	1875年～1879年	株式会社香蘭社	10.5	25.6	7.1
29	香蘭社（年木庵喜三）	色絵龍鳳凰麒麟文耳付花瓶	1875年～1879年頃	株式会社香蘭社	10.5	25.6	7.5
30	香蘭社（八代深川栄左衛門）	色絵扇鳳凰文耳付花瓶	1875年～1877年頃	株式会社香蘭社	12.6	24.3	9.0
31	香蘭社（年木庵喜三）	色絵鳥獣文花瓶（対）	1875年～1879年	個人	11.8	28.8	9.3
32	香蘭社（八代深川栄左衛門）	色絵丸文大花瓶（対）	1875年～1879年頃	個人	左右とも 内 12.3 外 14.0	右 46.2 左 46.0	右 11.5 左 11.9
33	香蘭社	色絵有職文耳付大壺	1875年～1880年代	個人	20.4	71.6	20.5
34	香蘭社	色絵有職文壺	1875年～1880年代	個人	身 15.7 蓋 16.7	26.6	14.7
35	香蘭社	色絵褐地玉取獅子文耳付大壺	1875年～1880年代	有田ポーセリンパーク	45.8	43.2	25.8
36	香蘭社	色絵龍貼付花鳥文大花瓶（対）	1875年～1880年代	株式会社賞美堂本店	右 51.0 左 50.8	右 66.6 左 63.8	左右とも 23.0
37	香蘭社	色絵釉下彩鴨牡丹文大花瓶	1875年～1880年代	株式会社香蘭社	28.2	74.9	21.5
38	香蘭社	色絵鶴竹花鳥文大花瓶	1875年～1880年代	有田ポーセリンパーク	30.0	107.4	23.6
39	香蘭社	色絵牡丹文花瓶	1875年～1880年代	個人	8.1	30.3	11.7
40	香蘭社	色絵花鳥文団扇形皿	1875年～1880年代	有田ポーセリンパーク	右 31.5 × 24.6 左 31.6 × 25.3	右 4.2 左 4.1	右 11.5 左 12.0
41	香蘭社	色絵褐地龍文六角大皿	1875年～1880年代	有田ポーセリンパーク	45.5	6.6	23.4
42	香蘭社	色絵褐地花鳥文六角皿	1875年～1880年代	個人	40.5 × 29.2	5.5	17.3
43	香蘭社	色絵菊花唐草文大皿	1879年～1880年代	有田ポーセリンパーク	46.8	5.5	27.7
44	香蘭社	色絵褐地牡丹唐草鳥文コーヒース碗・皿	1875年～1880年代	株式会社香蘭社	碗 5.3 皿 10.2	碗 5.5 皿 1.8	碗 2.5 皿 4.8
45	香蘭社	色絵褐地牡丹唐草鳥文扁壺	1875年～1880年代	有田ポーセリンパーク	3.9	21.0	4.4 × 7.9
46	香蘭社	色絵麒麟褐地牡丹唐草鳥文コーヒースポット	1875年～1880年代	株式会社香蘭社	8.4 × 6.8	20.4	9.5 × 8.3
47	香蘭社	色絵褐地牡丹唐草鳥文紅茶碗・皿	1875年～1880年代	有田ポーセリンパーク	碗 10.1 皿 13.6	碗 5.9 皿 2.1	碗 3.7 皿 7.8
48	香蘭社	色絵唐花文花瓶	1875年～1880年代	個人	7.7	22.4	8.9
49	香蘭社	色絵褐地流水文竹文皿	1875年～1880年代	ギャラリー花伝	21.0	2.7	11.8
50	香蘭社	色絵鳳凰唐草文三足皿	1879年～1880年代	株式会社香蘭社	26.6	7.2	14.2
51	香蘭社	色絵菊文皿	1875年～1880年代	株式会社香蘭社	18.0	2.5	9.8
52	香蘭社	色絵牡丹草花文蓋付鉢	1879年～1890年代	株式会社香蘭社	31.2 × 23.0	18.8	21.7 × 16.0
53	香蘭社	色絵秋草牡丹唐草文水注	1879年～1880年代	株式会社香蘭社	4.8	25.6	8.3 × 6.4
54	香蘭社	色絵龍牡丹唐草文細首瓶	1879年～1880年代	株式会社香蘭社	1.4	15.2	4.4
55	精磁会社	色絵鳳凰花唐草文透彫大香炉	1879年～1897年頃	個人	36.3	98.0	足間 34.0 × 34.0
56	精磁会社（深海竹治）	色絵褐地花喰鳥文壺	1879年～1897年頃	個人	14.0	38.7	15.8
57	精磁会社	色絵児島高德図変形皿	1879年～1897年頃	ギャラリー花伝	22.8	2.8	12.1
58	精磁会社	色絵花鳥文大皿	1893年	東京国立博物館	89.4	15.5	49.4

	制作者（産地名）	作品名	制作年	所蔵者	口径	高さ	底径（cm）
59	精磁会社	色絵嬰路花文コーヒー碗・皿	1879年～1897年頃	個人	碗 7.5 皿 14.2	碗 7.5 皿 2.2	碗 4.7 皿 7.7
60	辻勝蔵	染付鳳凰菊御紋蓋物	19世紀	個人	19.6	17.0	12.0
61	辻勝蔵	染付鳳凰菊御紋碗	19世紀	個人	10.3	3.8	4.3
62	精磁会社	染付鳳凰菊御紋食器 ①皿	1879年～1897年頃	百田家	32.6	4.2	13.0
63	精磁会社	染付鳳凰菊御紋食器 ②鉢	1879年～1897年頃	百田家	18.3	6.6	8.9
64	精磁会社	染付鳳凰菊御紋食器 ③碗	1879年～1897年頃	百田家	10.2	3.7	4.3
65	辻勝蔵	色絵笠仔犬置物	1879年～1880年代	個人	最大長 16.3 × 13.2	8.5	-
66	南里嘉壽	色絵花蝶文コンボート	1872年～1880年	個人	24.0	13.3	12.7
67	精磁会社	金彩鳳凰花唐草文輪花皿	1879年～1897年頃	個人	21.5	2.1	13.0
68	精磁会社	金彩パルメット桐文輪花大皿	1879年～1897年頃	ギャラリー花伝	34.3	3.3	20.7
69	精磁会社	金彩パルメット桐文チュリーン	1879年～1897年頃	個人	13.0	17.6	13.0
70	精磁会社	色絵蘭菊文皿	1879年～1897年頃	個人	21.8	2.8	12.4
71	精磁会社	色絵鳳凰文八角皿	1879年～1897年頃	ギャラリー花伝	22.3	2.2	12.3
72	精磁会社	色絵流水菖蒲文皿	1879年～1897年頃	ギャラリー花伝	25.0	3.5	13.0
73	精磁会社	色絵蝶文輪花皿	1879年～1897年頃	ギャラリー花伝	24.8	2.7	14.7
74	深川栄左衛門	色絵牡丹唐草鳳凰文大花瓶	1870年代	有田ポーセリンパーク	19.1	55.6	17.2
75	深川栄左衛門	色絵秋草文花瓶	1870年代	株式会社香蘭社	12.9	30.0	11.0
76	深川栄左衛門・ 年木庵喜三	色絵牡丹桜文耳付花瓶	1870年代	株式会社香蘭社	15.6	39.5	12.5
77	深川栄左衛門	色絵菊花文花瓶	1870年代	有田ポーセリンパーク	18.6	37.2	9.6
78	深川栄左衛門	色絵人物文耳付大花瓶	1870年代	株式会社香蘭社	20.8	46.2	11.5
79	深川栄左衛門	色絵人物唐草文花瓶	1868年～1870年代	株式会社香蘭社	8.0	36.7	12.4
80	深川栄左衛門	色絵人物文筒形大花瓶	1868年～1870年代	株式会社香蘭社	17.9	59.0	19.8
81	香蘭社	色絵獅子牡丹文大皿	1875年	個人	63.5	8.3	35.9
82	香蘭社（年木庵喜三）	色絵桃形鉢	1875年～1879年	株式会社香蘭社	23.6	8.0	12.2
83	香蘭社	色絵掲地梅鶯文葉形皿	1875年～1880年代	有田ポーセリンパーク	23.6 × 16.0	2.8	12.8 × 9.5
84	香蘭社（年木庵喜三）	色絵梅桜文瓢形瓶	1875年～1879年	個人	8.5	30.6	11.4
85	香蘭社（年木庵喜三）	色絵牡丹獅子文瓢形瓶（対）	1875年～1879年	個人	8.6	30.7	11.8
86	香蘭社（年木庵喜三）	色絵蝶藤文耳付花瓶	1875年～1879年	個人	9.2	30.6	8.2
87	香蘭社（年木庵喜三）	色絵鳳凰麒麟龜文三足花瓶	1875年～1879年	株式会社香蘭社	7.1	16.0	足間 4.0
88	香蘭社	色絵端雲文コーヒーポット	1875年～1879年	株式会社香蘭社	6.3	14.5	5.3
89	香蘭社（辻勝蔵）	色絵透彫草文コーヒーポット	1876年頃	個人	7.3	14.8	7.8
90	香蘭社（辻勝蔵）	染付透彫有職文コーヒーセット ①ポット	1876年頃	①④個人、②③株式会社香 蘭社	7.3	17.0	7.8
91	香蘭社（辻勝蔵）	染付透彫有職文コーヒーセット ②ミルク入れ	1876年頃	①④個人、②③株式会社香 蘭社	5.9 × 4.5	8.5	4.1
92	香蘭社（辻勝蔵）	染付透彫有職文コーヒーセット ③砂糖壺	1876年頃	①④個人、②③株式会社香 蘭社	8.1	10.7	7.3
93	香蘭社（辻勝蔵）	染付透彫有職文コーヒーセット ④碗・皿	1876年頃	①④個人、②③株式会社香 蘭社	碗 6.6 皿 11.0	碗 5.4 皿 1.4	碗 3.5 皿 6.9
94	香蘭社	白磁陽刻桐文耳付花瓶	1881年頃	個人	23.6	36.8	16.5
95	香蘭社	色絵麒麟花喰鳥文鳳凰形トレイ・ コーヒーセット ①ポット	1875年～1880年代	株式会社賞美堂本店	6.0 × 5.0	12.3	5.2 × 4.5
96	香蘭社	色絵麒麟花喰鳥文鳳凰形トレイ・ コーヒーセット ②ミルク入れ	1875年～1880年代	株式会社賞美堂本店	6.1 × 3.5	6.7	3.8 × 3.0

制作者（産地名）	作品名	制作年	所蔵者	口径	高さ	底径（cm）
97 香蘭社	色絵麒麟花喰鳥文鳳凰形トレイ・コーヒーセット ③砂糖壺	1875年～1880年代	株式会社賞美堂本店	5.7 × 4.6	10.0	5.8 × 4.6
98 香蘭社	色絵麒麟花喰鳥文鳳凰形トレイ・コーヒーセット ④碗・皿（2客）	1875年～1880年代	株式会社賞美堂本店	碗 6.7 × 5.0 皿 10.7 × 8.8	碗 5.6 皿 1.5	碗 4.3 × 3.6 皿 7.5 × 5.7
99 香蘭社	色絵麒麟花喰鳥文鳳凰形トレイ・コーヒーセット ⑤鳳凰形トレイ	1875年～1880年代	株式会社賞美堂本店	37.0 × 22.3	8.8	27.6 × 19.0
100 深川製磁	色絵花兎唐草文洋食器 ①蓋付鉢（チュリーン、受皿）	1894年～1920年代	佐賀県立九州陶磁文化館 高取紀子氏贈	チュリーン 21.0 × 24.6 受皿 27.3	チュリーン 19.1 受皿 3.3	チュリーン 14.0 受皿 16.3
101 深川製磁	色絵花兎唐草文洋食器 ②深皿	1894年～1920年代	佐賀県立九州陶磁文化館 高取紀子氏贈	24.2	4.6	12.8
102 深川製磁	色絵花兎唐草文洋食器 ③皿	1894年～1920年代	佐賀県立九州陶磁文化館 高取紀子氏贈	24.3	3.2	14.8
103 深川製磁	色絵花籠鶴文大皿	1894年～1920年代	佐賀県立九州陶磁文化館	46.6	4.6	26.3
104 深川製磁	色絵菖蒲文花瓶	1894年～1920年代	佐賀県立九州陶磁文化館 高取紀子氏贈	9.7	31.6	8.9
105 深川製磁	色絵菖蒲文葉形長皿	1894年～1920年代	佐賀県立九州陶磁文化館 高取紀子氏贈	13.4 × 42.2	3.4	7.4 × 31.4
106 香蘭社	薄瑠璃地扇面文大花瓶（対）	1900年～1920年代	公益財団法人鍋島報効会	16.5	55.4	18.1
107 香蘭社	染付陽刻松竹梅文大花瓶	1894年	公益財団法人鍋島報効会	15.8	58.9	20.2
108 深川製磁	色絵鳳凰文大花瓶	1900年～1920年代	公益財団法人鍋島報効会	21.7	69.0	28.2
109 香蘭社	染付青磁陽刻雲鶴文耳付大花瓶	1910年～1920年代	公益財団法人鍋島報効会	18.5	55.0	21.5
110 香蘭社	染付杏葉唐草文洋食器 ①コンポート	1925年～1929年	公益財団法人鍋島報効会	23.8	9.5	12.1
111 香蘭社	染付杏葉唐草文洋食器 ②ミルク入れ	1925年～1929年	公益財団法人鍋島報効会	14.8 × 10.2	10.0	8.0
112 香蘭社	染付杏葉唐草文洋食器 ③砂糖壺	1925年～1929年	公益財団法人鍋島報効会	9.3	12.7	9.0
113 香蘭社	染付杏葉唐草文洋食器 ④皿	1925年～1929年	公益財団法人鍋島報効会	19.5	2.2	11.5
114 香蘭社	染付杏葉唐草文洋食器 ⑤コーヒー碗・皿（2客）	1925年～1929年	公益財団法人鍋島報効会	碗 6.7 皿 11.8	碗 5.6 皿 2.3	碗 3.1 皿 7.0
115 香蘭社	染付杏葉唐草文洋食器 ⑥紅茶碗・皿（2客）	1925年～1929年	公益財団法人鍋島報効会	碗 8.8 皿 14.0	碗 5.2 皿 2.5	碗 4.2 皿 8.6
116 香蘭社	色絵竹林文壺	1879年～1880年代	有田ポーセリンパーク	20.8	36.2	15.5
117 香蘭社	色絵竹林文耳付花瓶（対）	1879年～1880年代	有田ポーセリンパーク	9.9	24.4	9.5
118 香蘭社	色絵竹林文大皿	1879年～1880年代	株式会社香蘭社	37.5	5.4	22.4
119 香蘭社	色絵竹林文紅茶セット ①ポット	1890年～1910年代	株式会社香蘭社	5.5	12.8	5.2
120 香蘭社	色絵竹林文紅茶セット ②ミルク入れ	1890年～1910年代	株式会社香蘭社	5.0 × 4.0	8.9	4.4
121 香蘭社	色絵竹林文紅茶セット ③砂糖壺	1890年～1910年代	株式会社香蘭社	6.0	9.5	5.2
122 香蘭社	色絵竹林文紅茶セット ④碗・皿（2客）	1890年～1910年代	株式会社香蘭社	碗 8.5 皿 12.0	碗 3.5 皿 2.3	碗 3.3 皿 7.0

制作者（産地名）	作品名	制作年	所蔵者	口径	高さ	底径（cm）
123 香蘭社	金彩菊花流水文洋食器 ①ソース入れ・受皿	1890年～1900年代	個人	ソース入れ 19.7 × 10.3 受皿 23.8 × 14.8	ソース入れ 9.6 受皿 4.7	ソース入れ 9.8 × 6.8 受皿 13.3 × 9.7
124 香蘭社	金彩菊花流水文洋食器 ②碗・皿	1890年～1900年代	個人	碗 11.3 皿 18.3 × 15.5	碗 6.2 皿 2.2	碗 6.0 皿 11.8 × 9.1
125 香蘭社	金彩菊花流水文洋食器 ③深皿	1890年～1900年代	個人	25.0	4.1	14.0
126 香蘭社	金彩菊花流水文洋食器 ④皿（大）	1890年～1900年代	個人	25.1	3.3	15.7
127 香蘭社	金彩菊花流水文洋食器 ⑤皿（中）	1890年～1900年代	個人	21.9	2.6	13.3
128 香蘭社	金彩菊花流水文洋食器 ⑥皿（小）	1890年～1900年代	個人	18.6	2.2	10.8
129 香蘭社	金彩菊花流水文洋食器 ⑦皿（極小）	1890年～1900年代	個人	8.0	1.9	3.5
130 香蘭社	色絵御所車文大花瓶	1915年～1930年代	個人	30.4	58.5	22.5
131 香蘭社	釉下彩陽刻翡翠鯉文大花瓶	1890年～1910年代	有田ポーセリンパーク	15.3	44.2	15.8
132 香蘭社	染付藤文洋食器 ①ポット	1910年頃	公益財団法人立花家史料館	7.6	20.4	7.7
133 香蘭社	染付藤文洋食器 ②ミルク入れ	1910年頃	公益財団法人立花家史料館	12.5	11.2	6.2
134 香蘭社	染付藤文洋食器 ③砂糖壺	1910年頃	公益財団法人立花家史料館	7.8	13.2	7.4
135 香蘭社	染付藤文洋食器 ④紅茶碗・皿（2客）	1910年頃	公益財団法人立花家史料館	碗 8.2 皿 13.6	碗 5.5 皿 1.8	碗 3.7 皿 7.5
136 香蘭社	染付藤文洋食器 ⑤コーヒー碗・皿（2客）	1910年頃	公益財団法人立花家史料館	碗 6.2 皿 12.3	碗 5.9 皿 1.8	碗 4.2 皿 6.7
137 香蘭社	染付藤文洋食器 ⑥チュリーン	1910年頃	公益財団法人立花家史料館	25.6 × 18.0	14.6	13.3 × 19.2
138 香蘭社	染付藤文洋食器 ⑦キャセロール	1910年頃	公益財団法人立花家史料館	30.4 × 24.0	6.1	23.0 × 15.3
139 香蘭社	染付藤文洋食器 ⑧コンボート	1910年頃	公益財団法人立花家史料館	26.7	12.3	13.5
140 香蘭社	染付藤文洋食器 ⑨ソース鉢	1910年頃	公益財団法人立花家史料館	13.9	11.8	9.9
141 香蘭社	染付藤文洋食器 ⑩ソース入れ・受皿	1910年頃	公益財団法人立花家史料館	ソース入れ 22.2 × 8.2 受皿 23.0 × 14.0	ソース入れ 12.8 受皿 3.2	ソース入れ 9.4 × 7.0 受皿 13.3 × 8.5
142 香蘭社	染付藤文洋食器 ⑪楕円皿（大）	1910年頃	公益財団法人立花家史料館	54.0 × 35.6	7.2	36.6 × 22.7
143 香蘭社	染付藤文洋食器 ⑫魚皿	1910年頃	公益財団法人立花家史料館	51.2 × 19.5	5.1	43.3 × 13.0
144 香蘭社	染付藤文洋食器 ⑬スープ皿	1910年頃	公益財団法人立花家史料館	24.3	3.7	13.7
145 香蘭社	染付藤文洋食器 ⑭皿（大・2客）	1910年頃	公益財団法人立花家史料館	24.6	2.7	14.6
146 香蘭社	染付藤文洋食器 ⑮皿（小・2客）	1910年頃	公益財団法人立花家史料館	18.5	1.6	11.7
147 香蘭社	染付藤文洋食器 ⑯パン皿（2客）	1910年頃	公益財団法人立花家史料館	15.4	1.6	9.6

制作者（産地名）	作品名	制作年	所蔵者	口径	高さ	底径（cm）
148 香蘭社	染付藤文洋食器 ㊦バター皿（2客）	1910年頃	公益財団法人立花家史料館	9.5	1.7	4.9
149 香蘭社	染付藤文洋食器 ㊧フィンガーボール（2客）	1910年頃	公益財団法人立花家史料館	13.8	6.5	7.0
150	法國巴里府博覽會殘品三井物産 會社支店ニ委託分並送荷根居	1878年	株式会社香蘭社			
151	深海墨之介書簡（八代深川榮左 衛門宛）	1878年	株式会社香蘭社			
152	米国ボストン府博覽會磁器出品 目録	1883年	株式会社香蘭社			
153	図案 201		株式会社香蘭社			
154	図案 202		株式会社香蘭社			
155	図案 203		株式会社香蘭社			
156	図案 204		株式会社香蘭社			
157	図案 205		株式会社香蘭社			
158	図案 206		株式会社香蘭社			
159	図案 207		株式会社香蘭社			
160	図案 208		株式会社香蘭社			
161	図案 209		株式会社香蘭社			
162	図案 210		株式会社香蘭社			
163	図案 211		株式会社香蘭社			
164	図案 212		株式会社香蘭社			
165	図案 213		株式会社香蘭社			
166	図案 214		株式会社香蘭社			
167	図案 215		株式会社香蘭社			
168	図案 216		株式会社香蘭社			
169	図案 217		株式会社香蘭社			
170	図案 218		株式会社香蘭社			
171	図案 219		株式会社香蘭社			
172	図案 220		株式会社香蘭社			
173	図案 221		株式会社香蘭社			
174	図案 222		株式会社香蘭社			
175	図案 223		株式会社香蘭社			
176	図案 224		株式会社香蘭社			
177	図案 225		株式会社香蘭社			
178	図案 226		株式会社香蘭社			
179	図案 227		株式会社香蘭社			
180	図案 228		株式会社香蘭社			
181	図案 229		株式会社香蘭社			
182	図案 230		株式会社香蘭社			
183	図案 231		株式会社香蘭社			

招き猫亭コレクション 猫まみれ展 アートになった猫たちー浮世絵から現代美術まで

「招き猫亭」と名乗る愛猫家夫妻が40年を費やして集めた古今東西の「猫」作品を紹介する展覧会。浮世絵から現代アートまでを網羅した400点を超えるコレクションの中から279点を厳選して展示した。

スタンラン、ピアズリー、ルイ・イカール、ウォーホルら海外の作家たちの作品をはじめ、鼠除けの御札として描かれた《新田猫》、歌川国芳、広重らの浮世絵に描かれた表情豊かな江戸の猫たち、さらには、竹久夢二、レオナルド・フジタ、小林清親、鬚囃、横尾忠則、簀内佐斗

司、西誠人、大森暁生、呉亜沙など、近現代のバラエティに富んだ作家たちの絵画、彫刻、版画、ポスターなどが昨今の猫ブームとも重なって話題となり、新たな来館者層を誘引した。

会期中には、猫の魅力を解剖学的に掘り下げる講演会や猫を題材とした実技講座、猫の癒しをイメージしたコンサートなどを開催し、展覧会名のごとく「猫まみれ」な美術館体験を工夫した。シール仕立ての有料チケットも購入者の好反応を得ることができた。

会 期 平成28年9月17日(土)～10月23日(日)

会 場 いわき市立美術館 企画展示室

主 催 いわき市立美術館

協 力 招き猫亭

企画協力 アートシード



作品リスト

No	作家名	作品名	制作年	技法
1	大森晩生	月夜のテーブル — Burmese —	2014年	楠、櫨、漆、彩色、ガラス
2	テオフィル・アレクサンドル・スタンラン	猫と少女	1898年	紙、リトグラフ
3	テオフィル・アレクサンドル・スタンラン	冬—クッションの上の猫	1919年	紙、リトグラフ
4	テオフィル・アレクサンドル・スタンラン	夏—手すりの上の猫	1919年	紙、リトグラフ
5	レオナール・フジタ	猫を抱く少女	1950年	紙、水彩
6	レオナール・フジタ	猫	1938年	紙、水彩
7	レオナール・フジタ	尾の黒い猫 [「猫十態」より]	1929年	紙、エッチング
8	レオナール・フジタ	アホリババ [「猫二十態」より]	1930年	紙、コロタイプ
9	レオナール・フジタ	クリソテミス [「猫二十態」より]	1930年	紙、コロタイプ
10	レオナール・フジタ	ミラ [「猫二十態」より]	1930年	紙、コロタイプ
11	レオナール・フジタ	若い猫	1952年	印画紙、インク
12	高橋弘明	ジャパニーズ・ボブテイル	1924年	紙、木版
13	小林清親	猫と提灯	1877年	間倍判錦絵
14	勝川春潮	二美人	江戸後期	柱絵判錦絵
15	二代喜多川歌麿	花魁と猫	制作年不詳	大判錦絵 縦二枚続
16	歌川豊清	今やう美人娘あはせ	1812年頃	大判錦絵
17	歌川重宣（二代広重）	当世見立五節句	1850年代後半	大判錦絵
18	二代歌川国貞	花盛土農工商	1852年頃	大判錦絵 三枚続
19	歌川国貞（三代歌川豊国）	子宝遊「猫」	1832年頃	大判錦絵
20	三代歌川豊国	模擬六佳撰 文屋康秀	1847-52年頃	大判錦絵
21	三代歌川豊国	愛妾胡蝶	1853年	大判錦絵
22	二代歌川国貞（四代豊国）	女粧三十六貴賤 東京本町花よめ縫針	明治期	大判 錦絵
23	歌川広重	名所江戸百景 浅草田圃西の町詣	1857年	大判錦絵
24	歌川広重	浄るり町繁花の図	1852年	大判錦絵
25	歌川広重	戯画	制作年不詳	小判 錦絵
26	三代歌川豊国	五十三次の内 岡部丸子の間 宇津谷猫石	1854年	大判錦絵
27	三代歌川豊国	五十三次の内 京	1854年	大判錦絵 三枚続
28	歌川国芳	日本駄右エ門 猫之古事	1847年頃	大判錦絵 三枚続
29	歌川国芳	見立東海道五拾三次 岡部 猫石の由来	1847年	大判錦絵 三枚続
30	歌川国芳	流行逢都繪希代稀物	1852年頃	大判錦絵 三枚続
31	歌川国芳	曲亭翁精著八犬士随一 犬村大角	江戸後期	大判錦絵
32	歌川国芳	流行猫の戯 おしゆん傳兵衛 身の臭姪色時	1847年	大判錦絵
33	歌川国芳	流行猫の戯 道行 猫柳姪月影	1847年	大判錦絵
34	歌川国芳	流行猫の戯 袂糞氣罵責段	1847年	大判錦絵
35	歌川国芳	流行猫の戯 かがみやな 草履恥の段	1847年	大判錦絵
36	歌川国芳	流行猫の戯 梅が枝無間の真似	1847年	大判錦絵
37	歌川国芳	浮世四十八癖 はなしをききたがるくせ	1847-52年頃	大判錦絵
38	歌川国芳	艶姿十六女仙 豊干禪師	1847-52年頃	大判錦絵
39	歌川国芳	艶姿十六女仙 蝦蟇	1847-52年頃	大判錦絵
40	件亭／伊万里	伊万里国芳猫文様豆皿	1947-52年頃	陶器
41	歌川国芳	猫飼好五十三疋（復刻版）	制作年不詳	大判錦絵 三枚続
42	歌川国芳	山海めでたいづえ はやくきめたい	1852年	大判錦絵
43	歌川国芳	山海愛度圖會 えりをぬきたい	1852年	大判錦絵
44	歌川国芳	猫の百面相	1840年代	大判錦絵
45	歌川国芳	猫の妙術	1847-52年頃	大判錦絵
46	豊原国周	珍猫見立善悪鏡	1884年	大判錦絵 三枚続
47	歌川（落合）芳幾	手習鑑虎小家の段	1860年	大判錦絵
48	歌川（落合）芳幾	与はなさけ浮名の横ぐし	1860年	大判錦絵
49	河鍋曉斎	戯画	明治初期	小判錦絵
50	河鍋曉斎	戯画	明治初期	小判錦絵
51	作者不詳	志ん板ねこづくし	1908年	大判錦絵
52	歌川国梅	新ばん猫世帯まこしらへ	1877年	大判錦絵
53	歌川国利	しんばんねこ尽	明治初期	大判錦絵
54	歌川芳藤	猫の善悪	明治初期	大判錦絵
55	作者不詳	両めんにやつくし	1909年	大判錦絵
56	歌川国利	流行温泉の圖	明治初期	大判錦絵

No	作家名	作品名	制作年	技法
57	永島春暁	猫の温泉あそび	明治初期	大判錦絵
58	歌川国年	猫尽し	1884年	大判錦絵
59	作者不詳	新版猫と鼠の戯	明治初期	大判錦絵
60	作者不詳	新板ねこの弥次きた	明治初期	大判錦絵
61	アドルフ・リヨン・ウィレット	作品名不詳	制作年不詳	紙、エッチング
62	オーブリー・ピアズリー	黒猫	1884年	紙、ラインブロック
63	ルイ・イカール	スイート・ミステリー	1935年	紙、エッチング
64	レオノール・フィニ	飛ぶ魔女	制作年不詳	紙、エッチング
65	マルク・シャガール	猫と2羽のスズメ「ラ・フォンテーヌの寓話」より	1952年	紙、エッチング
66	アンリエット・ロナー	ベル著「アンリエット・ロナーの猫と子猫」	1894年（初版）	大判版元装丁
67	梅素 薫	東京自慢名物會 魚問屋 伊勢屋	1896年	大判 錦絵
68	歌川（落合）芳幾	東京日々新聞 八百五十六号	1874年頃	大判錦絵
69	豊原国周	錦織 武蔵の別品	1883年頃	大判錦絵
70	大蘇（月岡）芳年	見立多以尽より とりけしたい	1878年	大判錦絵
71	大蘇（月岡）芳年	古今比賣鑑 薄雲	明治初期	大判錦絵
72	小林清親	清親法夢痴 東京深川洲崎	1881年	大判錦絵
73	水野年方	三十六佳撰 湯あがり 寛政の婦人	1894年	大判錦絵
74	竹久夢二	猫 [豆本]	1966年	紙、木版
75	竹久夢二	黒猫を抱く女 [やなぎ屋版]	1920年	紙、木版
76	岸田劉生	或る人々 [装幀木版画集より]	1920年	紙、木版
77	岸田劉生	猫と梅図 [装幀木版画集より]	1920年	紙、木版
78	浅井 忠	猫の草紙	制作年不詳	装幀画
79	川上澄生	Cat Town [猫町]	1935年	装幀画
80	川上澄生	眠り猫	制作年不詳	紙、木版
81	藤島武二	猫	制作年不詳	紙、水彩
82	作者不詳	夏日	制作年不詳	紙本着色
83	石川寅治	黒い猫	1934年	紙、木版
84	小糸源太郎	猫	制作年不詳	紙、水彩
85	大村廣陽	猫と黄蝶	1960年	紙、木版
86	井上長三郎	猫	制作年不詳	キャンヴァス、油彩
87	木村莊八	猫の銭湯	1953年	紙、木版
88	木村莊八	猫恋人（ねこらばさん）	制作年不詳	紙本着色
89	木村莊八	われがすみか 初代竹枝せん	1957～58年	紙本墨画
90	椿 貞雄	とら寝る図	1936年	紙、墨画着色
91	椿 貞雄	たま座る図	1931年	紙、墨画淡彩
92	椿 貞雄	たま寝る図	1930年頃	紙、墨画着色
93	椿 貞雄	ころ座る図	1940年	紙、墨画
94	猪熊弦一郎	二人の女	1986年	紙、ペン
95	猪熊弦一郎	少年と猫	1950年頃	紙、グアッシュ
96	村井正誠	猫 [絵馬]	1958年	木、グアッシュ
97	村井正誠	猫	1980年	紙、リトグラフ
98	小松 均	猫	制作年不詳	紙、木版
99	福沢健一	猫	制作年不詳	色紙、漆絵
100	山口華楊	華と猫	1983年	紙、リトグラフ
101	杉山 寧	ローマの猫	1963年	布、板裏打ち 着色
102	杉山 寧	猫	1950年	紙、鉛筆 着色
103	四代長谷川貞信	猫	1955年	布、着色
104	四代長谷川貞信	猫	1955年	布、着色
105	四代長谷川貞信	猫	1955年	布、着色
106	四代長谷川貞信	猫	制作年不詳	紙、木版
107	四代長谷川貞信	猫	制作年不詳	布、着色
108	斎藤 清	競艶	1973年	紙、木版
109	斎藤 清	黒猫 II	1955年頃	紙、木版
110	斎藤 清	黒猫 I	1955頃	紙、木版
111	斎藤 清	凝視	1952年	紙、木版
112	斎藤 清	猫	制作年不詳	紙、木版
113	関野準一郎	ペルシャ猫	1960年	紙、木版
114	関野準一郎	シャム猫	1960年	紙、木版

No	作家名	作品名	制作年	技法
115	関野準一郎	親子猫	1960年	紙、木版
116	中村直人	猫	制作年不詳	紙、リトグラフ
117	木内 克	猫	1960年	テラコッタ
118	植草甚一	猫男	1961年	紙、油彩
119	南 桂子	落葉と少女	1988年	紙、エッチング
120	浜田知明	蒸し暑い夜	1985年	紙、エッチング
121	浜田知明	夜	1988年	紙、エッチング
122	奥谷 博	招き猫	1994年	ヴェネツィアングラス
123	駒井哲郎	人のような猫	1961年	紙、エッチング
124	清宮質文	夕日と猫 II	1979年	紙、木版
125	清宮質文	夢の中へ	1983年	紙、木版
126	斎藤真一	化粧	1962年	キャンヴァス、油彩
127	斎藤真一	軽便鉄道	1988-89年	紙 エッチング
128	山城隆一	ネ・コラージュより	1972年	紙、コラージュ
129	朝倉 摂	スペードの女王	2009年	キャンヴァス、ミクストメディア
130	小泉淳作	猫	2007年	紙本着色
131	小泉淳作	猫	1990年	紙、リトグラフ
132	竹内浩一	香	1999年	紙本着色
133	穂月 明	板塀の子猫	制作年不詳	紙本着画
134	小林ドンゲ	女と猫シリーズより「白いレース」	1980年	紙、エッチング
135	小林ドンゲ	猫を抱く婦人	制作年不詳	紙、エッチング
136	金子國義	Micky & Lily	2002年	キャンヴァス、油彩
137	岩織 治	たそがれて	1970年頃	キャンヴァス、油彩
138	岩織 治	猫と女	1970年頃	キャンヴァス、油彩
139	下村良之介	陶虎	1986年	陶器
140	フジコ・ヘミング	猫十態（ソニア）	2005年	紙、木版
141	日野耕之祐	猫	制作年不詳	キャンヴァスボード、油彩
142	吉原英雄	猫とヌード	1978年	紙、リトグラフ、手彩色
143	山下清澄	私窩子	1973年	紙、エッチング
144	井上洋介	ふりむけば猫	1981年	紙、木版、手彩色
145	山下清澄	夜訪れる者たち	1971年	紙、エッチング
146	合田佐和子	キャッピーちゃん	1995年	キャンヴァス、油彩
147	合田佐和子	White Heart	2008年	キャンヴァス、油彩
148	横尾忠則	日の本の猫	1997年	紙、シルクスクリーン
149	巖 嘔	ルソーのピエール・ロティ氏の猫	1999年	紙、シルクスクリーン
150	巖 嘔	Don't look back	2001年	紙、シルクスクリーン
151	巖 嘔	怒	2001年	紙、シルクスクリーン
152	池田満寿夫	私の詩人・私の猫	1965年	紙、ドライポイント、ルーレット
153	秀島由己男	ピアズリーの中の秀島	2007年	紙、ラインブロック、インク
154	秀島由己男	猫のポートレイト	1982年	紙、メゾチント
155	秀島由己男	月夜	1981年	紙、メゾチント
156	秀島由己男	美しき野生（片耳リリー）	1987年	紙、エッチング、アクアチント
157	秀島由己男	春の城〔連載小説『春の城』挿絵〕	1997年	紙、フォトグラビュール、エッチングなど
158	秀島由己男	春の城-6〔連載小説『春の城』挿絵〕	1997年	紙、フォトグラビュール、エッチングなど
159	秀島由己男	春の城-143〔連載小説『春の城』挿絵〕	1998年	紙、フォトグラビュール、エッチングなど
160	秀島由己男	猫（ドレスのキャット）A	1998年	紙、フォトグラビュール、エッチング
161	秀島由己男	猫（キングのキャット）A	1998年	紙、フォトグラビュール、エッチング
162	秀島由己男	猫の鎧武者	2006年	紙、ミクストメディア
163	秀島由己男	夜の根子岳（猫岳）	2009年	紙、キャンヴァス裏打ち、ミクストメディア
164	秀島由己男	葉脈の中の猫	2013年	紙、ミクストメディア
165	秀島由己男	訪れる時と去る時	2011年	紙、ミクストメディア
166	秀島由己男	猫の平家物語（変わり雛）	2015年	キャンバス、古代布、テンペラ、油彩

No	作家名	作品名	制作年	技法
167	多賀 新	猫	1977年	紙、エッチング
168	多賀 新	Fish and Cat	1986年	紙、エッチング
169	多賀 新	如意輪（猫）観音	2011年	紙、鉛筆、蛍光ペン
170	多賀 新	夢みる猫〈Ⅱ〉	2009年	紙、鉛筆、色鉛筆、蛍光ペン
171	辻 憲	猫	1998年	紙、カラーメゾチント
172	福島武山	慈愛〔魚藍観音〕	2006年	紙本 着色
173	福島武山	香炉	2002年	磁器
174	重岡建治	猫	2012年	楠
175	秋山祐徳太子	猫男	2007年	ブリキ
176	柳原義達	猫	1963年頃	ブロンズ
177	吾妻兼治郎	二匹の猫	1965年	ブロンズ
178	吾妻兼治郎	猫 A	1965年	ブロンズ
179	吾妻兼治郎	猫 M	1966年	ブロンズ
180	浮田麻木	困ったニャー	2007年	鉄
181	若江漢字	タライ君人となり	2007年	キャンヴァス、アクリル
182	松井ヨシアキ	青い部屋の猫	制作年不詳	キャンヴァス、油彩
183	松井ヨシアキ	猫とコンサートⅡ	2005年	キャンヴァス、油彩
184	中佐藤滋	見失う前に彷徨ってしまう 緊いで言葉じゃなくて	2005年	キャンヴァス、アクリル
185	中佐藤滋	猫Ⅰ	2002年	キャンヴァス、アクリル
186	中佐藤滋	猫Ⅱ	2002年	紙、アクリル
187	中佐藤滋	紳士と猫	2003年	紙、鉛筆
188	中佐藤滋	男と猫	2002年	紙、鉛筆
189	相笠昌義	猫を抱く少女	1991年	キャンヴァス、油彩
190	木下 晋	トラの願望Ⅱ	2010年	紙、鉛筆
191	木下 晋	くつろぎ	1985年	紙、鉛筆
192	木下 晋	甘え	2007年	紙、鉛筆
193	弦屋光溪	〈アルチンボルドに捧ぐ五題〉の内 猫	2013年	紙、木版
194	吉仲太造	Playing cat	1977年	キャンヴァス、油彩
195	緑川俊一	ラウンド・アバウト・ミッドナイト	2009年	キャンヴァス、油彩
196	緑川俊一	猫	2007年	紙、コンテ、コラージュ
197	門坂 流	黒猫〔ミュウ〕	2005年	紙、ペン、水彩
198	門坂 流	カール	2007年	紙、鉛筆
199	門坂 流	猫	2007年	紙、鉛筆、水彩
200	アンディ・ウォーホル	Sam	1954年	紙、リトグラフ、手彩色
201	ビュール・ルシュール	猫のいる室内	1998年	紙、キャンヴァス裏打ち、油彩
202	古田恵美子	ふとおもうネコ	2009年	キャンヴァス、油彩、クレパス
203	古田恵美子	夜の散歩ネコ	2009年	キャンヴァス、油彩、木炭
204	落田洋子	セロトニンが足りない	2009年	キャンヴァス、油彩
205	落田洋子	お気に入り追加	2009年	キャンヴァス、油彩
206	十時孝好	NEKO 90-11	1990年	板、アクリル
207	八木原由美	Friends	2008年	紙、リトグラフ
208	細迫 諭	スケッチー黒猫 T	制作年不詳	紙、油彩、アクリル、鉛筆
209	中西 良	夕暮れ	2009年	麻布に石膏下地、油彩
210	山中 現	窓辺	2003年	紙、木版
211	山中 現	秘密	1999年	紙、ドライポイント、ルーレット
212	山中 現	生	1999年	紙、ドライポイント、ルーレット
213	西 誠人	伸太郎	2002年	木
214	西 誠人	燐太郎	2005年	木
215	大塚茂吉	猫	2009年	テラコッタ
216	籾内佐斗司	猫も歩けば	1998年	ブロンズ
217	籾内佐斗司	尻上がり寧子	1993年	ブロンズ
218	安元亮祐	蒼い猫	2000年	板、木、アクリル、ミクストメディア
219	安元亮祐	月を呼ぶ猫	2002年	板、木、アクリル、ミクストメディア
220	安元亮祐	砂漠の秘宝	2003年	紙、布など、アクリル、ミクストメディア
221	安元亮祐	アフリカの風—おすまし猫	2005年	木、アクリル、ミクストメディア
222	安元亮祐	雨を呼ぶ猫	2002年	キャンヴァス、アクリル
223	山本雅子	imitation	制作年不詳	キャンバス、油彩、コラージュ

No	作家名	作品名	制作年	技法
224	寛 本生	猫とギャルソン	2010年	キャンヴァス、油彩
225	山本容子	Cheshire-cat 94'	1994年	紙、エッチング
226	山本容子	Cheshire-Chonta	1994年	紙、エッチング、手彩色
227	横山貞二	たまの外出	1998年	紙、木版、油彩
228	横山貞二	猫と在る	2009年	紙、木版、油彩
229	生田宏司	やすらぎの時	1998年	紙、メゾチント
230	生田宏司	子猫と子鼠 II	1998年	紙、メゾチント
231	生田宏司	芽ばえ IV・猫	1998年	紙、メゾチント、手彩色
232	生田宏司	猫	2002年	紙、岩絵の具
233	生田宏司	猫と猫頭鷹	2000年	紙、メゾチント
234	生田宏司	キャットテール	2005年	紙、カラーメゾチント
235	生田宏司	微風の香り	2002年	紙、カラーメゾチント
236	佐藤健吾エリオ	猫 I	2000年	紙、水彩
237	佐藤健吾エリオ	猫 II	2000年	紙、水彩
238	成田朱希	猫舌三昧	2002年	紙、鉛筆
239	小澤清人	クレオパトラの猫	1987年	板、油彩
240	與倉 豪	テリトリ	2007年	紙、ペン
241	三沢厚彦	cat	2002年	紙、ペン、色鉛筆
242	成田朱希	ラビリンス	2002年	紙、インク、鉛筆
243	成田朱希	ラビリンス	2002年	紙、インク、鉛筆
244	成田朱希	ラビリンス	2002年	紙、インク、鉛筆
245	成田朱希	ラビリンス	2002年	紙、インク、鉛筆
246	成田朱希	ラビリンス	2002年	紙、インク、鉛筆
247	國司華子	ネコ君	2002年	紙本着色
248	辻村和美	障子	2006年	紙本着色
249	蔡 國華	ある日一心地良い	2010年	紙、木炭、コンテ、水彩、パステルなど
250	蔡 國華	孤高	2009年	紙、コンテ
251	山下英二	森へ行こう	2007年	テラコッタ
252	三沢厚彦	Head " 猫 "	2000年	桂、アクリル、油彩
253	大森暁生	ぬけない棘の山猫	1999年	ブロンズ、大理石
254	山下まゆみ	鏡の国	2006年	紙本着色
255	山田純嗣	(10-3) TURN AROUND	2010年	ポリコートパネルに印画紙、樹脂、パール粉、インタリオ・オン・フォト
256	柏本龍太	休日	制作年不詳	キャンヴァス、油彩
257	小川芋銭	寒巖三公	明治期	紙本墨画淡彩
258	川合玉堂	猫児	1913年	紙本墨画淡彩
259	樋口富麻呂	黒猫	制作年不詳	紙本着色
260	脇屋（新田）義明	猫図〔新田猫〕	江戸後期	紙本墨画淡彩
261	岩松（新田）道純	猫図〔新田猫〕	江戸後期	紙本墨画淡彩
262	岩松（新田）俊純	猫図〔新田猫〕	江戸後期	紙本墨画淡彩
263	岩松（新田）徳純	猫図〔新田猫〕	江戸後期	紙本墨画淡彩
264	婦舟	猫図〔新田猫〕	江戸後期	紙本墨画淡彩
265	簗内佐斗司	寧子	1989年	木、漆
266	松田 剣	猫面	2011年	テラコッタ
267	鈴木敦子	光る	2007年	紙、木版
268	鈴木敦子	あっちこっち	2009年	紙、木版
269	鈴木敦子	花の便り	2005年	紙、木版
270	田嶋 健	ねこお	2007年	紙、木版
271	名嶋憲児	寧日	1999年	紙、木版
272	呉 亜沙	考	2003年	紙、鉛筆、クレヨン、アクリル
273	呉 亜沙	in the bottle -rainbow-	2006年	紙、ドライポイントなど
274	呉 亜沙	Flying Cat	2003年	キャンヴァス、油彩
275	呉 亜沙	団	2003年	紙、アクリル
276	呉 亜沙	Passer	2004年	キャンヴァス、油彩
277	呉 亜沙	行き先	2003年	キャンヴァス、油彩
278	伊藤亜矢美	たぬさんネコ	2003年	紙、モノタイプ
279	伊藤亜矢美	たぬさんネコ 2	2003年	紙、モノタイプ

川島清一彫刻の黙示 路傍・淵・水量

彫刻は、現実の場と強くかかわり、そして彫刻を場に成り立たせる物質に対する思考の在り方は、彫刻の存在にかかわるもっとも重要な問題と言える。

場に対する考察を通して彫刻は、それを取りまく社会や環境との関係のなかで成立していることが明らかとなり、また彫刻を場に形作る物質に対する探求は、フォルム（形）やヴォリューム（量塊）といった従来の彫刻に対する観点に加え、作家と物質の関係から浮上する記憶や時間という事物の根源に差し迫る新たな視点を導き出している。

川島清は1980年代初頭より作品を発表して以来、事物に対する思考を積み重ね、その継続と実践のなかで、この彫刻の核心にかかわる問題を鋭く照射し続け、今日までその高い精神性に支えられた作品を通して常に関心を集めてきた。

川島は、私たちが生きているこの現実において作品が如何に実在し、そして如何に時代に対する批評性を有した存在であるべきか、という

問いを投げ掛け、近年の《水量》シリーズに顕著な凝縮した密度は場に彫刻が在ることの必然として見いだされた力であり、社会や環境における彫刻の実質として川島が選び取った回答のひとつであったと思われる。そして《路傍ノート》に至り、密度という彫刻的な力の発現は迂回され、日常性を有した無名の「もの」たちに内在する時間と記憶へのアプローチを通して新たな作品の展開が示されている。

本展では、近年制作を進める《水量》シリーズと新作を加えた《路傍ノート》全作の展示を通して、彫刻にかかわる問題の本質を切り拓く思考の有り様を何うとともに、時代をみつめ、物質を凝視する川島の眼と身体によってもたらされた作品世界を紹介した。

会期中、川島清、小泉晋弥（茨城大学教授）、担当学芸員による鼎談「川島清 路傍ノートをめぐって」が開催され、《路傍ノート》と水俣の関係や芸術と教育という観点から語られた川島論など、川島清の作品に対する新たな視点が提示された。

会 期 平成28年11月3日（木、祝）～12月11日（日）

会 場 いわき市立美術館 企画展示室及び1階ロビー

主 催 いわき市立美術館／読売新聞社／美術館連絡協議会

協 賛 ライオン／大日本印刷／損保ジャパン日本興亜



出品作品	制作年	素材	高 横 奥行 (cm)	初出品
1 水量－二胴体	1984/2004-2005	鉄、鉛、木、ラバー、オイル、ニス	72.7 × 59 × 705	川島清展 水量 (2005 年 ギャラリー東京ユマニテ)
2 水量－鉄・桜	1984/2000-2006	鉄、木	82.5 × 60.5 × 161.6	川島清展 水量Ⅱ (2006 年 ギャラリー東京ユマニテ)
3 水量－胴体容Ⅰ	2006-2007	鉄、木、砂、オイル、ニス	82.3 × 59.5 × 650	川島清 水量Ⅲ (2007 年 ギャラリー東京ユマニテ)
4 水量－二卵性Ⅰ	2008	鉄、木、ニス	105 × 194 × 81	川島清 水量Ⅳ (2008 年 ギャラリー東京ユマニテ)
5 水量－二卵性Ⅱ	2008	鉄、木、ニス	105.5 × 194 × 80.5	川島清 水量Ⅳ (2008 年 ギャラリー東京ユマニテ)
6 水量－胴体容Ⅱ	2008-2009	木、鉄、鉛、樹液、胡粉、油土、オイル	75 × 78 × 701	川島清 水量Ⅴ (2009 年 ギャラリー東京ユマニテ)
7 水量－胴体容Ⅲ	2000/2010	木、鉄、鉛、石膏、麻、枝豆、胡粉、油土	122.5 × 121 × 496	川島清 水量Ⅵ (2010 年 ギャラリー東京ユマニテ)
8 水量－円柱・熱変	1989/2012-2013	木、鉄、鉛、油土、ニス、LP ボンベ	66.5 × 85 × 316	川島清 水量Ⅶ (2013 年 gallery21yo-j)
9 路傍ノートⅠ	1985-2009-2011	鉄、銅線、ラバー	99 × 208 × 100	川島清 路傍ノート (2011 年 ギャラリー東京ユマニテ)
10 路傍ノートⅡ	2001/2010-2011	鉄、石膏、油土、麻、ロープ	136.5 × 192 × 107	川島清 路傍ノート (2011 年 ギャラリー東京ユマニテ)
11 路傍ノートⅢ	2010-2011	鉄、銅線、植枝	97 × 192 × 107	川島清 路傍ノート (2011 年 ギャラリー東京ユマニテ)
12 路傍ノートⅣ	2010-2011	鉄、縄ロープ	98 × 192 × 101	川島清 路傍ノート (2011 年 ギャラリー東京ユマニテ)
13 路傍ノートⅤ	2002/2011	鉄、木、油土、麻袋	111 × 204 × 118	川島清 路傍ノート (2011 年 ギャラリー東京ユマニテ)
14 路傍ノートⅥ	2010-2011	鉄、鉛、銅線、枝豆の枝、ロープ	100 × 192 × 118	川島清 路傍ノート② (2011 年 ギャラリー東京ユマニテ)
15 路傍ノートⅦ	2010-2011	鉄、鉛、銅、木、石膏、セメント	90 × 192 × 97	川島清 路傍ノート② (2011 年 ギャラリー東京ユマニテ)
16 路傍ノートⅧ	2010-2011	鉄、木、油土、ワイヤーロープ	102 × 257 × 192	川島清 路傍ノート② (2011 年 ギャラリー東京ユマニテ)
17 路傍ノートⅨ	2012	鉄、鉛、木、ガラス	111 × 193.2 × 97	川島清 路傍ノート③ (2012 年 ギャラリー東京ユマニテ)
18 路傍ノートⅩ	2015-2016	鉄、鉛、銅線、ラバー	102 × 192 × 119.5	新作
19 路傍ノートⅩⅠ	2016	鉄、木	181 × 192 × 97	新作
20 路傍ノートⅩⅡ	2006/2016	鉄、鉛、木	100.4 × 192 × 97	新作
21 路傍ノートⅩⅢ	2002/2015-2016	鉄、鉛、銅線、真鍮、麻、油土、ガラス、植物 (コケシノブ)	154 × 205 × 151	新作
22 路傍ノートⅩⅣ	2015/2016	鉄、銅、木、藁、蜜蝋、ワックス	103 × 192 × 97	新作
23 水量－ケヤキの根	2005	鉄、木、鉛、油土、ラバー	55 × 61 × 90	川島清展 水量 (2005 年 ギャラリー東京ユマニテ)
24 水量－ケヤキ	2005-2006	鉄、鉛、木、油土、ラバー	45 × 41 × 68.5	川島清展 水量Ⅱ (2006 年 ギャラリー東京ユマニテ)
25 水量－鯨耳腔	2007	鉄、木、鉛、油土、ラバー	43.8 × 63 × 56.5	川島清展 水量Ⅲ (2007 年 ギャラリー東京ユマニテ)
26 水量－傾背体	2014	鉄、木、鉛、植物 (コケシノブ)	101 × 55 × 49	川島清展 水量 (2005 年 ギャラリー東京ユマニテ)
27 シートⅣ	2000/2008-2009	アクリル、ガッシュ、木炭、インク、鉄、シート	187 × 170	川島清展 MIMIZU (2009 年 ギャラリー東京ユマニテ)
28 パティオ 20	2001-2011	木、鉄	41 × 19.5 × 53	川島清 路傍ノート② (2011 年 ギャラリー東京ユマニテ)
29 パティオ 23 －熱の兆	2001/2012	鉄、鉛、銅、磁石、インク、ワックス	8.5 × 38.2 × 20.7	
30 パティオ 24 －水の兆	2001/2012	鉄、鉛、銅線、麻、桜の葉、ワックス	8.5 × 20.7 × 38.2	

出品作品	制作年	素材	高 横 奥行 (cm)	初出品
31 パティオ 30 -銅巻	2014	木、銅線、ハンマー	77 × 19 × 21	川島清展 水量Ⅷ (2014 年 ギャラリー東京ユマニテ)
32 パティオ 34 -円筒立	2015	木、鉄	133.5 × 26 × 28	川島清展 パティオⅡ (2015 年 ギャラリー東京ユマニテ)
33 鏡-縫合Ⅰ	2012	鉛筆、紙	79 × 55	
34 鏡-縫合Ⅱ	2012	鉛筆、紙	79 × 55	
35 鏡-縫合Ⅲ	2012	鉛筆、色鉛筆、紙	79 × 55	
36 鏡-縫合Ⅳ	2012	鉛筆、紙	79 × 55	
37 凹のうち(1) 樹下のデルタ	2013	鉛筆、鉛粉、紙	79 × 56	
38 凹のうち(2) 樹下のデルタ	2013	鉛筆、鉛粉、紙	79 × 56	
39 凹のうち(3) 樹下のデルタ	2013	鉛筆、鉛粉、紙	79 × 56	
40 凹のうち(4) 長い指	2013	鉛筆、鉛粉、紙	79 × 56	
41 凹のうち(5) 長い指	2013	鉛筆、鉛粉、紙	79 × 56	
42 凹のうち(7) 硝子の陰	2013	鉛筆、鉛粉、紙	79 × 56	
43 茱萸の椎Ⅰ	2015	鉛筆、鉛粉、紙	154 × 103	
44 茱萸の椎Ⅱ	2015	鉛筆、鉛粉、紙	154 × 103	
45 茱萸の椎Ⅲ	2015	鉛筆、鉛粉、紙	154 × 103	

平成 28 年度 いわき市小・中学生版画展

「いわき市小・中学生版画展」は、いわき市内の児童生徒の日ごろの活動の成果を広く市民に紹介するとともに、児童生徒が造形学習や表現行為への興味と喜びを体験する機会とすることを目的に開館以来開催を続けている展覧会である。

「240cm × 240 cm以内の共同制作」という作品規格も 4 年目を迎え、各校に定着してきたようである。昨年比で見ると出品点数 1%増、参加者数 1%増、入場者数 3%増となっており、全体的に横ばいとなっている。横ばいではあるが、近年の学校数、児童数減少を考慮すれば、この数はむしろ肯定的にとらえることができる。

各学校の担当教員のアンケートによれば、作品の制作、搬入、搬出についてはおおむね好評であり、来観者からは展示構成について好意的な意見が寄せられていることから、当面は現在のスタイルと踏襲しつつ参加校および参加者の増加に向けて手立てを講じて行きたい。

会期中の催しとして フロッタージュ技法でのカードづくりに挑戦する恒例の「プリント・コーナー」を毎日開催するほか、恒例の「春を祝うコンサート＆パフォーマンス～おめでとう！春～」、わくわくアートスクール「パンの木版画」などの関連事業を開催し多くの参加者を得た。

会 期 平成29年1月5日（木）～1月29日（日）

前期展示 平成29年1月5日（木）～1月15日（日）

後期展示 平成29年1月18日（水）～1月29日（日）

会 場 いわき市立美術館

主 催 いわき市教育委員会 いわき市立美術館

協 力 いわき市小学校教育研究会図画工作部会 いわき市中学校教育研究会美術会



■参加校及び出品点数

参加校	63校	小学校 中学校 特別支援諸学校	53校 6校 4校	前期展示 展示点数（全て共同作品） 出品校 出品者数	150点 31校 3,789人
出品点数	327点	小学校 中学校 特別支援諸学校	266点 18点 43点	後期展示 展示点数（全て共同作品） 出品校 出品者数	177点 32校 3,429人
参加者数	7,181人	小学校 中学校 特別支援諸学校	6,504人 483人 194人		

■参加校一覧

◆前期展示校

【小学校】

平第二小学校
平第三小学校
平第四小学校
中央台北小学校
中央台南小学校
高久小学校
夏井小学校
赤井小学校
大浦小学校
久之浜第一小学校
小玉小学校
綴小学校
高坂小学校
高野小学校
好間第三小学校
好間第四小学校
小名浜第二小学校
小名浜西小学校
永崎小学校
泉小学校
泉北小学校
渡辺小学校
湯本第三小学校
磐崎小学校
植田小学校
錦東小学校

勿来第二小学校

上遠野小学校

入遠野小学校

【特別支援学校】

聾学校平分校

富岡養護学校

◆後期展示校

【小学校】

平第一小学校
平第五小学校
平第六小学校
郷ヶ丘小学校
中央台東小学校
豊間小学校
草野小学校
四倉小学校
大野第一小学校
久之浜第二小学校
小川小学校
川前小学校
桶壳小学校
小白井小学校
御厩小学校
宮小学校
好間第一小学校
好間第二小学校
小名浜第一小学校
鹿島小学校

江名小学校

湯本第一小学校

湯本第二小学校

汐見が丘小学校

【中学校】

平第二中学校

中央台南中学校

桶壳中学校

三和中学校

泉中学校

植田中学校

【特別支援諸学校】

平養護学校

いわき養護学校



NEW ART SCENE IN IWAKI

久保木 桂子 ー境界のあいだにー

「ニューアートシーン・イン・いわき」では、将来の活躍が期待されるいわき市平出身の日本画家 久保木桂子を取り上げた。

久保木は1986年生まれの若手の日本画家ではあるが、大学院在学中の2011年に「海景」を描いた作品で日本画家の登竜門である「星野真吾賞」で優秀賞を受賞している。この他にも公募展で入賞を重ね個展やグループ展で積極的に作品を発表するなど実力派の若手作家である。

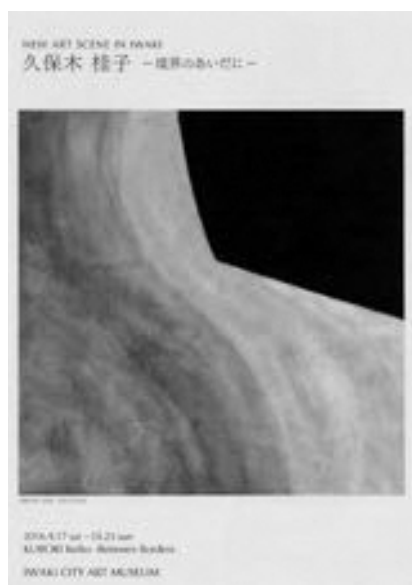
本展では、「境界のあいだに」というタイトルのもと、12点（うち11点新作）の平面作品を1階ロビーに展示。現代日本画の主流とは異なる目の細かい胡粉や絵具、金属泥・粉末を使って、物事の境界にある名前のつかないあいだの事象や白と黒に二分できない人間の曖昧で不確かな感情や感覚を描きだした作品を紹介した。

日本画の新しい表現と、それに挑戦し続けるいわき出身の若手作家を紹介できたことの意義は大きかった。

会 期 平成28年9月17日(土)～10月23日(日)

会 場 いわき市立美術館 1階ロビー

主 催 いわき市立美術館



No.	タイトル	制作年	サイズ (cm)	素材・技法
1	意識の反転	2015	91 × 91	和紙、胡粉、アルミ粉、銀泥、雲母、墨
2	無題	2016	60 × 50	和紙、アルミ粉、雲母、岩絵具
3	相似 C	2016	60 × 50	和紙、胡粉、雲母、墨
4	共時性	2016	162 × 52	和紙、雲母、墨
5	境界	2016	29.7 × 21	和紙、岩絵具、雲母、アルミ粉
6	波間 A	2016	16 × 23	和紙、雲母、岩絵具の具
7	波間 B	2016	16 × 23	和紙、胡粉、岩絵具、雲母
8	相似 A	2016	22 × 36	和紙、雲母、岩絵具、墨
9	相似 B	2016	22 × 36	和紙、銀泥、墨、チタン粉
10	相似	2016	130 × 194	和紙、胡粉、雲母、銀泥、墨
11	境界のあいだに	2016	120 × 210	和紙、胡粉、岩絵具、アルミ粉、雲母
12	潮の音	2016	170 × 170	和紙、胡粉、雲母、墨

第46回いわき市民美術展覧会

●書の部

一般応募 116 点（うち青少年 6 点）
展示点数 137 点（招待 21 点、一般 116 点）

●絵画・彫塑の部

一般応募 191 点（うち青少年 25 点）
展示点数 204 点（招待 12 点、遺作 1 点、一般 191 点）

●陶芸の部

一般応募 143 点（うち青少年 11 点）
展示点数 155 点（招待 12 点、一般 143 点）

●写真の部

一般応募 201 点（うち青少年 3 点）
展示点数 204 点（招待 3 点、一般 201 点）

第46回いわき市民美術展覧会（市美展）の応募・展示状況は上記の通り。

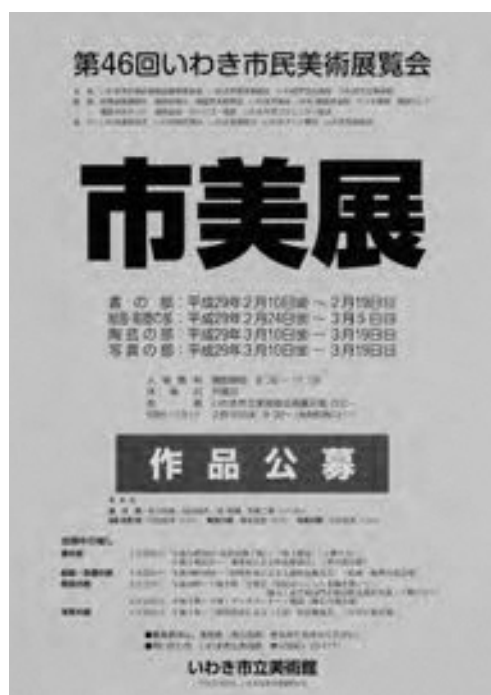
書の部は一般応募作品が過去最低となり、減少に歯止めがかからない。いわきに限らず書離れが語られて久しいが、今後いかに書の魅力を伝えていくかが鍵となるであろう。普及活動の一環として、今年も「席上揮毫」を開催。なお、本年から委嘱作家4名が招待作家となった。

絵画・彫塑の部は昨年より微増したものの、今年も落選なしですべて展示。高校生が教育長賞を受賞するなど、学生の活躍が目立った。

陶芸の部は過去最高の出品者となり、初めて書の部の出品者数を越えた。高校生の出品者も増えるなど、陶芸を楽しんでいる様子が伝わる展示となった。近年恒例の「呈茶会」、昨年より開催している「タッチコーナー」も多数の参加者でにぎわった。

写真の部は昨年より増え例年並みの点数となったが、やはり若年齢層の出品数が伸び悩んでいる。例年人気の高い「招待作家による作品解説会」は、今年も4部門中最も多い参加者を数えた。

このところ出品者数と同様に入場者数も年々減少傾向にあり、今年は過去最低だった一昨年とほぼ同じ数字となった。



会期 書の部

平成29年2月10日（金）～2月19日（日）

絵画・彫塑の部

平成29年2月24日（金）～3月5日（日）

陶芸の部

平成29年3月10日（金）～3月19日（日）

写真の部

平成29年3月10日（金）～3月19日（日）

会場 いわき市立美術館 企画展示室及びロビー

主催 いわき市民美術展覧会運営委員会

いわき市教育委員会

いわき市文化協会

いわき市立美術館

後援 財福島県報徳社 福島民報社 福島民友新聞社

いわき民報社 NHK福島放送局 ラジオ福島

福島テレビ 福島中央テレビ 福島放送

テレビユー福島 いわき市民コミュニティ放送

協力 いわき美術協会 いわき陶芸協会

いわき書道協会 いわきアート集団

いわき写真協会

審査員 書の部

村上皓南、田辺碩声、
滝 翠嶺、芳賀二葉（市内の書家）

絵画・彫塑の部 河内成幸（版画家）

陶芸の部 橋本昌彦（陶芸家）

写真の部 中村征夫（写真家）

書の部 入賞者

賞 名	作品名	作家名	住 所
いわき市長賞	静貞銘	樋田静流	錦町
いわき市議会議長賞	臨天長前漢簡	伊藤松茄	平赤井
いわき市教育委員会教育長賞	旅	井戸川保子	郷ヶ丘
《佳作》			
いわき市文化協会会長賞	臨傳山	菜花琴雪	四倉町
福島県報徳社賞	徐渭詩	山川榮雪	平
〃	夕焼空よ	阿部嶋泉	平下平窪
美術館友の会賞	齊龍辱	春日賢治	内郷高坂町
有限会社トーカイ賞	杜甫詩	村越紫苑	平
洛賞	韓奕詩	丹野清波	小名浜岡小名
遠藤一心堂賞	張元昇詩	長久保萩泉	勿来町
〃	袁桷詩	片寄光月	平
株式会社坂本紙店賞	春の足音	臺 麗子	遠野町滝
有限会社磐植賞	李青蓮詩	関根精香	中之作
キョー和賞	西行の歌をかく	西恵美子	四倉町
書優会賞	杜甫詩二首	吉村翠苑	平
アートスペース泉賞	鄧完白語句	馬目桜庵	泉もえぎ台
株式会社風雅プランニング賞	章有渭詩	鈴木暎月	錦町
〃	臨元永本古今集	猪狩晴美	四倉町
常磐工業株式会社賞	聲	藤田桂雪	四倉町
《特別賞》			
青少年（洛）賞	徐渭詩	鈴木弘明	平下平窪

※青少年賞は、若手育成を目的とした賞で、20歳未満の出品者を対象とする。

絵画・彫塑の部 入賞者

賞 名	作品名	作家名	住 所	部門
いわき市長賞	CORROSION'17- I	鈴木儀一	中央台	絵
いわき市議会議長賞	想	平子貞男	小川町 上小川	彫
いわき市教育委員会教育長賞	秋霖の中	佐藤沙月	常磐西郷町	絵
《佳作》				
いわき市文化協会会長賞	原風景	渡辺八市	平中山	絵
福島県報徳社賞	流れる秋	小井戸雅典	常磐松が台	絵
〃	季節の中で	高萩きよ子	錦町	絵
〃	古の記憶	吉田浩二	内郷御台境町	絵
美術館友の会賞	COSMOS	猪狩 萌	平赤井	絵
有限会社トーカイ賞	めぶく・ひかり	嶺崎茂子	小名浜岡小名	絵
株式会社箱崎美術広告社賞	◎ㇿ(曇り 東風 風力2)	鈴 忠壽	鹿島町走熊	絵
椿屋賞	明るい農村 (KAKASHI)	あきもとまさあき	勿来町	彫
〃	群鳥	鈴木幸雄	平下高久	絵
昭文堂賞	再会	橋本律子	平下平窪	絵
〃	FURUSATO-3	伊藤集三	平下神谷	絵
画廊喫茶モナミ賞	見つめる	村松真緒	桜ヶ丘	絵
ギャラリー磐城賞	風のこえ	江尻敏昭	郷ヶ丘	彫
アートスペース泉賞	時の移ろい 2016/02/23-2017/01/16	高木武廣	小名浜	絵
アートスペース エリコーナ賞	untitled,Pachai Cama	ダビ	好間町榊小屋	絵
《特別賞》				
青少年(ギャラリーわづくりや)賞	みつめる-未来を想う-	上遠野日向子	平	彫
青少年奨励 (X) 賞	秋霖の中	佐藤沙月	常磐西郷町	絵

※青少年賞は、若手育成を目的とした賞で、20歳未満の出品者を対象とする。

※青少年奨励 (X) 賞は、美術を志す青少年育成のため、25歳以下の上位受賞者を対象にダブル授与される。

陶芸の部 入賞者

賞 名	作品名	作家名	住 所
いわき市長賞	釉裏紅掻落文大鉢	樋田和代	小名浜下神白
いわき市議会議長賞	御影焼締め花入	新井節子	中央台
いわき市教育委員会教育長賞	万葉の黒船	蕪木良子	平北白土
《佳作》			
いわき市文化協会会長賞	彩り	萩野イチ子	泉町
福島県報徳社賞	天空への叫び	市川陶之臣	泉ヶ丘
美術館友の会賞	ブランク	Lapiy	四倉町
M氏賞（いわき陶芸協会）	竜宮様 私たちの望むものは	佐藤 界	明治団地
ギャラリー界限賞	青白磁香炉	伊藤由季子	小名浜上神白
ギャラリー磐城賞	象眼水指	山崎淳司	田人町南大平
アートスペース泉賞	沫雪の夜の梅	太田俊恵	泉ヶ丘
株会社生源太賞	芽吹き	芳賀明美	中央台
YK企画賞	帆	鈴木啓介	四倉町塩木
ギャラリー数茶賞	花器	山野辺よね子	四倉町
《特別賞》			
青少年賞 学校法人山崎学園賞	優	草野優衣	平北白土

※青少年賞は、若手育成を目的とした賞で20歳未満の出品者を対象とする。

写真の部 入賞者

賞 名	作品名	作家名	住 所
いわき市長賞	波濤暮色	小野貞夫	中央台
いわき市議会議長賞	佳穂10才	増井やよい	平
いわき市教育委員会教育長賞	ポニーの詩	上原久子	内郷内町
《佳作》			
いわき商工会議所会頭賞	書家	湯田由美	平
いわき市文化協会会長賞	歓喜の舞	長谷川清夫	四倉町
福島県報徳社賞	Gift	佐藤進吾	平
美術館友の会賞	寒風の恵み	長谷川恵子	四倉町
社団法人いわき観光まちづくりビューロー賞	怒濤	酒井和重	平
〃	晩秋の華	菊地英夫	平赤井
福島県写真館協会いわき支部賞	花園の目覚め	山田 清	錦町
昭文堂賞	春を待つ	野木道弘	常磐松が台
東日本国際大学賞	早春の水辺	中野徳夫	小川町高萩
YK写真工房賞	まもりたいもの	mana	小名浜岡小名
小百合賞（有）磐植	黒川能（伝承500年）	篠崎良司	若葉台
カメラのキタムラ賞	艶姿	佐藤隆義	常磐下湯長谷町
カメラの矢吹賞	威風堂々	久田和江	平
いわき写真協会賞	砂の美	根本隆意	内郷御台境町
イタリアンレストランテラッツァ賞	鎮魂の調	相馬 聡	中央台
丸貞かまぼこ賞	2人の宇宙	杉瀬悠汰	常磐上湯長谷町
源グループ賞	朝霧	今泉 弘	小川町上平
だいこん家賞	寸光	鈴木治子	常磐西郷町
写真ギャラリーコールビット賞	地球の神秘	吉田浩子	平下神谷
ミモザギャラリー賞	夢幻花	岩野保幸	平南白土
丸秀水産株式会社賞	氷貌	黒澤泰弘	平下平窪

普及事業
移動美術館

アートを活用し、活気と潤いのある日常環境を提案するアウトリーチ事業。年齢を問わず、気軽に楽しめるワークショップやセミナー・プログラムを持参して、希望者の集う市内施設を巡る。本年度は色彩、工作、味覚、美術鑑賞を多角的に楽しむ10種のプログラムを提案し希望者を募った。

日時	講師	会場	講座名(内容)
5月10日 9月10日	安斉重夫 (彫刻家)	磐城学芸専門学校(コミックアート科) 中央台公民館(ジュニアチャレンジ)	エッシャーのように絵を描こう"うずめ模様"で楽しいアート体験 エッシャーの繰り返し模様の作品に、数学の「四面体タイル定理」を応用して挑戦するプログラム。元高校数学教諭であった彫刻家の安斎重夫氏の指導のもと、実際に正四面体を展開して定理を実感しながらエッシャーの“うずめ模様”の楽しさを味わう。
5月12日 5月13日 5月18日 5月31日 6月1日 6月17日 6月24日 6月29日 7月20日 8月4日 9月1日 10月12日 10月14日 10月18日 10月20日 11月9日 11月18日 1月21日	当館学芸員	下永井公民館(いきいきデイクラブ) 川前公民館(川前一区サロン) 内郷公民館(内郷女性セミナー) 大浦小学校(2年生) 下三坂集会所(下三坂サロン) 川部公民館(高齢者学級) ゆったり館(碧空の会) 神谷公民館(いきいきミセス教室) 入遠野公民館(あさひ倶楽部) 川前12区集会所(川前12区サロン) 飯野公民館(さわやか女性セミナー) 玉川会館(玉川ゆずりは学級) 豊間公民館(豊間ゼミナール) 合戸集会所(合戸サロン) 上遠野公民館(遠野わいわい大人塾) 大浦小学校(6年生) 山田公民館(山田レディースセミナー) 四倉公民館(よつくらジュニアサークル)	切り絵・切り紙の楽しい世界 簡単な既成の下絵や参加者オリジナルの下絵を用いたアートカッターによる切り絵やはさみを用いて幅広い年代が楽しめるアイスクリーム切り紙、当館所蔵作品で楽しむ3D切り絵などを紹介。
5月20日	当館学芸員	川部中学校	展覧会を10倍楽しむ方法—女性を描く展 企画展の見どころや楽しみ方を、各展覧会担当学芸員がレクチャー形式で紹介。
6月16日	当館学芸員	草野公民館(市民セミナー)	展覧会を10倍楽しむ方法—田口安男展
8月23日	当館学芸員	中央公民館(素顔にエンジョイスクール)	展覧会を10倍楽しむ方法—明治有田展
9月28日 10月4日 10月6日 10月14日	当館学芸員	四倉公民館(四倉うしお学級) 磐城学芸専門学校(コミックアート科) 美術館(夏井市民セミナー) 豊間公民館(豊間ゼミナール)	展覧会を10倍楽しむ方法—招き猫亭猫まみれ展
11月8日 11月17日	当館学芸員	美術館(飯野公民館市民講座) 錦公民館(市民セミナー)	展覧会を10倍楽しむ方法—川島清展



アートキャラバン「“うずめ模様”で楽しいアート体験」(磐城学芸専門学校)



アートキャラバン「“うずめ模様”で楽しいアート体験」(磐城学芸専門学校)



アートキャラバン「切り絵・切り紙の楽しい世界」(内郷公民館)

日時	講師	会場	講座名（内容）
6月3日 9月29日 11月11日 11月19日	梶塚宏之 (日本茶インストラクター リーダー) 高原あかね (日本茶アドバイザー)	磐崎公民館(磐崎小図書ボランティア) 小川公民館(市民講座) 錦公民館(市民セミナー) 草野公民館(草野チャレンジクラブ)	お茶のおいしさ、お茶の楽しみ 日本茶インストラクター、日本茶アドバイザーといっしょに煎茶の歴史や科学、おいしい煎茶の入れ方、飲み方などを学び、実際にお茶を入れて味わうプログラム。食育を考える講師手作りのお茶うけを楽しみながら、日本の食文化やマナー、もてなしの心なども学ぶ。
6月11日 8月5日	当館学芸員 当館学芸員	上遠野公民館(ジュニアリーダー学級) 四倉公民館(夏休み子ども教室)	ペットボトル工作を楽しもう 身近にあるペットボトルをはさみで切ったり編んだりして小物入れやランプシェードを作る。
6月14日 7月8日 7月9日 7月26日 9月28日 11月11日	当館学芸員 当館学芸員 当館学芸員 当館学芸員 当館学芸員 当館学芸員	磐城学芸専門学校(コミックアート科) 錦公民館(市民セミナー) 藤原公民館(藤原げんきクラブ) 小名浜第一小学校(青空学童クラブ) 四倉公民館(四倉うしお学級) 総合教育センター(チャレンジホーム)	世界にひとつだけのガラスアート ルーターを使ってガラスに模様を彫り込み、自分だけのガラス作品を仕上げる。型紙シールを使った簡単な方法から自分で模様を考えて描くものまで自由に体験できる。
6月15日 7月15日 7月27日 8月2日 8月18日 9月30日 10月13日 12月17日	当館学芸員 当館学芸員 当館学芸員 当館学芸員 当館学芸員 当館学芸員 当館学芸員 当館学芸員	大浦小学校(3年生) 上市萱公民館(上市萱サロン) 玉川会館(玉川ゆずりは学級) 錦中学校(美術部) あざみ野幼稚園(あざみ野学童クラブ) ゆったり館(碧空の会) 大浦公民館(大浦教養セミナー) 草野公民館(草野チャレンジクラブ)	岩絵具で遊んじゃおう 顔彩や岩絵具など、日本画用の絵の具を使ったぬりえ体験。季節の風物や植物、浮世絵や抽象的なデザイン文様などを色紙に各自でカーボンコピーし、日本画材を用いて自由に彩色してオリジナルの色紙絵を完成させる。未就学児から高齢者までだれでも気軽にチャレンジできる。
6月21日	当館学芸員	綴小学校(3・4年生)	色のはなし・色の使い方 三原色の色粘土を用いて、純色や混色、有彩色、無彩色、補色や同系色など色の特徴を理解しながら、最後にオリジナル色相環を完成させる。
11月12日	当館学芸員	山田公民館 (ジュニアリーダー学級)	コロコロオブジェ 針金造形作家、橋寛憲(はしひろのり)氏考案のコロコロオブジェを作家了解のもと当館スタッフがその制作方法を紹介。ダンボールと針金を組み合わせ、ビー玉がコロコロ転がる楽しいオブジェを作る。
11月18日	当館学芸員	磐崎公民館 (磐崎小図書ボランティア)	豆本にチャレンジ 一辺8cm、8ページと極小ながら、表紙、見返し、扉、奥付といった基本的な本のスタイルに沿った製本でオリジナルの豆本を作るワークショップ。
12月6日	当館学芸員	飯野公民館 (さわやか女性セミナー)	セミナー「色・再発見」 身の回りにあふれる色彩の特徴や効果やその使われ方について考察したり、美術館の所蔵作品を「色で楽しむ」鑑賞法などについて紹介する。



アートキャラバン「切り絵・切り紙の楽しい世界」(大浦小学校)



アートキャラバン「お茶のおいしさ・お茶の楽しみ」



アートキャラバン「お茶のおいしさ・お茶の楽しみ」(小川公民館)

普及事業

講演会

展覧会の開催に併せて、出品作品やその背景の理解を深めるために、専門の講師を招き開催。セミナー室を会場とした講演会や鼎談、また、展示場で作品を前に自作について語るアーティストトークなど、鑑賞者の興味を喚起するように内容、形式を工夫して実施した。

日時	講師	講座名(内容)	会場
4月16日	フランソワーズ・バリガン (美術史家)	女性を描く—クールベからマティスまで 「女性を描く—クールベからマティスまで」に併せて開催。展覧会の内容に合わせ、クールベのリアリズムから20世紀後半のマティスまで、女性表現の変遷について当時の女性を写した写真なども織り交ぜ、ファッションについても言及しながら概説した。(通訳付き)	セミナー室
6月26日	谷 新 (美術評論家)	田口安男の芸術 「田口安男 描線と色彩の間」に併せて開催。カタログのメインテキストを執筆した谷新氏が、時代をおって田口作品の特徴を解説。モダニズムの流れにおける田口安男の位置づけと重要性について講じた。	セミナー室
7月23日	鈴木由紀夫 (佐賀県立九州陶磁文化館館長)	明治有田 超絶の美 「明治有田 超絶の美 万国博覧会の時代」に併せて開催。画像を使って有田焼の歴史や制作方法に触れた後、展示作品の紹介をしながら具体的な項目ごとに明治期の有田焼の特徴についてわかりやすく説明。	セミナー室
9月17日	久保本桂子 (日本画家)	ニューアートシーン・イン・いわき アーティストトーク 「ニューアートシーン・イン・いわき 久保本桂子展」に併せて開催。出品作品を前に参加者との問答も交えて、自作について語った。	1階ロビー
10月2日	布施英利 (美術批評家)	猫の絵画・猫の解剖学 「招き猫亨コレクション 猫まみれ展」に併せて開催。猫の美学、解剖学的猫の特徴について講演。猫の骨格についての講義に併せて参加者も実際に猫をドローイングするなど多彩な内容となった。また、講演後に改めて展示作品を鑑賞し直してみるという試みも行なわれた。	セミナー室
11月23日	川島清 (彫刻家)	川島清の作品 「川島清展」に併せて開催。川島清、小泉晋弥(茨城大学教授)、平野明彦(当館副館長)による鼎談。	セミナー室

普及事業

美術講座

展覧会鑑賞の一助として、また、様々な美術の情報の提供を目的として当館学芸員が講師となり随時開催。

日時	講師	講座名(内容)	会場
4月29日	当館館長	館長講座「サロメとユディットの400年—西洋絵画における女性像の変容」	セミナー室
7月8日	当館館長	館長講座「1937年パリ万博とゲルニカ」	セミナー室



アートキャラバン「ペットボトル工作を楽しもう」(四倉公民館)



アートキャラバン「世界にひとつだけのガラスアート」(四倉公民館)



アートキャラバン「世界にひとつだけのガラスアート」(青空学童保育クラブ)

日時	講師	講座名（内容）	会場
9月3日	当館館長	館長講座「描かれたローマ建国の物語」	セミナー室
10月30日	当館館長	館長講座「パリスの審判とトロイア戦争をめぐる」	セミナー室
12月24日	当館館長	館長講座「キリスト降誕」	セミナー室
2月25日	当館館長	館長講座「失楽園ー最初の人間アダムとエヴァの物語」	セミナー室

普及事業 ギャラリートーク

作品鑑賞の一助として、常設展では毎週土曜日に定期的に、企画展では土曜日・日曜日を中心に会場内で実作を前にしての作品解説を行った。また、団体、個人にかかわらず要望に応じて随時開催した。

日時	講師	講座名（内容）	会場
毎週土曜日 (52回開催)	当館学芸員	常設展	常設展示室
4月30日 5月14日	当館学芸員	女性を描くクールベ、ルノワールからマティスまでー 「女性を描くクールベからマティスまで」に併せて開催。	企画展示室
7月9日	当館学芸員	田口安男 描線と色彩の間 「田口安男 描線と色彩の間」に併せて開催。時々の作家の思いや作品制作の意図など、出品のドローイングやスケッチブック、日記などへの書き込みなどに着目して説明した。	企画展示室
11月13日 11月27日	当館学芸員	川島清 彫刻の黙示 路傍・淵・水量 「川島清展」に併せて開催。展示作品の鑑賞方法についての資料を配布し、作品ごとに解説を行った。	企画展示室
通年、随時 (20回開催)	当館学芸員	団体解説 常設展、企画展の団体鑑賞につき、要望に応じて随時開催。	常設展示室、企画展示室

普及事業 ワークショップ

美術、造形に限定しない幅広い表現活動について、専門の講師を中心に参加者の自主性に多くを委ねる形で実施。「夏休み自由研究のススメ」や「収蔵作家によるワークショップ」など恒例のワークショップや企画展の内容にあわせたワークショップなど独自のプログラムを展開。

日時	講師	講座名（内容）	会場
6月10日～ 7月10日 (19回開催)	当館スタッフ	かおのドローイング 田口安男の顔のドローイングをヒントに、右手、左手の一筆書きで描く顔のドローイングのプログラム。ドローイング用の特製「かおのカード」と画材を準備したコーナーを開設、随時参加で実施した。	



アートキャラバン「岩絵具で遊んじゃおう」(大浦小学校)



アートキャラバン「岩絵具で遊んじゃおう」(上市堂公民館)



アートキャラバン「岩絵具で遊んじゃおう」(錦中学校)

日時	講師	講座名(内容)	会場
8月5日～ 8月7日 (3日間)	当館学芸員	2016年、夏。美術館的自由研究のススメ バックヤードも含めた「いわき市立美術館」をフィールドに、参加者が各自自分の研究テーマに沿って研究を進めるプログラム。子供から大人までの参加者が、年齢を超えて創造的なコミュニケーションが交し合う豊かな時間となった。	セミナー室、展示室、図書室、他
1月5日～ 1月29日 (22日間)	当館スタッフ	かんたん! 版画体験コーナー「フロッタージュでオリジナルカードを作ろう」 「いわき市小・中学生版画展」に併せて会期中毎日開催。予め用意した型を下に敷いた用紙を色鉛筆でかたちをこすり出すフロッタージュ技法でオリジナルカードをつくる大人も子どもも楽しめるワークショップ。随時自由参加。	
1月7日、 1月8日 (3回開催)	彦坂有紀、 もりといずみ (彦坂木版工房)	わくわくアートスクール 「パンの木版画」 刷りだけAコース、刷りだけBコース、刷り彫りコースの3コースで開催。刷りだけコースは、講師の著作絵本『パンどうぞ』の読み聞かせの後に講師の準備した版を使って刷り、冊子を制作。彫り刷りコースは、参加者が版の制作から刷りまで行い、クリームパンの木版画を仕上げた。	実技講習室
2月17日	高田洋一 (彫刻家)	收藏作家ワークショップ わたしの不思議タネをつくらうー空気のアート くす玉から舞い落ちる「不思議タネ」のシャワー、わずかな風に応じ揺れ動く作品《翼双》の組み立てパフォーマンスと、風を感じる作品の面白さを体感した後に、参加者全員が「不思議タネ」の制作に挑戦。フィナーレ、くす玉から一斉に舞い落ちる自分の「不思議タネ」に大きな歓声があがった。	福島県立 平養護学校
2月18日、 2月19日 (2日間)	高田洋一 (彫刻家)	收藏作家ワークショップ 高田洋一の動く彫刻ワークショップ 風に泳ぐバランス・アートをつくらう! 作品組み立てパフォーマンス、スライドレクチャーで講師の作品制作についての理解を深めた後、流木などを使ったバランスアートの制作に挑戦した。流木の中に「かたち」を見出し、創造力と重力のバランスに集中した2日間のプログラム。	1階ロビー、 セミナー室、 実技講習室

普及事業 実技講座

開催中の企画展に関連したプログラムや美術館ならではのプログラムなど、普段なかなか体験できない技法や表現方法の経験から独自の表現へと繋げる内容で実施した。

日時	講師	講座名(内容)	会場
8月28日	有坂多絵子 (陶磁器絵付け一級技能士) 山口清一郎 (陶芸研究企画デザイン職員)	有田焼絵付け体験講座「古伊万里の紅葉」 「明治有田 超絶の美 万国博覧会の時代」に併せて開催。素焼きの皿に講師の下絵による紅葉の文様を描く講座。有田焼の歴史、有名産地ごとの磁器の違いの概説の後、各自角皿に絵付けをした。絵付けした皿は、講師が持ち帰り焼成後、参加者のもとへ。	実技講習室



アートキャラバン「色のはなし・色の使い方」(綴小学校)



アートキャラバン「コロコロオブジェ」(山田公民館)



アーティストトーク「ニューアートシーン・イン・いわき久保木桂子展」

日時	講師	講座名（内容）	会場
9月24日 9月25日	久保木桂子 （日本画家）	日本画材で猫に挑戦 「招き猫亭コレクション 猫まみれ展」に併せて開催。ドーサ引き、 念写、絵具の溶き方など、持参した下絵をもとに色紙に日本画材で描 く行程の中で日本画の基礎的な技法を学んだ。	実技講習室
10月15日 10月16日 （3回開催）	西誠人 （彫刻家）	キャットカービングの技法で作る招き猫&ブローチ 「招き猫亭コレクション 猫まみれ展」に併せて開催。木材から彫刻 刀で招き猫の形を彫りだしてバーニングペンで模様をつける大人コー ス（2日間、1回）、木製猫型ブローチにバーニングペンで猫の顔を描き、 色鉛筆で彩色する子どもコース（2回）の計3回実施。	実技講習室
1月28日、 1月29日 （2日間）	大隅秀雄 （彫刻家）	風とあそぶ！ 常設展に展示中の講師の作品を鑑賞した後、チタンの陽極酸化によ る色づけ、金属の切断と磨き方などの金属加工の基礎についてレク チャー。参加者はチタン、アルミニウムを材料に思い思いにモビールの 制作を行った。	常設展示室、 実技講習室
3月25日	関口光太郎 （造形作家）	フタバシンブンガムテリユウ 新聞紙とガムテープで首長竜をつくろう！ （小学生1日コース） 新聞紙の海でかくれんぼをしたり、新聞紙タワーをつくったりと全身 をつかった活動の後、当地で発掘されたフタバスズキリュウを新聞紙 とカラーガムテープで制作した。参加者全員で仕上げたフタバシンブ ンガムテリユウ（全長約5m）は、翌年度4月11日までロビーに展示し、 来館者の目を楽しめた。	1階ロビー
3月26日	関口光太郎 （造形作家）	フタバシンブンガムテリユウ 新聞紙とガムテープで首長竜をつくろう！ （自由参加コース） 前日（小学生1日コース）に仕上げたフタバシンブンガムテリユウを 見た参加者が、自由な発想で新聞とガムテープを材料にちいさな作品 を追加していった。随時・自由の参加者一人一人への講師の柔軟な対 応によって、会場全体がフタバシンブンガムテリユウを中心とした生 き生きとした空間となった。	1階ロビー

普 及 事 業 公 開 制 作 （ 公 開 講 座 ）

実技講習に先立ち、作家の制作を公開するかたちで実施。あまり目にするこ
のない作家の作品制作の過程を多くの人に紹介すると同時に実技講座の導入とし
ての位置づけも兼ねて開催した。

日時	講師	講座名（内容）	会場
3月25日	関口光太郎 （造形作家）	フタバシンブンガムテリユウ 新聞紙とガムテープで首長竜をつくろう！ （小学生1日コース） 1階ロビーで開催した実技講座の全般を公開した。	1階ロビー
3月26日	関口光太郎 （造形作家）	フタバシンブンガムテリユウ 新聞紙とガムテープで首長竜をつくろう！ （自由参加コース） 1階ロビーで開催した実技講座の全般を公開した。	1階ロビー



講演会「猫の絵画・猫の解剖学」



ワークショップ「2016年、夏。美術館的自由研究の
ススメ」



ワークショップ「2016年、夏。美術館的自由研究の
ススメ」

普及事業

映像鑑賞会

映像ソフト（DVD など）の利用により、主に企画展に関連した映像鑑賞会。
本年度は、未開催。

日時	講師	講座名（内容）	会場
----	----	---------	----

（本年度は、映像鑑賞会は未開催。）

普及事業

コンサート & パフォーマンス

時代とともに多様化する表現芸術を企画展、常設展と関連づけながら多角的に紹介する。美術と異ジャンルとの積極的なかわりが生み出す相乗効果を体感しながら、さまざまな時代の雰囲気や垣間見れる機会となれるよう心がけている。

日時	講師	講座名（内容）	会場
10月9日	馬喰町バンド	馬喰町バンド・美術館ライブ 「招き猫亭コレクション 猫まみれ展」に併せて開催。民族音楽、民謡、遊び唄などを下敷きにオリジナルなアレンジや自作の音楽で子守唄や伝承歌謡のような懐かしい音楽を追求する音楽集団、馬喰町バンドが、猫が人間に及ぼす安らぎや楽しさに共通する音楽を提供。	1階ロビー
1月9日	盛名劇団かもめ	春を祝うコンサート&パフォーマンス「おめでとう！春」 成人の日と新春の喜びを会場全員で祝うパフォーマンス。親子で一緒に楽しめるダンスや歌、魔を払い喜びを呼び寄せる殺陣の演技、参加者がリレー方式で一つのお話を作るなど、ほのぼのと楽しいプログラム。	常設展示室

普及事業

出版

● THE GALLERY =いわき市立美術館ニュース

当館のニュースとして「THE GALLERY」を2回発行した。

No.62（平成28年9月27日発行）

- いわき市立美術館の普及事業 その3 ‘美術館的’ 自由研究のスズメ
(普及係長 柴田百合子)
- 企画展紹介 招き猫亭コレクション 猫まみれ展 (普及係長 柴田百合子)
- 企画展紹介 川島清一彫刻の黙示 (副館長 平野明彦)
- 展示室から 地震にドキドキ (主任学芸員 竹内啓子)
- 裏方だより クーリエの来日 (学芸課長 杉浦友治)
- 常設展示室から アートの新境地 (専門学芸員 植田玲子)
- コレクションーこの1点 新収蔵作品から 辰野登恵子《UNTITLED 95-8》
(学芸員 江尻英貴)
- 今後の主な展覧会事業のご案内



ワークショップ「わくわくアートスクール パンの木版画」



ワークショップ「収蔵作家ワークショップ 高田洋一の動く彫刻ワークショップ」



実技講座「キャットカービングの技法で作る招き猫&フローチ」

No.63 (平成29年3月31日発行)

- いわき市立美術館の普及事業 その4 収蔵作家によるワークショップ
(普及係長 柴田百合子)
- 企画展紹介 レオナルド・フジタとモデルたち—素晴らしき乳白色の肌
(専門学芸員 植田玲子)
- 企画展紹介 デイヴィッド・ホックニー版画展
(主任学芸員 竹内啓子)
- 展示室から 市美展の審査員について
(学芸課長 杉浦友治)
- 裏方だより 電球交換 美術館の場合
(学芸員 江尻英貴)
- 常設展示室から
(主任学芸員 竹内啓子)
- コレクション—この1点 新収蔵作品から 川島清《水量—ケヤキの根》
(副館長 平野明彦)
- 今後の主な展覧会事業のご案内



●いわき市立美術館年報

平成27年度年報 B 5 判 65ページ

●展覧会図録等

- 田口安男—描線と色彩の間— B 6 判(24.4×17.6cm) 201ページ
- 川島清 彫刻の黙示 路傍 淵 水量 変A 4 判(29.5×22.5cm) 255ページ
- ニューアートシーン・イン・いわき 久保木桂子 境界のあいだに A 4 判 巻き三つ折り (6ページ)

普及事業 実技講習室 の公開

実技講座の参加経験者を対象に講座で学んだ技法をさらに深めるために場所と備品を解放。本年度は、ほぼ月2回の定期的な銅版画制作の利用があった。

日時	講師	講座名(内容)	会場
4月～		実技講座参加経験者による自己研鑽補助、実技相談等	実技講習室

普及事業 図書室の公開

午前9時30分から午後5時まで(7、8月の金曜日は午後8時まで)、室内閲覧に限り図書室を公開している。貸出業務は行っていない。展覧会図録など図書室で公開していない資料類についても、利用者の申し出により閲覧できる。

また、常設展・企画展開催時には、鑑賞の一助になるよう関連図書を会場内の一箇所に配置している。



実技講座「風とあそぶ！」



実技講座「フタバシンブンガムテリウ(小学生1日コース)」



実技講座「フタバシンブンガムテリウ(自由参加コース)」

普 及 事 業

実 習 生 の
受 け 入 れ

■博物館実習

7月28日（木）～8月10日（水）にかけて、学芸員資格取得を目的とする博物館実習を行い、3名の実習生を受け入れた。

■インターンシップ（職場体験学習）

市内の中学校・高等学校の要請を受け入れ、生徒の勤労への理解・関心を深め職業観の形成や職業選択の一助となることを目的としたインターンシップ（職場体験）を行った。

9月1日（木）～9月2日（金） 福島工業高等専門学校4学年 1名

10月4日（火）～10月6日（木） 好間高等学校1学年 3名

普 及 事 業

共 催 事 業

日 時	講 師 等	講 座 名	共 催 先	会 場
10月8日、 10月9日 (2日間)	美術館友の会、いわき美術協会	裸婦デッサン会		企画展示室
2月12日	市美展書の部招待作家	市美展書の部席上揮毫	いわき市民美術展覧会運営委員会(書の部)	1階ロビー
2月12日	市美展書の部審査員	市美展書の部審査員による作品解説会	いわき市民美術展覧会運営委員会(書の部)	企画展示室
2月25日	市美展絵画・彫塑の部招待作家	市美展絵画・彫塑の部招待作家による入選作品批評会	いわき市民美術展覧会運営委員会(絵画・彫塑の部)	企画展示室
3月11日	表千家同門会福島県支部浜方部	市美展陶芸の部呈茶会	いわき市民美術展覧会運営委員会(陶芸の部)	1階ロビー
3月12日	市美展陶芸の部部会員	市美展陶芸の部タッチコーナー	いわき市民美術展覧会運営委員会(陶芸の部)	2階ロビー
3月12日	市美展写真の部招待作家	市美展写真の部招待作家による(入賞)作品解説会	いわき市民美術展覧会運営委員会(写真の部)	企画展示室



コンサート&パフォーマンス「馬喰町バンド」



コンサート&パフォーマンス「春を祝う」

- A. 美術作品収蔵状況
B. 美術作品の貸出状況
C. 資料の購入等に関する状況

A. いわき市立美術館美術品収蔵状況

年度	購 入		寄 贈		移管	計	寄 託	
	点数	備 考	点数	備 考	点数	点数	点数	備 考
昭55年	68	※	10			78	1	一色ちかこ作品
56	115	※	337	宝船312点		452	1	大平華泉《白河城跡》(h. 19返却)
57	75		26	※		101		
58	357		67	資料 3 点含む	5	429		
59	54		27		4	85		
60	53		37			90		
61	23		105		7	135	1	下村観山作品
62	7		22			29		
63	21		8			29		
平成元	11		9		2	22		
2	17		28	資料 2 点含む		45	38	
3	10		5			15	1	舟越桂作品
4	9		9			18	4	田口安男作品(h. 23返却)
5	9	※	0			9		
6	5		4			9	8	田口安男作品(h. 23返却)
7	7		4			11		
8	7		2			9		
9	11		1			12		
10	28		6			34		
11	8	※	37			45	-38	平成 2 年度寄託作品返却
12	11		23			34	5	松田松男作品
13	8		22			30		
14	8		1			9		
15	12		42			54	2	中村一美作品
16	33		13			46		
17	17		8			25		
18	3		1			4		
19	0		3			3	-1	大平華泉《白河城跡》
20	0		30			30	14	イケムラレイコ作品13点、 河口龍夫作品 1 点
21	0		1		0	1		
22	0		0		0	0		
23	0		40	資料 9 点含む	0	40	-12	田口安男作品(平成 4 年 度、平成 6 年度寄託作品)
24	0		116		0	116		
25	0		18		0	18		
26	0		22		0	22		
27	0		14		0	14		
28	0		157		0	157		
計	987		1255		18	2260	24	

※：平成21年度に見直し

B. 美術品の貸出状況

作家名	作品名	貸し出し先	貸出期間	目的(展覧会名)
サイ・トゥオンブリー	What Wing Can Be Held?	DIC川村記念美術館	2016年 4月8日～7月5日	サイ・トゥオンブリーの写真
若松光一郎	ズリ山雪景	東京藝術大学大学美術館	2016年 4月27日～7月5日	東北の美術と震災復興
田口安男	手のうら焰(1980年)			
松田松雄	風景(民-A)			
アル・ヘルド	昇る金星	碧南市藤井達吉現代美術館	2016年 6月2日～8月13日	いわき市立美術館 名品展 アメリカ美術の力
ジェイムズ・ローゼンクイスト	愛のために			
ジェイムズ・ローゼンクイスト	成長計画			
ポール・ジェンキンス	現象 野がちょうの叫び			
ジョーン・ミッチェル	紫色の木			
リチャード・ハミルトン	インテリア			
アンディ・ウォーホル	16のジャッキーの肖像			
ロイ・リキテンスタイン	二つの円のある近代絵画			
ジム・ダイン	作品			
ジム・ダイン	森の中の二つのハート			
アラン・ダーカンジェロ	風景#3			
アラン・ダーカンジェロ	プロポジション#5			
レッド・グルームス	肥満した足			
アレックス・カット	ドンとサンドラ			
ヘレン・フランケンサラー	青い闘技場			
ジェフリー・ヘンドリックス	二つのキャンバスの面合わせ#24			
フランク・ステラ	ウリッド・スケッチ			
フランク・ステラ	ヴァダールブ島のカラカラ			
ロバート・ラウシェンバーグ	スカイ・ガーデン			
ジャスパール・ジョーンズ	色数字0-9			
ルーカス・サマラス	鳥かご#33			
デイヴィッド・ホックニー	ジョーと緑の窓			
デイヴィッド・ホックニー	花瓶の水仙			
デイヴィッド・ホックニー	パレード			
アンソニー・グリーン	パッションⅡ			
サム・フランシス	赤い十字架			
荒川修作	意味されるもの あるいはもしも1			
荒川修作	意味されるもの あるいはもしも2			
河原温	MAY 10, 1990			
河原温	JUNE 11, 1990			
篠原有司男	シティバスとマジンガーZ			
篠原有司男	トロピカル・ドリーム			
ロベルト・マッタ	ハート・プレイヤー			
トム・ウェッセルマン	マティスのあるモニカのヌード			
クリスト	ラージ・ヴァレー・カーテン			
クリスト	ヴィットリオ・エマヌエレ広場の梱包された記念碑			

作家名	作品名	貸し出し先	貸出期間	目的(展覧会名)
ピエール・アレシンスキー	新聞雑報	Bunkamura ザ・ミュージアム 国立国際美術館	2016年10月5日～ 2017年4月21日	ピエール・アレシンスキー展(巡回)
ピエール・アレシンスキー	護り神			
河口龍夫	関係 教育	茨城県立近代美術館	2016年10月21日～ 2017年2月3日	奇想天外！アートと教育の実験場 筑波大学 〈総合造形〉展
河口龍夫	関係 叡智			
山口勝弘	五月の橋			

C. 所蔵資料に関する状況

●図書資料

	購入			受贈			計
	図書	図録・目録	館報・紀要	図書	図録・目録	館報・紀要	
平成23年度まで	5,025	148	6	2,400	17,730	4,661	29,970
平成24年度	70	15	0	85	259	179	608
平成25年度	16	8	0	82	460	214	780
平成26年度	47	4	0	84	374	222	731
平成27年度	9	3	0	73	468	210	763
平成28年度	26	0	0	76	367	173	642
計	5,193	178	6	2,800	19,658	5,659	33,494

●視聴覚資料

	購 入								受 贈								計	
	CD	DVD	ビデオ テープ	LD	フィルム	スライド	カセット テープ	その他	CD	DVD	ビデオ テープ	LD	フィルム	スライド	カセット テープ	電子 ブック		その他
平成23年度まで	16	71	245	51	11	16	0	0	65	47	59	0	0	0	1	1	1	584
平成24年度	6	3							7	7								23
平成25年度	1	1							4	8	1							15
平成26年度	1								6	10								17
平成27年度									10	15								25
平成28年度										9							2	11
計	24	75	245	51	11	16	0	0	92	96	60	0	0	0	1	1	3	675

D. 平成28年度新収蔵作品

凡 例

1. この目録には、平成28年度のいわき市立美術館新収蔵作品を収録した。
2. 作品の分類は、平面作品Ⅰ(直接技法に基づくもの)、平面作品Ⅱ(間接技法に基づくもの:版画等)、平面作品Ⅲ(ポスター、写真等)、立体作品、映像・その他。
3. 各作品のデータは以下の通り。

整理番号／作者名(生没年)
 作品名
 制作年
 技法・材質
 寸法
 サインの位置及び年記
 最初の発表展覧会及び受賞歴
 収蔵の経緯
 登録番号

4. 作家名は分類ごとに日本人作家と外国人作家に大別し、日本人作家は五十音順に、外国人作家は姓のアルファベット順に配列した。
5. 制作年は、作品に明記されているもの、及び制作事情の明確なものに限って記載した。
6. 寸法は、センチメートルを単位として、平面作品では画面の縦×横、立体作品では高さ×幅×奥行きとした。

【平成28年度 収蔵作品分類】

平面作品Ⅰ	156点
平面作品Ⅱ	0点
平面作品Ⅲ	0点
立体作品	1点
映像・その他	0点
資料	0点
計	157点

《平面作品Ⅰ》

1. 熊坂太郎

鉱務所
 不詳
 鉛筆・紙
 18.8×25.4
 受贈 熊坂行夫
 2016-2



2. 熊坂太郎

石炭積込
 1944
 鉛筆、水彩・紙
 21.0×29.2
 受贈 熊坂行夫
 2016-3



3. 熊坂太郎

高倉山を望む
 1944
 鉛筆、水彩・紙
 20.9×29.4
 受贈 熊坂行夫
 2016-4



4. 熊坂太郎

炭鉱風景(住吉本坑)
 不詳
 鉛筆、水彩・紙
 18.8×25.5
 受贈 熊坂行夫
 2016-5



5. 熊坂太郎

炭鉱風景(沈澱
バック)
不詳
鉛筆、水彩・紙
18.8×25.4
受贈 熊坂行夫
2016-6



6. 熊坂太郎

住吉ボタ山
不詳
鉛筆、水彩・紙
18.8×25.4
受贈 熊坂行夫
2016-7



7. 熊坂太郎

炭鉱風景(住吉変
電所付近)
不詳
鉛筆、水彩・紙
20.8×29.7
受贈 熊坂行夫
2016-8



8. 熊坂太郎

風景(藤原にて)
1946
鉛筆・紙
24.6×31.5
受贈 熊坂行夫
2016-9



9. 熊坂太郎

万石
(石炭積込場)
不詳
鉛筆・紙
29.3×38.1
受贈 熊坂行夫
2016-10



10. 熊坂太郎

ズリ山
不詳
鉛筆・紙
26.7×37.3
受贈 熊坂行夫
2016-11



11. 熊坂太郎

「炭住夕景」の
ためのデッサン
1950頃
鉛筆・紙
29.5×38.4
受贈 熊坂行夫
2016-12



12. 熊坂太郎

坑口
不詳
鉛筆・紙
26.6×35.6
受贈 熊坂行夫
2016-13



13. 熊坂太郎

緩坑
不詳
鉛筆・紙
37.2×26.8
受贈 熊坂行夫
2016-14



14. 熊坂太郎

選炭場
不詳
鉛筆・紙
26.7×37.1
受贈 熊坂行夫
2016-15



15. 熊坂太郎

立坑櫓
不詳
鉛筆・紙
37.0×29.1
受贈 熊坂行夫
2016-16



16. 熊坂太郎

自画像
不詳
インク・紙
31.6×25.1
受贈 熊坂行夫
2016-17



17. 熊坂太郎

自画像
不詳
インク・紙
38.7×29.8
受贈 熊坂行夫
2016-18



18. 熊坂太郎

保安係員
不詳
インク・紙
38.8×31.5
受贈 熊坂行夫
2016-19



19. 熊坂太郎

坑内係員
不詳
インク、水彩・紙
29.2×20.6
受贈 熊坂行夫
2016-20



20. 熊坂太郎

休息
不詳
鉛筆、水彩・紙
25.0×36.0
受贈 熊坂行夫
2016-21



21. 田口安男

風景遠望
1947
鉛筆・紙
27.0×39.0
受贈 田口安男
2016-22



22. 田口安男

二階の窓から（平五町目）
1948
鉛筆・紙
25.9×36.6
受贈 田口安男
2016-23



23. 田口安男

二階の窓から（平五町目）
1948頃
鉛筆、水彩・紙
29.2×38.0
受贈 田口安男
2016-24



24. 田口安男

自画像
1948
コンテ・紙
33.3×24.0
受贈 田口安男
2016-25



25. 田口安男

裸足の自画像
1948
コンテ・紙
33.3×24.0
受贈 田口安男
2016-26



26. 田口安男

Tsugio
1948
コンテ・紙
24.0×33.3
受贈 田口安男
2016-27



27. 田口安男

Takeo（読書）
1948
コンテ・紙
24.5×33.3
受贈 田口安男
2016-28



28. 田口安男

Takeo
1948
コンテ・紙
33.3×24.0
受贈 田口安男
2016-29



29. 田口安男

Tsuneko
1948
コンテ・紙
33.3×24.0
受贈 田口安男
2016-30



30. 田口安男

Tsuneko (昼寝)
1948
コンテ・紙
33.5×24.4
受贈 田口安男
2016-31



31. 田口安男

父
1948
コンテ・紙
33.6×24.5
受贈 田口安男
2016-32



32. 田口安男

Hoshino Kun 教室
にて
1948
コンテ・紙
33.3×24.0
受贈 田口安男
2016-33



33. 田口安男

Hoshino Kun 美術
室にて
1948
コンテ・紙
33.3×24.0
受贈 田口安男
2016-34



34. 田口安男

Inagawa Kun 美術
室にて
1948
コンテ・紙
33.3×24.0
受贈 田口安男
2016-35



35. 田口安男

自画像
1949
コンテ・紙
33.3×24.0
受贈 田口安男
2016-36



36. 田口安男

立膝の自画像
1949
コンテ・紙
33.3×24.0
受贈 田口安男
2016-37



37. 田口安男

Takeo
1949
鉛筆・紙
33.3×24.3
受贈 田口安男
2016-38



38. 田口安男

Hoshino Kun 美術
室にて
1949
コンテ・紙
35.4×26.0
受贈 田口安男
2016-39



39. 田口安男

平風景 (谷川瀬山
から公会堂を望む)
1949
鉛筆・紙
26.8×39.0
受贈 田口安男
2016-40



40. 田口安男

平瀬宜町煉瓦工場
跡
1949
コンテ・紙
24.0×33.3
受贈 田口安男
2016-41



41. 田口安男

平火力発電所
1949
コンテ・紙
25.0×35.9
受贈 田口安男
2016-42



42. 田口安男

谷川瀬山の集落
1949
コンテ・紙
25.6×36.0
受贈 田口安男
2016-43



43. 田口安男

東部瓦斯会社
1949
インク、パステル、コ
ンテ・紙
24.5×34.2
受贈 田口安男
2016-44



44. 田口安男

片倉製糸工場・平
火力発電所遠望
1949
コンテ・紙
27.0×30.5
受贈 田口安男
2016-45



45. 田口安男

片倉製糸工場・平
火力発電所
1949
コンテ・紙
27.0×39.0
受贈 田口安男
2016-46



46. 田口安男

花瓶の花
1949
鉛筆・紙
38.4×25.8
受贈 田口安男
2016-47



47. 田口安男

静物
1950
コンテ・紙
25.8×34.5
受贈 田口安男
2016-48



48. 田口安男

自画像
1950
コンテ、パステル・
紙
42.0×30.5
受贈 田口安男
2016-49



49. 田口安男

木彫する人(秋山泰
計)
1950頃
鉛筆、インク・紙
36.3×27.6
受贈 田口安男
2016-50



50. 田口安男

平駅遠望
1950
コンテ、パステル・
紙
42.1×30.5
受贈 田口安男
2016-51



51. 田口安男

赤羽近郊
1950
インク、コンテ、パス
テル・紙
30.5×42.0
受贈 田口安男
2016-52



52. 田口安男

赤羽寮近く
1950
コンテ・紙
30.5×42.0
受贈 田口安男
2016-53



53. 田口安男

牛骨、ポット
1952頃
インク・紙
36.5×27.3
受贈 田口安男
2016-54



54. 田口安男

牛骨、手
1952頃
鉛筆、インク・紙
26.1×36.1
受贈 田口安男
2016-55



55. 田口安男

自画像
1954頃
鉛筆・紙
36.3×27.6
受贈 田口安男
2016-56



56. 田口安男

ロッキングチェア、
ポット
1956頃
鉛筆、インク・紙
27.0×35.5
受贈 田口安男
2016-57



57. 田口安男

ポーズする手
1956頃
鉛筆・紙
27.1×35.6
受贈 田口安男
2016-58



58. 田口安男

からみあい（下図）
1958
鉛筆・紙
48.3×63.5
受贈 田口安男
2016-59



59. 田口安男

手のポーズ 眼
1960頃
鉛筆、インク・紙
26.5×37.5
受贈 田口安男
2016-60



60. 田口安男

手のポーズ 私自
身
1960
インク・紙
35.5×27.5
受贈 田口安男
2016-61



61. 田口安男

友人の脚
1961
インク、水彩・紙
24.8×19.2
受贈 田口安男
2016-62



62. 田口安男

手のポーズ トレー
スの問題
1961
インク・紙
20.5×28.5
受贈 田口安男
2016-63



63. 田口安男

手のポーズ shade
and shadow
1962頃
インク・紙
21.0×29.5
受贈 田口安男
2016-64



64. 田口安男

手のポーズ 影
1962頃
インク・紙
25.2×17.8
受贈 田口安男
2016-65



65. 田口安男

『病床の夢日記』
1962-63 (-66)
インク、墨、色鉛筆・
紙 (全90ページ)
17.6×11.5
受贈 田口安男
2016-66



66. 田口安男

網目／手を切る夢
(『病床の夢日記』
より)
1963
インク・紙
25.3×17.7
受贈 田口安男
2016-67



67. 田口安男

kao (『病床の夢日
記』より)
1963
インク・紙
17.7×14.5
受贈 田口安男
2016-68



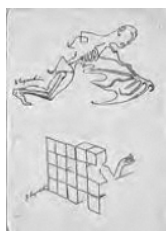
68. 田口安男

転生 (『病床の夢日
記』より)
1963
インク・紙
12.2×17.7
受贈 田口安男
2016-69



69. 田口安男

コウモリ男／キュー
ブ男 (『病床の夢日
記』より)
1963
インク・紙
12.8×17.7
受贈 田口安男
2016-70



70. 田口安男

soleil (『病床の夢日
記』より)
1963
インク・紙
25.0×17.7
受贈 田口安男
2016-71



71. 田口安男

キューブ男 (『病床
の夢日記』より)
1963
インク・紙
12.6×17.7
受贈 田口安男
2016-72



72. 田口安男

せせらぎ
1963
インク・紙
26.6×37.5
受贈 田口安男
2016-73



73. 田口安男

火焰
1963
インク・紙
26.0×37.5
受贈 田口安男
2016-74



74. 田口安男

眼の中の眼
1963頃
墨・紙
12.4×17.5
受贈 田口安男
2016-75



75. 田口安男

2次元のバランス
1963頃
インク・紙
25.0×35.6
受贈 田口安男
2016-76



76. 田口安男

眼の樹
1963
インク・紙
35.8×25.0
受贈 田口安男
2016-77



77. 田口安男

moi-même (『病床
の夢日記』より)
1964
インク・紙
24.7×19.0
受贈 田口安男
2016-78



78. 田口安男

眼、ピストル (『病床
の夢日記』より)
1964
インク、色鉛筆・紙
24.7×19.0
受贈 田口安男
2016-79



79. 田口安男

かげとかげり (下
図)
1964頃
鉛筆・紙
48.0×60.8
受贈 田口安男
2016-80



80. 田口安男

手のポーズ 眼 (黄)
1965
鉛筆、色鉛筆・紙
25.0×35.5
受贈 田口安男
2016-81



81. 田口安男

手のポーズ 眼 (青)
1965
色鉛筆・紙
25.0×35.5
受贈 田口安男
2016-82



82. 田口安男

手のポーズ 眼 (紫)
1965
鉛筆・色鉛筆・紙
25.0×35.5
受贈 田口安男
2016-83



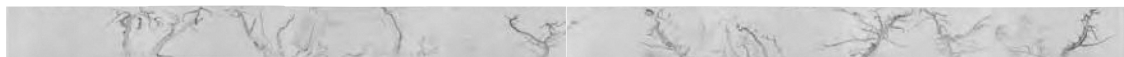
83. 田口安男

樹枝
1966
墨・和紙
21.5×450.4
受贈 田口安男
2016-84

84. 田口安男

樹枝
1966
墨・和紙
21.5×450.4
受贈 田口安男
2016-85

(83)



(84)



85. 田口安男

樹枝
1967
墨、金箔・紙
31.0×52.7
受贈 田口安男
2016-86



86. 田口安男

変身の寓話 転生
1967頃
鉛筆、色鉛筆、水彩・
紙
25.0×32.6
受贈 田口安男
2016-87



87. 田口安男

時の次元、空間の次元の多様性
1969頃
鉛筆・紙
37.2×50.2
受贈 田口安男
2016-88



88. 田口安男

時の次元、空間の次元の多様性
1969頃
鉛筆・紙
32.9×48.0
受贈 田口安男
2016-89



89. 田口安男

ある主題の変奏
(下図一式)
1970頃
鉛筆・紙等
(計25点)
受贈 田口安男
2016-90



90. 田口安男

密教の世界
不詳
インク・紙
25.1×35.5
受贈 田口安男
2016-91



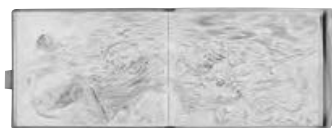
91. 田口安男

意味と無意味
不詳
インク・紙
25.1×35.5
受贈 田口安男
2016-92



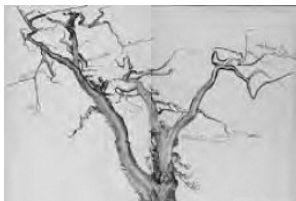
92. 田口安男

八丈島スケッチ
1971
色鉛筆・紙
(スケッチブック、
全90ページ)
19.0×24.5
受贈 田口安男
2016-93



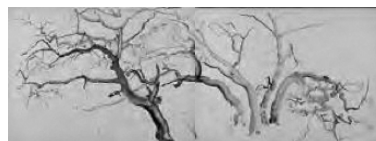
93. 田口安男

樹枝
1972
墨・和紙
50.0×74.0
受贈 田口安男
2016-94



94. 田口安男

樹枝
1972
墨・和紙
37.0×100.0
受贈 田口
安男
2016-95



95. 田口安男

ぬけ変わりの季節
(下図)
1975
鉛筆・紙
120.0×91.0
受贈 田口安男
2016-96



96. 田口安男

大渦時
1975
水彩・紙
25.0×18.3
受贈 田口安男
2016-97



97. 田口安男

大渦時
1975頃
水彩・紙
31.5×37.8
受贈 田口安男
2016-98



98. 田口安男

時よ歩め
1976
水彩・紙
24.8×19.2
受贈 田口安男
2016-99



99. 田口安男

時よ歩め
1976頃
水彩・紙
21.9×18.3
受贈 田口安男
2016-100



100. 田口安男

夢から紡ぎ 眼の
島
1976
鉛筆、色鉛筆・紙
52.3×73.4
受贈 田口安男
2016-101



101. 田口安男

イカロスの影
1979
鉛筆、色鉛筆・紙
52.3×73.0
受贈 田口安男
2016-102



102. 田口安男

手のうら焰（下図）
1980
鉛筆・紙
57.8×47.4
受贈 田口安男
2016-103



103. 田口安男

おおまがとき（手）
1984
水彩・紙
15.2×15.2
受贈 田口安男
2016-104



104. 田口安男

おおまがとき（かた
つむり）
1984頃
水彩・紙
25.5×19.7
受贈 田口安男
2016-105



105. 田口安男

おおまがとき（三角
形）
1984頃
水彩・紙
22.7×19.2
受贈 田口安男
2016-106



106. 田口安男

とび立つ
不詳
パステル・紙
54.3×78.5
受贈 田口安男
2016-107



107. 田口安男

波から焰へ（下図）
1984
鉛筆、色鉛筆・紙
50.0×62.8
受贈 田口安男
2016-108



108. 田口安男

波から焰へ（下図）
1984
鉛筆・紙
49.9×64.9
受贈 田口安男
2016-109



109. 田口安男

マダランダラ手
（下図）
1984
鉛筆、色鉛筆・紙
50.0×62.0
受贈 田口安男
2016-110



110. 田口安男

マダランダラ手
（下図）
1986
鉛筆・紙
65.0×88.0
受贈 田口安男
2016-111



111. 田口安男

マダランダラ手
(下図)
1986
鉛筆・水彩・紙
65.0×88.0
受贈 田口安男
2016-112



112. 田口安男

波から焔へ(下図)
1986
鉛筆・紙
48.9×60.6
受贈 田口安男
2016-113



113. 田口安男

波から焔へ(下図)
1986
鉛筆・紙
39.3×54.2
受贈 田口安男
2016-114



114. 田口安男

(題未定)
1987
水彩・紙
27.8×31.0
受贈 田口安男
2016-115



115. 田口安男

(題未定)
1987頃
水彩・紙
27.8×31.0
受贈 田口安男
2016-116



116. 田口安男

裸婦
不詳
水彩・紙
32.0×23.8
受贈 田口安男
2016-117



117. 田口安男

鳥を抱く女(紫)
1987
水彩・紙
33.9×24.0
受贈 田口安男
2016-118



118. 田口安男

鳥を抱く女(赤)
1987
水彩・紙
33.9×24.0
受贈 田口安男
2016-119



119. 田口安男

ヴァリエーション
1992
鉛筆・水彩・紙
34.8×27.5
受贈 田口安男
2016-120



120. 田口安男

ヴァリエーション
1992
鉛筆・水彩・紙
36.0×26.0
受贈 田口安男
2016-121



121. 田口安男

ヴァリエーション
1992頃
鉛筆・水彩・紙
34.5×26.0
受贈 田口安男
2016-122



122. 田口安男

(題未定)
不詳
鉛筆・色鉛筆・水彩・紙
32.3×44.9
受贈 田口安男
2016-123



123. 田口安男

白道一気一（下図）
1992
鉛筆、水彩・紙
56.3×76.0
受贈 田口安男
2016-124



124. 田口安男

抜けゆくもの一絡一（下図）
1994
鉛筆、色鉛筆・紙
56.0×76.2
受贈 田口安男
2016-125



125. 田口安男

ヴァリエーション
1995頃
鉛筆、水彩・和紙
34.5×23.3
受贈 田口安男
2016-126



126. 田口安男

緑の中へー示ー（下図）
1995-96
鉛筆、色鉛筆・紙
48.2×76.5
受贈 田口安男
2016-127



127. 田口安男

カスカな焔の気配
不詳
鉛筆、水彩・紙
50.0×65.2
受贈 田口安男
2016-128



128. 田口安男

手というよりは眼
2001
鉛筆、水彩・紙
41.0×55.0
受贈 田口安男
2016-129



129. 田口安男

coroナル手
2001
鉛筆、色鉛筆・紙
45.5×60.2
受贈 田口安男
2016-130



130. 田口安男

パースの海岸
2002
コンテ、水彩・紙
40.0×55.2
受贈 田口安男
2016-131



131. 田口安男

パースの浜辺
2002
水彩・紙
26.0×36.0
受贈 田口安男
2016-132



132. 田口安男

パースの海
2002
水彩・紙
26.0×36.0
受贈 田口安男
2016-133



133. 田口安男

波湧く手（波の手あそび）
2003
鉛筆、コンテ・紙
65.5×99.5
受贈 田口安男
2016-134



134. 田口安男

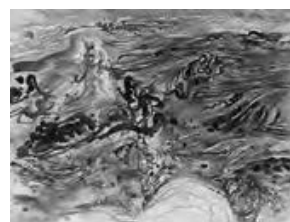
ヴァリエーション
2003
鉛筆、水彩・紙
22.9×19.3
受贈 田口安男
2016-135



135. 田口安男
手の塔（メロンの迷路）
2003～2006
鉛筆、色鉛筆・紙
61.7×78.8
受贈 田口安男
2016-136



136. 田口安男
波
2006
鉛筆、水彩・紙
46.0×61.8
受贈 田口安男
2016-137



137. 田口安男
（題未定）
2008
鉛筆・紙
54.8×79.0
受贈 田口安男
2016-138



138. 田口安男
（題未定）
2009
鉛筆・紙
62.0×65.0
受贈 田口安男
2016-139



139. 田口安男
（題未定）
2009
鉛筆・紙
55.2×82.1
受贈 田口安男
2016-140



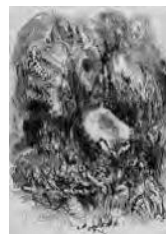
140. 田口安男
勝浦の海岸
2010頃
水彩・紙
46.0×61.0
受贈 田口安男
2016-141



141. 田口安男
波
不詳
鉛筆、墨・紙
33.0×42.0
受贈 田口安男
2016-142



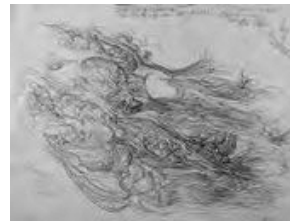
142. 田口安男
波
不詳
墨・紙
42.5×29.8
受贈 田口安男
2016-143



143. 田口安男
網の目を目指す波
不詳
鉛筆・紙
46.0×61.0
受贈 田口安男
2016-144



144. 田口安男
波の手踊り
不詳
鉛筆・紙
46.0×61.0
受贈 田口安男
2016-145



145. 田口安男
波は重く 岩は軽く
不詳
鉛筆、水彩・紙
79.0×108.8
受贈 田口安男
2016-146

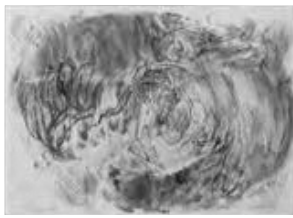


146. 田口安男
波
不詳
鉛筆、水彩・紙
46.0×61.0
受贈 田口安男
2016-147



147. 田口安男

(題未定)
2011
鉛筆・紙
29.8×42.3
受贈 田口安男
2016-148



148. 田口安男

フラクタスシュール
(乾坤変容図)
2011
鉛筆・紙
59.4×42.0
受贈 田口安男
2016-149



149. 田口安男

フラク足らず
不詳
鉛筆・紙
54.7×79.0
受贈 田口安男
2016-150



150. 田口安男

(題未定)
2012
鉛筆、水彩・和紙
47.0×63.0
受贈 田口安男
2016-151



151. 田口安男

焔うつりこみ
2013
鉛筆、コンテ・紙
60 (63)×45 (46.6)
受贈 田口安男
2016-152



152. 田口安男

(題未定)
2014
鉛筆、水彩・和紙
34.0×44.8
受贈 田口安男
2016-153



153. 田口安男

円環を目指す
不詳
鉛筆、水彩・和紙
60.0×36.5
受贈 田口安男
2016-154



154. 田口安男

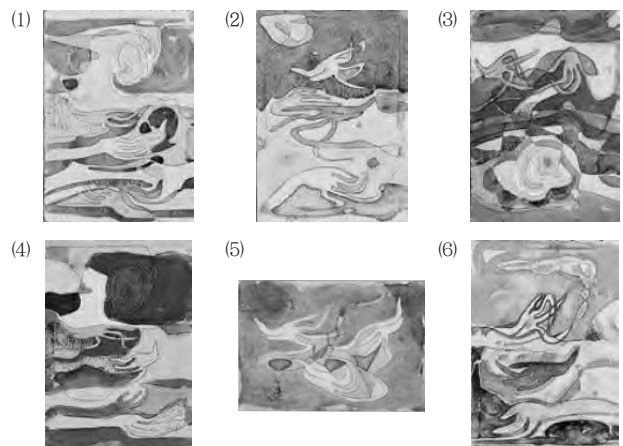
(題未定)
不詳
鉛筆、水彩・和紙
60.0×36.5
受贈 田口安男
2016-155



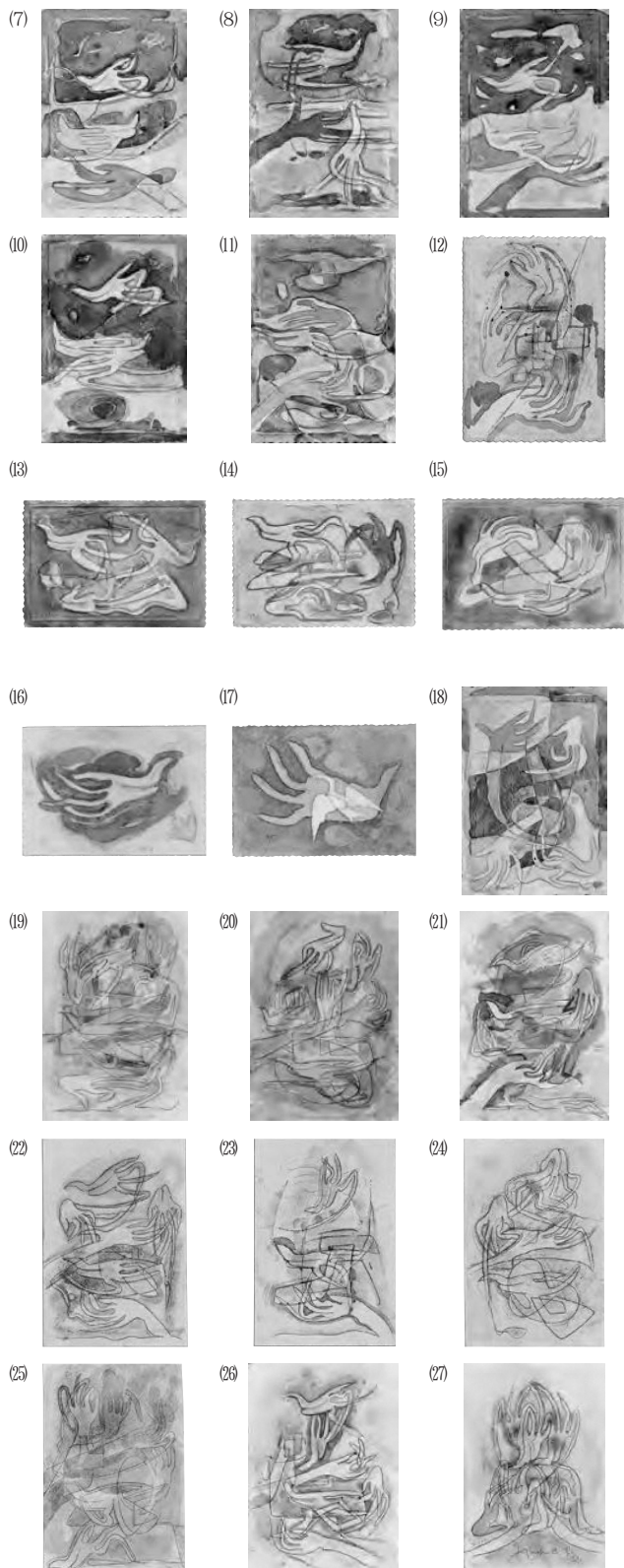
155. 田口安男

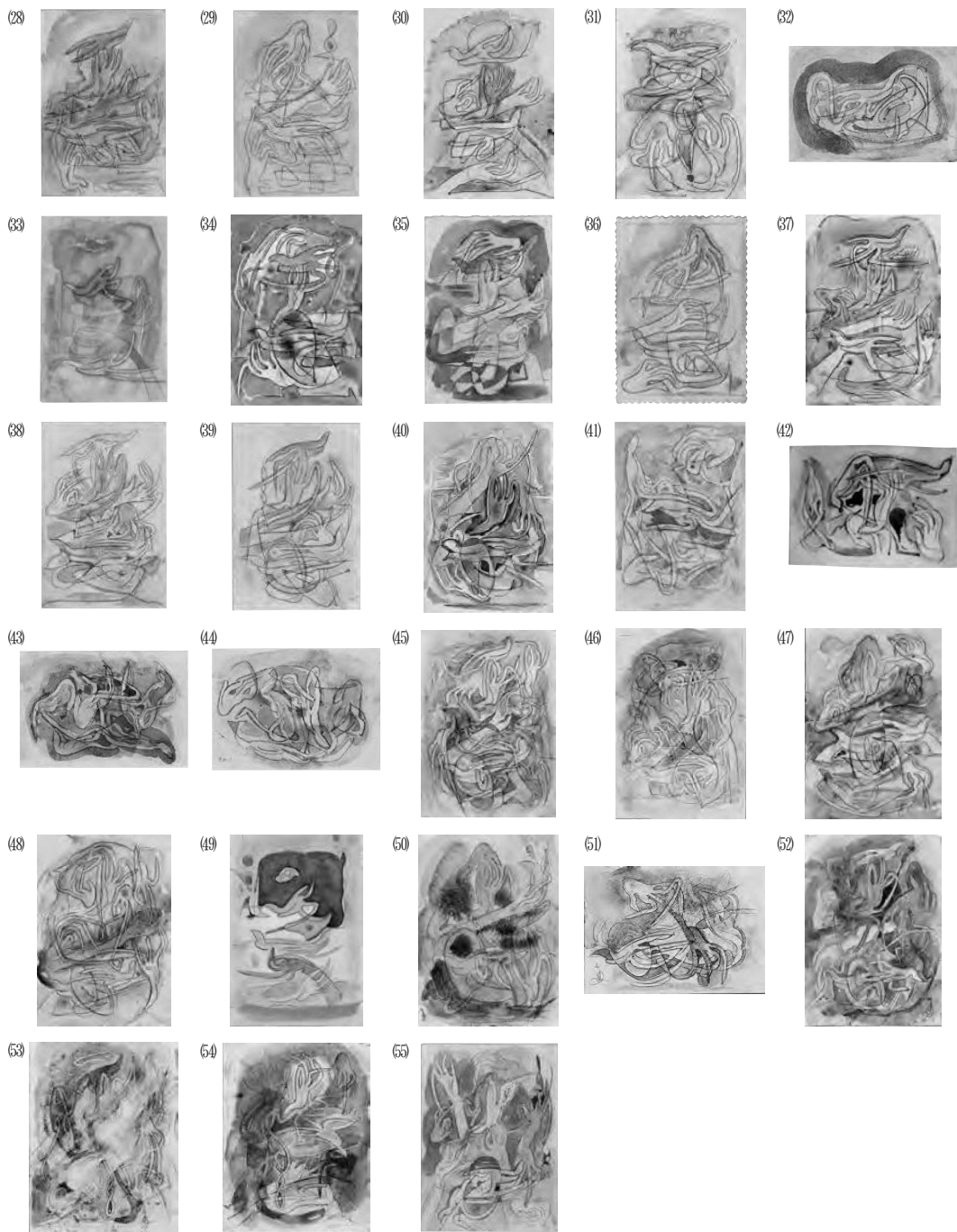
「ヴァリエーションズ」
1990-2011頃
鉛筆、水彩・紙 (全55点)
受贈 田口安男
2016-156

- (1) 1990 鉛筆、水彩・ポストカード 14.8×10.5
- (2) 1990 鉛筆、水彩・ポストカード 14.8×10.5
- (3) 1990 鉛筆、水彩・ポストカード 14.8×10.5
- (4) 1990 鉛筆、水彩・ポストカード 15.0×10.5
- (5) 1992 鉛筆、水彩・紙 12.0×17.5
- (6) 1992 鉛筆、水彩・ポストカード 14.8×10.3
- (7) 1992 鉛筆、水彩・ポストカード 14.8×10.5
- (8) 1992 鉛筆、水彩・ポストカード 14.8×10.5
- (9) 1992 鉛筆、水彩・ポストカード 14.8×10.5



(10)	1992	鉛筆、水彩・ポストカード	15.0×10.5
(11)	1992	鉛筆、水彩・ポストカード	15.0×10.5
(12)	1992頃	鉛筆、水彩・ポストカード	15.0×10.5
(13)	1993	鉛筆、水彩・ポストカード	10.5×15.0
(14)	1993	鉛筆、水彩・ポストカード	14.8×10.5
(15)	1993	鉛筆、水彩・ポストカード	14.8×10.5
(16)	1993	鉛筆、水彩・ポストカード	10.5×15.0
(17)	1995	鉛筆、水彩・ポストカード	14.9×10.5
(18)	1997	鉛筆、水彩・ポストカード	14.8×10.5
(19)	1999	鉛筆、水彩・紙	17.6×12.5
(20)	1999	鉛筆、水彩・紙	17.6×12.5
(21)	1999	鉛筆、水彩・紙	17.5×12.5
(22)	1999	鉛筆、水彩・ポストカード	14.8×10.0
(23)	1999	鉛筆、水彩・ポストカード	14.8×10.0
(24)	1999	鉛筆、水彩・ポストカード	14.8×10.0
(25)	1999頃	鉛筆、水彩・ポストカード	16.3×11.0
(26)	2000	鉛筆、水彩・紙	18.0×12.7
(27)	2000	鉛筆、水彩・紙	19.0×13.0
(28)	2000	鉛筆、水彩・紙	14.8×10.0
(29)	2000	鉛筆、水彩・紙	14.8×10.0
(30)	2000	鉛筆、水彩・紙	14.8×10.0
(31)	2000頃	鉛筆、水彩・官製はがき	14.8×9.9
(32)	2000頃	鉛筆、水彩・官製はがき	14.8×9.9
(33)	2000頃	鉛筆、水彩・紙	14.4×10.0
(34)	2001	鉛筆、水彩・紙	14.8×10.0
(35)	2001	鉛筆、水彩・紙	14.8×10.0
(36)	2001	鉛筆、水彩・紙	14.9×10.5
(37)	2001頃	鉛筆、水彩・ポストカード	15.0×10.5
(38)	2001	鉛筆、水彩・紙	14.9×10.0
(39)	2001	鉛筆、水彩・紙	14.9×10.0
(40)	2001頃	鉛筆、水彩・紙	14.8×10.5
(41)	2010	鉛筆、水彩・紙	14.8×10.0
(42)	2010	鉛筆、水彩・紙	14.0×10.0
(43)	2010頃	鉛筆、水彩・紙	9.8×14.8
(44)	2011	鉛筆、水彩・紙	9.8×14.1
(45)	不詳	鉛筆、水彩・紙	17.7×12.5
(46)	不詳	鉛筆、水彩・紙	18.6×12.7
(47)	不詳	鉛筆、水彩・紙	17.6×12.5
(48)	不詳	鉛筆、水彩・紙	17.6×12.5
(49)	不詳	鉛筆、水彩・紙	18.2×12.5
(50)	不詳	鉛筆、水彩・紙	17.5×13.0
(51)	不詳	鉛筆、水彩・紙	12.5×17.6
(52)	不詳	鉛筆、水彩・紙	17.6×12.5
(53)	不詳	鉛筆、水彩・紙	17.5×12.4
(54)	不詳	鉛筆、水彩・紙	17.3×12.3
(55)	不詳	鉛筆、水彩・紙	17.5×12.8





156. 田口安男

「Diaries」

1972-87

鉛筆、色鉛筆、インク・紙（全18冊）

受贈 田口安男

2016-157

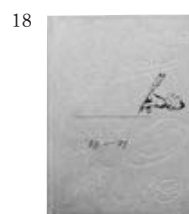
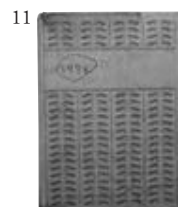
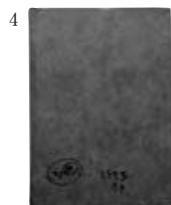
1 のおと 1973（明治団地） 1973 19.6×13.7

2 Diary 1972-73（平、伊豆） 1972-73 20.8×15.4

3 Diary 1973（古美研） 1973 20.8×15.3



4 Diary 1973-1974	1973-74	21.5×15.5
5 Diary 1974	1974	21.5×15.2
6 White Diary 1974	1974	21.5×15.2
7 White Diary 1975	1975	21.6×15.2
8 White Diary 1976	1976	21.6×15.5
9 White Diary 1977	1977	21.5×15.5
10 White Diary 1978	1978	21.6×15.3
11 Diary 1977-1978	1977-78	21.4×15.3
12 White Diary 1979	1979	21.6×15.5
13 White Diary 1980	1980	21.5×15.5
14 White Diary 1981	1981	21.6×15.5
15 White Diary 1982	1982	21.5×15.5
16 Diary 1983 手	1983	21.5×15.3
17 Diary 1984	1984	18.7×13.0
18 Diary 1984-1987	1984-87	21.0×15.4



《立体作品》

1. 川島清

水量一ケヤキの根
2005
鉄、鉛、木、油土、
ラバー
55×61×90
受贈 川島清
2016-1



いわき市立美術館条例 いわき市立美術館管理規則

いわき市立美術館条例

昭和58年12月27日 いわき市条例第58号

(設置)

第1条 美術に関する市民の知識及び教養の向上を図り、市民文化の発展に寄与するため博物館法(昭和26年法律第285号。第10条において「法」という。)第18条の規定により、美術館を設置する。

(名称及び位置)

第2条 美術館の名称及び位置は、次のとおりとする。

名 称	位 置
いわき市立美術館	いわき市平字堂根町4番地の4

(事業)

第3条 いわき市立美術館(以下「美術館」という。)は、その目的を達成するため、次に掲げる事業を行う。

- (1) 美術作品その他の美術に関する資料(以下「美術作品等」という。)を収集し、保管し、及び展示すること。
- (2) 美術に関する調査及び研究を行うこと。
- (3) 美術に関する展覧会、講演会、講習会、映写会等を開催すること。
- (4) 前3号に掲げるもののほか、美術館の設置の目的を達成するために必要な事業

(観覧料)

第4条 美術館の常設展(美術作品等の常設展示をいう。以下同じ。)を観覧しようとする者は、別表第1に定める観覧料を納付しなければならない。ただし、美術館の特別展(常設展以外の展示をいう。以下同じ。)と併せて観覧する場合又は国民の祝日に関する法律(昭和23年法律第178号)第2条に規定する国民の祝日において観覧する場合は、この限りでない。

2 特別展を観覧しようとする者は、別表第2に定める額の範囲内において、市長が定める観覧料を納付しなければならない。

(撮影等の許可及び料金)

第5条 学術研究等のため、美術館に展示され、又は保管されている美術作品等の写真撮影、模写又は模造等をしようとする者は、教育委員会の許可を受けなければならない。

2 前項の許可を受けた者は、別表第3に定める撮影等料金を納付しなければならない。

(観覧料等の免除)

第6条 市長は、次の各号の一に該当すると認めるときは、観覧料(常設展に係るものに限る。)又は撮影等料金を免除することができる。

- (1) 外国人留学生が、福島県の実施する外国人留学生文化施設等無料観覧制度に基づき観覧するとき。
- (2) 国又は地方公共団体が行う教育、学術又は文化に係る事業の用に供するため撮影等をするとき。

(観覧料等の不返還)

第7条 既納の観覧料又は撮影等料金は、返還しない。ただし、市長は、災害その他不可抗力により、観覧又は撮影等をするのができなくなったときは、既納の観覧料又は撮影等料金を返還することができる。

(入館の制限)

第8条 教育委員会は、美術館に入館しようとする者又は入館している者が次の各号の一に該当すると認めるときは、入館を制限し、又は館外へ退館させることができる。

- (1) 他人に危害を加え、又は迷惑を及ぼすおそれがあるとき。
- (2) 施設、設備又は美術作品等を損傷するおそれがあるとき。

(3) 前2号に掲げるもののほか、美術館の管理に支障があると認めるとき。

(賠償責任)

第9条 入館者は、施設、設備又は美術作品等を損傷し、又は滅失したときは、教育委員会の指示するところに従い、その損害を賠償し、又はこれを原状に回復しなければならない。ただし、市長は、相当の理由があると認める場合は、その全部又は一部を免除することができる。

(美術館協議会)

第10条 法第20条第1項の規定に基づき、いわき市立美術館協議会(以下「協議会」という。)を置く。

2 協議会の委員は、学校教育及び社会教育の関係者、家庭教育の向上に資する活動を行う者並びに学識経験のある者のうちから、教育委員会が委嘱する。

3 協議会は、委員15人以内で組織する。

4 協議会の委員の任期は、2年とする。ただし、補欠の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

5 協議会の組織及び運営に関し必要な事項は、教育委員会規則で定める。

(委任)

第11条 この条例に定めるもののほか、この条例の施行に関し必要な事項は、教育委員会が別に定める。

附 則

この条例は、昭和59年4月28日から施行する。ただし、第1条から第3条まで、第10条及び第11条の規定は、昭和59年4月1日から施行する。

(略)

附 則(平成25年12月26日いわき市条例第67号)

この条例は、平成26年4月1日から施行する。

別表第1(第4条関係)

区 分	観 覧 料	
	個 人	団 体
一般	210円	170円
高校生、高等専門学校生、大学生	150円	110円
小学生、中学生	70円	50円

備考 団体とは、20人以上をいう。

別表第2(第4条関係)

区 分	観 覧 料	
	個 人	団 体
一般	1,500円	1,200円
高校生、高等専門学校生、大学生	740円	590円
小学生、中学生	440円	350円

備考 団体とは、20人以上をいう。

別表第3(第5条関係)

区 分		料 金	
写真撮影	モノクローム	1点1回につき	1,620円
	カラー	1点1回につき	3,240円
模写、模造		1点1日につき	2,160円
熟覧、拓本		1点1回につき	210円

備考 ^{びょう}1 屏風は、1双を1点とする。
2 1そろいの卷子(巻物をいう。)は、1巻を1点とする。
3 対幅は、1幅を1点とする。
4 撮影は、同一作品について原板3枚以内を1回とする。

いわき市立美術館管理規則

昭和59年3月31日 いわき市教育委員会規則第6号

(趣旨)

第1条 この規則は、いわき市立美術館条例(昭和58年いわき市条例第58号。以下「条例」という。)の規定に基づき必要な事項を定めるものとする。

(組織)

第2条 いわき市立美術館(以下「美術館」という。)に、次の課及び係を置く。

庶務課 庶務係

学芸課 学芸係、普及係

(事務分掌)

第3条 課の事務分掌は、次のとおりとする。

庶務課

- (1) 公印の保管に関する事。
- (2) 予算の経理に関する事。
- (3) 美術館の維持管理に関する事。
- (4) 観覧料及び撮影等料金の徴収に関する事。
- (5) 統計に関する事。
- (6) 美術館協議会に関する事。
- (7) 前各号に掲げるもののほか、学芸課の所掌に属しない事務に関する事。

学芸課

- (1) 美術作品等の収集、保管及び展示に関する事。
- (2) 美術に関する専門的な調査研究に関する事。
- (3) 展覧会、研究会、講演会、映写会等の開催に関する事。
- (4) 美術に関する案内書、解説書、目録等の刊行に関する事。
- (5) 美術作品等の利用に関する助言及び指導に関する事。
- (6) 美術作品等の寄贈及び寄託に関する事。
- (7) 前各号に掲げるもののほか、学芸事務に関する事。

(職及び職務)

第4条 美術館に館長、副館長、課に課長、係に係長を置き、必要に応じ、参事、主幹、主任主査、専門学芸員、主査、主任学芸員、事務主任、主事、学芸員、主任運転手及び運転手を置く。

- 2 館長は、上司の命を受け、館務を掌理し、所属職員を指揮監督する。
- 3 参事は、上司の命を受け、美術館事務に関する企画及び調整に参画する。
- 4 副館長は、館長の職務遂行を補佐し、館長に事故があるときは、その職務を代理する。
- 5 主幹は、上司の命を受け、館長が定める特定の事務を掌理する。
- 6 課長は、上司の命を受け、課の事務を処理する。
- 7 係長は、上司の命を受け、係の事務を処理する。
- 8 主任主査は、上司の命を受け、館長が定める特定の事務を処理する。
- 9 専門学芸員は、上司の命を受け、館長が定める特定の専門的な事務を処理する。
- 10 主査は、上司の命を受け、美術館の事務の一部を分担処理する。
- 11 主任学芸員は、上司の命を受け、係の事務のうち特定の事務を処理する。
- 12 事務主任は、上司の命を受け、係の事務の一部を分担処理する。
- 13 主事は、上司の命を受け、事務をつかさどる。
- 14 学芸員は、上司の命を受け、専門的な事務を処理する。
- 15 主任運転手は、上司の命を受け、担任の自動車運転の業務を処理する。

16 運転手は、上司の命を受け、自動車運転の業務に従事する。

(休館日)

第5条 美術館の休館日は、次の各号に掲げる日とする。ただし、教育委員会は、必要があると認めるときは、これを変更し、又は臨時に休館することができる。

(1) 月曜日(その日が国民の祝日に関する法律(昭和23年法律第178号)に規定する休日に当たるときは、その日後のその日に最も近い休日でない日)

(2) 1月1日から同月4日まで及び12月28日から同月31日まで

(開館時間)

第6条 美術館の開館時間は、午前9時30分から午後5時(入館は、午後4時30分)までとする。ただし、毎年7月及び8月の金曜日については、午前9時30分から午後8時(入館は、午後7時30分)までとする。

2 教育委員会は、必要があると認めるときは、これを臨時に変更することができる。

(観覧券の交付)

第7条 条例第4条の規定により、観覧料を納付した者に対して観覧券(第1号様式)を交付しなければならない。

(撮影等の許可及び料金)

第8条 条例第5条第1項に規定する撮影、模写又は模造等(以下「撮影等」という。)をしようとする者は撮影等許可申請書(第2号様式)を教育委員会に提出しなければならない。

2 教育委員会は、撮影等を許可したときは、撮影等許可書(第3号様式)を交付する。

(観覧料等の減免)

第9条 条例第6条第2号又はいわき市障害者、高齢者及び児童生徒等の利用に係る公の施設の使用料の減免に関する条例(平成13年いわき市条例第56号)第5条第1項の規定により観覧料又は撮影等料金の減免を受けようとするときは、観覧料・撮影等料金減免申請書(第4号様式)を教育委員会に提出しなければならない。

2 教育委員会は、前項の規定による申請があった場合において、観覧料又は撮影等料金の減免を決定したときは、観覧料・撮影等料金減免通知書(第5号様式)を交付する。

(観覧料等の返還)

第10条 条例第7条の規定により観覧料又は撮影等料金の返還を受けようとする者は、その理由を記載した観覧料・撮影等料金返還申請書(第6号様式)を教育委員会に提出しなければならない。

(美術館協議会の会長及び副会長)

第11条 条例第10条に規定するいわき市立美術館協議会(以下「協議会」という。)に会長及び副会長各1人を置き、それぞれ委員の互選により定める。

2 会長は、会務を総理し、協議会を代表する。

3 副会長は、会長を補佐し、会長に事故があるとき、又は欠けたときは、その職務を代理する。

(会議)

第12条 協議会の会議は、会長が招集し、会長が会議の議長となる。

2 協議会の会議は、委員の過半数が出席しなければ開くことができない。

3 協議会の会議の議事は、出席委員の過半数で決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

(事務処理及び服務)

第13条 美術館における事務処理及び服務については、いわき市教育委員会事務局処務規程(昭和47年いわき市教育委員会訓令第2号)に基づく事務処理及び服務の例による。

(委任)

第14条 この規則に定めるもののほか、この規則の施行に関し、必要な事項は、教育長が別に定める。

附 則

この規則は、昭和59年4月1日から施行する。ただし、第5条から第10条までの規定は、昭和59年4月28日から施行する。

(略)

附 則(平成22年3月31日いわき市教委規則第5号)

この規則は、平成22年4月1日から施行する。

第1号様式（第7条関係）

その1

常 設 展 観 覧 券	(切)	常 設 展 観 覧 券
金 額 取	線	金 額
いわき市立美術館	この券をもって領収に代えます。	いわき市立美術館

その2

特 別 展 観 覧 券	(切)	特 別 展 観 覧 券	(切)	常 設 展 観 覧 券
金 額 取	線	金 額 取	線	
いわき市立美術館	この券をもって領収に代えます。	いわき市立美術館		

備考 1 寸法、デザイン等については、その都度定める。
2 観覧券の区分は、一般、高校生・高等専門学校生・大学生及び小学生・中学生とする。

第2号様式（第8条関係）

第2号様式（第8条関係）

撮 影 等 許 可 申 請 書

いわき市教育委員会殿

年 月 日

注 太枠線のみ記入してください。

第 号 年 月 日許可	申請者	住所又は所在地
		氏名又は名称及び代表者
		電話 ー
美術作品の名称	作者名	点数
日時 年 月 日 時 分から 時 分まで		
目的		
方法 撮影 模写 模造 熟覧 拓本		
料 金	撮 影	モノクローム 点 円 計
		カラー 点 円
		模写・模造 点 円
		熟覧・拓本 点 円
		館長 副館長 課長 係長 係

第3号様式（第8条関係）

第3号様式（第8条関係）

撮 影 等 許 可 書

殿

いわき市教育委員会

下記のとおり撮影等を許可します。

第 号 年 月 日許可		
美術作品の名称	作者名	点数
日時 年 月 日 時 分から 時 分まで		
目的		
方法 撮影 模写 模造 熟覧 拓本		
料 金	撮 影	モノクローム 点 円 計
		カラー 点 円
		模写・模造 点 円
		熟覧・拓本 点 円
指示事項		

第 4 号様式（第 9 条関係）

観覧料
撮影等料金

減免申請書

いわき市教育委員会

年 月 日

住所（所在地）

申請者 氏名（名称及び代表者氏名）

電話番号

担当者氏名

注意 太枠の中だけ記入してください。

観覧日時		撮影等日時					
年 月 日	時 分から 時 分まで	年 月 日	時 分から 時 分まで				
区 分	常設展	特別展	撮 影 等				
一 般	人	人	写真撮影 モノクローム 点				
高 校 生	人	人	カ ラ ー 点				
高等専門学校生	人	人	模 写 ・ 模 造 点				
大 学 生	人	人	熟 覧 ・ 拓 本 点				
小 学 生	人	人	計 点				
計	人	人	減免申請の理由				
☐ 減免する。		減免しない理由	納付すべき観覧料等 円				
☐ 減免しない。			減 免 率				
			減免後の観覧料等 円				
			起 案 年 月 日				
		決 裁 年 月 日	施 行 年 月 日				
		館長	副館長	課長	係長	係員	許可番号 第 号

第 5 号様式（第 9 条関係）

観覧料
撮影等料金

減免通知書

様

年 月 日

いわき市教育委員会 印

申請年月日		許可番号	
年 月 日	第 号		
観覧日時		撮影等日時	
年 月 日 時 分から 時 分まで		年 月 日 時 分から 時 分まで	
区 分	常設展	特別展	撮 影 等
一 般	人	人	写真撮影 モノクローム 点
高 校 生	人	人	カ ラ ー 点
高等専門学校生	人	人	模 写 ・ 模 造 点
大 学 生	人	人	熟 覧 ・ 拓 本 点
小 学 生	人	人	計 点
計	人	人	減免率
減免率		減免後の観覧料	
減免後の観覧料		減免後の撮影等料金	

第 6 号様式（第10条関係）

観覧料
撮影等料金

返還申請書

いわき市教育委員会殿

下記のとおり 観覧料
撮影等料金 の返還を受けたいので申請します。

年 月 日

住所又は所在地

氏名又は名称及び代表者

電話 ー

注 太枠線のみ記入してください。

第 号 年 月 日許可

申請理由

既納観覧料等

観覧料 枚 円

撮影料等 枚 円

返還申請金額 円

館長 副館長 課長 係長 係

事業経過報告

平成29年3月31日現在

展 覧 会 名		開催期間 (日数)	料 金						入 場 者 数								28 年 度 計
			一 般			団 体			一 般			団 体			招待	無料	
			一般	高大	小中	一般	高大	小中	一般	高大	小中	一般	高大	小中			
常 設 展	美術館へようこそ ～絵画のすがた～	4/1～9/25 155日間	210	150	70	170	110	50	367	30	26	76	0	0	453	7,023	7,975
	美術館へようこそ ～アートの新境地～	9/27～3/31 153日間	210	150	70	170	110	50	426	24	9	47	0	0	140	3,698	4,344
	常 設 展 計 (A) 308日間								793	54	35	123	0	0	593	10,721	12,319
企 画 展	女性を描く ークールベ、ルノワールからマティスまでー	4/16～5/29 39日間	1,200	500	300	960	400	240	2,325	61	214	88	0	0	274	4,386	7,348
	田口安男 ー描線と色彩の間ー	6/10～7/10 27日間	600	300	200	480	240	160	295	8	2	54	60	0	188	769	1,376
	明治有田 超絶の美 万国博覧会の時代	7/23～9/4 39日間	1,000	500	300	800	400	240	1,161	37	32	89	1	0	167	2,817	4,304
	ニューアートシーン・ イン・いわき 久保木桂子展	9/17～10/23 32日間	無 料													8,204	8,204
	招き猫亭コレクション 猫まみれ展	9/17～10/23 32日間	800	400	200	640	320	160	3,898	97	171	175	1	29	300	3,144	7,815
	川島清 彫刻の黙示 路傍・淵・水量	11/3～12/11 34日間	800	400	200	640	320	160	164	14	2	52	37	0	124	387	780
	いわき市小・中学生 版画展	1/5～1/29 22日間	無 料													4,977	4,977
	第46回いわき市民 美術展覧会 (書の部)	2/10～2/19 9日間	無 料													928	928
	(絵画・彫塑の部)	2/24～3/5 9日間	無 料													2,183	2,183
(陶芸の部・写真の部)	3/10～3/19 9日間	無 料													2,130	2,130	
企 画 展 計 (B)								7,843	217	421	458	99	29	1,053	29,925	40,045	
展 覧 会 事 業 計 (A + B)								8,636	271	456	581	99	29	1,646	40,646	52,364	
普 及 事 業 計												(詳細は次頁参照)			4,508	4,508	
合 計								8,636	271	456	581	99	29	1,646	15,154	46,872	

普及事業報告

事業名	内 容 等	講 師 等	月 日	人数
講 演 会	女性を描くークールベからマティスまで	フランソワ・パリガン（美術史家）	4月16日	25
	田口安男の芸術	谷 新（美術評論家）	6月26日	25
	明治有田 超絶の美	鈴田由紀夫（佐賀県立九州陶磁文化館館長）	7月23日	35
	ニューアートシーンインいわき アーティスト・トーク	久保木桂子（日本画家）	9月17日	18
	猫の絵画・猫の解剖学	布施英利（美術批評家）	10月2日	18
	川島清の作品	川島清（彫刻家）	11月23日	32
小 計				153
美 術 講 座	館長講座（6回）	当館館長	4月29日～2月25日	139
小 計				139
ギャラリー・トーク	常設展	当館学芸員	毎週土曜日（52回開催）	39
	女性を描くークールベ、ルノワールからマティスまでー	当館学芸員	4月30日、5月14日	55
	田口安男 描線と色彩の間	当館学芸員	7月9日	25
	川島清 彫刻の黙示 路傍・淵・水量	当館学芸員	11月13日、27日	8
	団体解説	当館学芸員	通年、随時（20回）	800
小 計				927
実 技 講 座	有田焼絵付け体験講座「古伊万里の紅葉」	有坂多絵子（陶磁器絵付け一級技能士） 山口清一郎（陶芸研究企画デザイン職員）	8月28日	32
	日本画材で猫に挑戦	久保木桂子（日本画家）	9月24日、25日	14
	キャットカーヴィングの技法で作る招き猫&ブローチ	西誠人（彫刻家）	10月15日、16日（3回）	17
	風とあそぶ！	大隅秀雄（彫刻家）	1月28日、29日	6
	フタバシンブンガムテリウ	関口光太郎（造形作家）	3月25日、26日	32
	新聞紙とガムテープで首長竜をつくろう！（2回）			
小 計				101
公 開 制 作 （ 公 開 講 座 ）	フタバシンブンガムテリウ 新聞紙とガムテープで首長竜をつくろう！（2回）	関口光太郎（造形作家）	3月25日、26日	32
小 計				32
ワークショップ	かおのドローイング	当館スタッフ	6月10日～7月10日 （19回開催）	85
	2016年、夏。美術館的自由研究のススメ	当館学芸員	8月5日～7日（3日間）	13
	かんたん！版画体験コーナー 「フロッタージュでオリジナルカードを作ろう」	当館スタッフ	1月5日～29日（22回開催）	1245
	わくわくアートスクール 「パンの木版画」	彦坂木版工房（彦坂有紀、もりといずみ）	1月7日、8日（3回開催）	14
	収蔵作家ワークショップ（2回）	高田洋一（彫刻家）	2月17日～19日	130
小 計				1,487
コ ン サ ー ト & パ フ ォ ー マ ン ス	馬喰町バンド・美術館ライブ	馬喰町バンド	10月9日	120
	春を祝うコンサート&パフォーマンス 「おめでとう！春」	盛名劇団かもめ	1月9日	50
小 計				170
映 像 鑑 賞 会				
小 計				-
移 動 美 術 館	アートキャラバン2016（全53回）			
	エッシャーのように絵を描こう “うずめ模様”で楽しいアート体験（2回）	安斉重夫（彫刻家）	5月10日、9月10日	45
	切り絵・切り紙の楽しい世界（18回）	当館学芸員	5月12日～1月21日	350
	展覧会を10倍楽しむ方法（9回）	当館学芸員	5月20日～11月17日	257
	お茶のおいしさ、お茶の楽しみ（4回）	梶塚宏之（日本茶インストラクターリーダー） 高原あかね（日本茶アドバイザー）	6月3日～11月19日	66
	ベットボトル工作を楽しもう（2回）	当館学芸員	6月11日、8月5日	28
	世界にひとつだけのグラスアート（6回）	当館学芸員	6月14日～11月11日	137
	岩絵具で遊んじゃおう（8回）	当館学芸員	6月15日～12月17日	163
	色のはなし・色の使い方	当館学芸員	6月21日	23
	コロコロオブジェ	当館学芸員	11月12日	13
	豆本にチャレンジ	当館学芸員	11月18日	7
	セミナー 色・再発見	当館学芸員	12月6日	16
小 計				1,105
実技講習室開放	実技講座参加経験者による自己研鑽補助、実技相談等		4月～	69
小 計				69
共 催 事 業	裸婦デッサン会	美術協会の会、いわき市美術協会	10月8日～10月9日	51
	市美展書の部席上揮毫	市美展書の部招待作家	2月12日	50
	市美展書の部審査員による作品解説会	市美展書の部審査員	2月12日	15
	市美展絵画・彫塑の部招待作家による入選作品批評会	市美展絵画・彫塑の部招待作家	2月25日	18
	市美展陶芸の部呈茶会	表千家同門会福島県支部浜方部	3月11日	71
	市美展陶芸の部タッチコーナー	市美展陶芸部会員	3月12日	60
	市美展写真の部招待作家による入賞作品解説会	市美展写真部会員	3月12日	60
小 計				325
合 計				4,508

当初予算

単位：千円

項 目	金 額	備 考
人 件 費	83,318	
管 理 費	112,582	
施 設 管 理 費	81,393	
作 品 購 入 費		
施 設 整 備 費	31,189	
事 業 費	71,236	
企画展示事業費	66,991	
常設展示事業費	882	
教育普及事業費	2,886	
調 査 研 究 費	477	
計	267,136	

A. 美術館協議会
B. 美術品選定評価委員
C. 美術館職員

A. 美術館協議会委員名簿

任期：平成28年4月1日～平成30年3月31日

役職	氏 名	職 業（役職名）
委 員	齋藤 一彦	一般社団法人いわき観光まちづくりビューロー 会長
委 員	三室 千鶴子	いわき女性の会元会長
委 員	坂本 美知子	株式会社いわき市民コミュニティ放送
委 員	蛭田 誠	いわき美術協会
委 員	鳥海 陽太郎	いわき地域学会 幹事
委 員	蛭田 光一	いわき青年会議所事務局次長
委 員	相沢 とし子	国際ソロプチミストいわき会長
委 員	織田 千代	美術家
委 員	草野 怜子	美術家
委 員	峰 丘	いわき市立美術館友の会 会長
委 員	鈴木 廣美	いわき市小学校教育研究会図画工作部会 部長
委 員	野地 かおる	いわき市中学校教育研究会美術専門部会 部長
委 員	土屋 裕子	福島県高等学校教育研究会美術工芸専門部会いわき支部長
委 員	鎌田 真理子	いわき明星大学教授
委 員	松田 文子	いわき市子ども会育成会連絡協議会事務局長

【博物館法】

第21条 博物館協議会の委員は、学校教育及び社会教育の関係者、家庭教育の向上に資する活動を行うもの並びに学識経験を有する者の中から当該博物館を設置する地方公共団体の教育委員会が任命する。

C. 職員名簿

平成28年4月1日現在

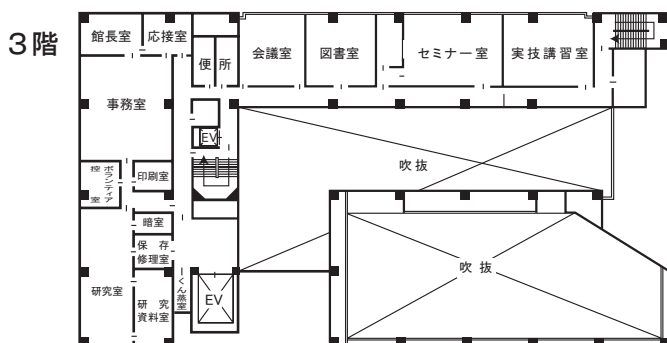
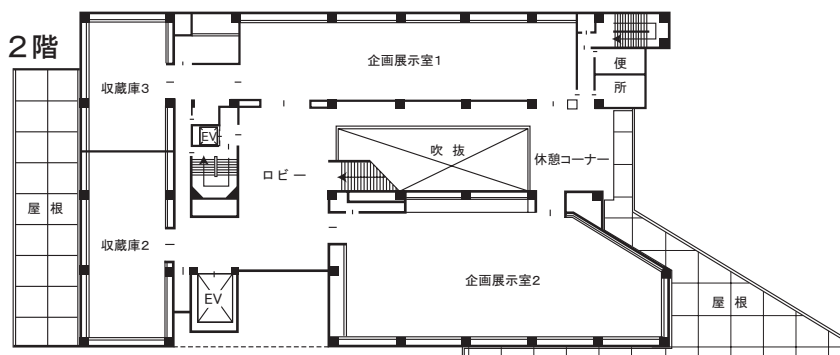
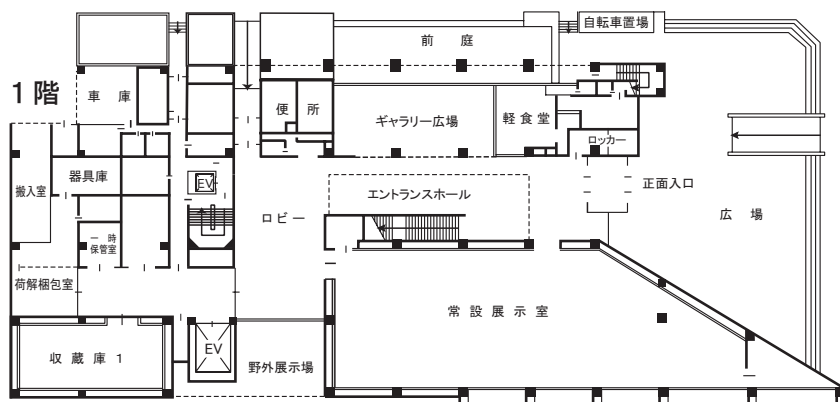
	職 員	氏 名
	参 与（兼）館 長⑩	佐々木 吉 晴
	副 館 長（併 任）	平 野 明 彦
《 庶 務 課 》	課 長⑩	高 沢 浩 子
庶 務 係	係 長（兼）	高 沢 浩 子
	主 査	宇佐美 千 恵
	事 務 主 任	鈴 木 浩 美
《 学 芸 課 》	主 幹（兼）課 長⑩	杉 浦 友 治
学 芸 係	係 長（兼）	杉 浦 友 治
	主 任 学 芸 員	秋 葉 啓 子
普 及 係	主任主査（兼）係長⑩	石 川 百合子
	専 門 学 芸 員	植 田 玲 子
	学 芸 員	江 尻 英 貴
	学 芸 員（再任用・短）	堀 越 達 雄

B. 美術品選定評価委員会委員名簿

任期：平成28年4月1日～平成30年3月31日

役職	氏 名	職 業（役職名）
	谷 新	美術評論家 宇都宮美術館長
	北郷 悟	彫刻家 東京藝術大学理事・教授
委員長	市川 政憲	美術評論家
副委員長	清水 真砂	世田谷美術館分館長
	小勝 禮子	美術評論家
	荒木 康子	福島県立美術館専門学芸員

平 面 図



管 理 ・ 運 営 利 用 案 内

●開館時間

午前9時30分～午後5時(展示室への入場は午後4時30分まで)

7、8月の毎週金曜日は、夜8時まで開館。(展示室への入場は午後7時30分まで)

●休館日

毎週月曜日(ただし月曜日が祝日等の場合は開館し、翌日休館)

年末年始(12月28日～1月4日)

●観覧料

	常 設 展	企 画 展 (その都度定める)
一 般	210 円 (170 円)	1,500 円 (1,200 円) 以内
高・高専・大学生	150 円 (110 円)	740 円 (590 円) 以内
小・中 学 生	70 円 (50 円)	440 円 (350 円) 以内

※ () 内は、20 名以上の団体割引料金。

※企画展チケットで常設展もご覧になれます。

●企画展・常設展が無料になる場合

- ・市内在住の65歳以上の方は、企画展・常設展無料
- ・身体障がい者手帳、精神障がい者保健福祉手帳のいずれかをお持ちの方は、企画展・常設展無料
- ・土曜日、日曜日に限り、市内の小学校、中学校、高等学校、専修学校、高等専門学校に在学の方は、企画展・常設展無料
- ・祝日は、常設展無料

●図書室の利用時間

午前9時30分～午後5時

7月、8月の毎週金曜日は午後8時まで

●実技講習室の利用時間

午前9時30分～午後4時45分

7月、8月の毎週金曜日は夜7時45分まで

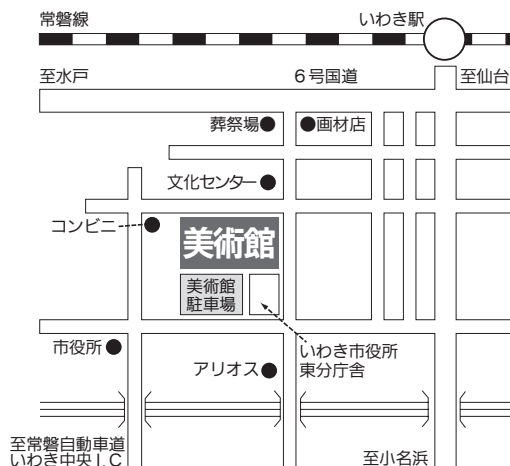
●交 通

J R常磐線、磐越東線いわき駅より徒歩12分

常磐自動車道、磐越自動車道いわき中央 I C より10分

駐車場：美術館駐車場、他 いわき市公共駐車場

●地 図



平成28年度
いわき市立美術館年報

編集・発行
いわき市立美術館
〒970-8026 いわき市平字堂根町4-4